

Vostro 3584

サービスマニュアル



メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

© 2019 年 Dell Inc. またはその関連会社。。Dell、EMC、およびその他の商標は、Dell Inc. またはその子会社の商標です。その他の商標は、それぞれの所有者の商標である場合があります。

1 コンピュータ内部の作業	6
安全にお使いいただくために.....	6
コンピュータ内部の作業を始める前に.....	6
ESD (静電気放出) 保護.....	7
ESD フィールド・サービス・キット.....	7
敏感なコンポーネントの輸送.....	8
コンピュータ内部の作業を終えた後に.....	8
2 テクノロジとコンポーネント	10
DDR4.....	10
HDMI 1.4.....	11
USB の機能.....	12
インテル Optane メモリ.....	13
インテル Optane メモリの有効化.....	14
インテル Optane メモリの無効化.....	14
3 コンポーネントの取り外しと取り付け	15
推奨ツール.....	15
ネジのリスト.....	15
SD カード.....	16
SD カードの取り外し.....	16
SD カードの取り付け.....	16
ベースカバー.....	17
ベースカバーの取り外し.....	17
ベースカバーの取り付け.....	19
バッテリー.....	20
リチウムイオンバッテリーに関する注意事項.....	20
バッテリーの取り外し.....	21
バッテリーの取り付け.....	21
メモリモジュール.....	22
メモリモジュールの取り外し.....	22
メモリモジュールの取り付け.....	23
WLAN カード.....	24
WLAN カードの取り外し.....	24
WLAN カードの取り付け.....	25
ソリッドステートドライブ/インテル Optane.....	26
M.2 2280 ソリッドステートドライブまたはインテル Optane メモリ (オプション) の取り外し.....	26
M.2 2280 ソリッドステートドライブまたはインテル Optane メモリ (オプション) の取り付け.....	27
M.2 2230 ソリッドステートドライブの取り外し.....	28
M.2 2230 ソリッドステートドライブの取り付け.....	29
コイン型電池.....	31
コイン型電池の取り外し.....	31
コイン型電池の取り付け.....	31
ハードドライブアセンブリー.....	32

ハードドライブアセンブリの取り外し.....	32
ハードドライブアセンブリの取り付け.....	33
ハードドライブ.....	34
ハードドライブの取り外し.....	34
ハードドライブの取り付け.....	35
システムファン.....	36
システムファンの取り外し.....	36
システムファンの取り付け.....	38
ヒートシンク.....	40
ヒートシンクの取り外し.....	40
ヒートシンクの取り付け.....	40
スピーカー.....	41
スピーカーの取り外し.....	41
スピーカーの取り付け.....	42
IO ボード.....	43
IO ボードの取り外し.....	43
IO ボードの取り付け.....	45
タッチパッド.....	46
タッチパッドアセンブリの取り外し.....	46
タッチパッドアセンブリの取り付け.....	48
ディスプレイアセンブリ.....	50
ディスプレイアセンブリの取り外し.....	50
ディスプレイアセンブリの取り付け.....	53
電源ボタンボード.....	55
電源ボタン基板の取り外し.....	55
電源ボタン基板の取り付け.....	56
電源ボタン.....	56
電源ボタンの取り外し.....	56
電源ボタンの取り付け.....	57
システム基板.....	58
システム基板の取り外し.....	58
システム基板の取り付け.....	60
電源アダプタポート.....	63
電源アダプタポートの取り外し.....	63
電源アダプタポートの取り付け.....	64
ディスプレイベゼル.....	64
ディスプレイベゼルの取り外し.....	64
ディスプレイベゼルの取り付け.....	65
カメラ.....	66
カメラの取り外し.....	66
カメラの取り付け.....	67
ディスプレイパネル.....	68
モニターパネルの取り外し.....	68
モニターパネルの取り付け.....	70
ディスプレイヒンジ.....	72
ディスプレイヒンジの取り外し.....	72
ディスプレイヒンジの取り付け.....	73
ディスプレイケーブル.....	74
モニターケーブルの取り外し.....	74
モニターケーブルの取り付け.....	75

ディスプレイ背面カバーとアンテナアセンブリ	76
ディスプレイ背面カバーの取り外し	76
ディスプレイ背面カバーの取り付け	78
パームレストとキーボードアセンブリ	78
パームレストとキーボードアセンブリーの取り外し	78
4 トラブルシューティング	80
ePSA (強化された起動前システムアセスメント) 診断	80
ePSA 診断の実行	80
システム診断ライト	80
BIOS のフラッシュ (USB キー)	81
BIOS のフラッシュ	81
バックアップメディアと回復オプション	82
Wi-Fi 電源の入れ直し	82
待機電力の放出	82
5 ヘルプ	83
デルへのお問い合わせ	83

コンピュータ内部の作業

安全にお使いいただくために

前提条件

身体の安全を守り、コンピュータを損傷から保護するために、次の安全に関する注意に従ってください。特記がない限り、本書に記載される各手順は、以下の条件を満たしていることを前提とします。

- ・ コンピュータに付属の「安全に関する情報」を読んでいること。
- ・ コンポーネントは交換可能であり、別売りの場合は取り外しの手順を逆順に実行すれば、取り付け可能であること。

このタスクについて

① メモ: コンピューターのカバーまたはパネルを開ける前に、すべての電源を外してください。コンピュータ内部の作業が終わったら、カバー、パネル、ネジをすべて取り付けてから、電源に接続します。

⚠ 警告: コンピューター内部の作業を始める前に、お使いのコンピュータに付属しているガイドの安全にお使いいただくための注意事項をお読みください。その他、安全にお使いいただくためのベストプラクティスについては、[法令遵守のホームページ](#)を参照してください。

⚠ 注意: 修理作業の多くは、認定されたサービス技術者のみが行うことができます。製品マニュアルで許可されている範囲に限り、またはオンラインサービスもしくは電話サービスとサポートチームの指示によってのみ、トラブルシューティングと簡単な修理を行うようにしてください。デルが許可していない修理による損傷は、保証できません。製品に付属しているマニュアルの「安全にお使いいただくために」をお読みになり、指示に従ってください。

⚠ 注意: 静電気による損傷を避けるため、静電気防止用リストバンドを使用するか、コンピュータの裏面にあるコネクタに触れる際に塗装されていない金属面に定期的に触れて、静電気を身体から除去してください。

⚠ 注意: コンポーネントとカードは丁寧に取り扱いってください。コンポーネント、またはカードの接触面に触らないでください。カードは端、または金属のマウンティングブラケットを持ってください。プロセッサなどのコンポーネントはピンではなく、端を持ってください。

⚠ 注意: ケーブルを外すときは、コネクタまたはプルタブを引っ張り、ケーブル自身を引っ張らないでください。コネクタにロッキングタブが付いているケーブルもあります。この場合、ケーブルを外す前にロッキングタブを押さえてください。コネクタを引き抜く場合、コネクタピンが曲がらないように、均一に力をかけてください。また、ケーブルを接続する前に、両方のコネクタが同じ方向を向き、きちんと並んでいることを確認してください。

① メモ: お使いのコンピュータの色および一部のコンポーネントは、本書で示されているものと異なる場合があります。

コンピュータ内部の作業を始める前に

このタスクについて

コンピュータの損傷を防ぐため、コンピュータ内部の作業を始める前に、次の手順を実行してください。

手順

1. 「安全にお使いいただくための注意」を必ずお読みください。
2. コンピュータのカバーに傷がつかないように、作業台が平らであり、汚れていないことを確認します。
3. コンピュータの電源を切ります。
4. コンピュータからすべてのネットワークケーブルを外します。

△ **注意:** ネットワークケーブルを外すには、まずケーブルのプラグをコンピュータから外し、次にケーブルをネットワークデバイスから外します。

5. コンピュータおよび取り付けられているすべてのデバイスをコンセントから外します。
6. システムのコンセントが外されている状態で、電源ボタンをしばらく押して、システム基板の静電気を除去します。

! **メモ:** 静電気による損傷を避けるため、静電気防止用リストバンドを使用するか、コンピューターの裏面にあるコネクタに触れる際に塗装されていない金属面に定期的に触れて、静電気を身体から除去してください。

ESD (静電気放出) 保護

電気パーツを取り扱う際、ESD は重要な懸念事項です。特に、拡張カード、プロセッサ、メモリ DIMM、およびシステムボードなどの静電気に敏感なパーツを取り扱う際に重要です。ほんのわずかな静電気でも、断続的に問題が発生したり、製品寿命が短くなったりするなど、目に見えない損傷が回路に発生することがあります。省電力および高密度設計の向上に向けて業界が前進する中、ESD からの保護はますます大きな懸念事項となってきています。

最近のデル製品で使用されている半導体の密度が高くなっているため、静電気による損傷の可能性は、以前のデル製品よりも高くなっています。このため、以前承認されていたパーツ取り扱い方法の一部は使用できなくなりました。

ESD による障害には、「致命的」および「断続的」の 2 つの障害のタイプがあります。

- ・ **致命的** – 致命的な障害は、ESD 関連障害の約 20% を占めます。障害によりデバイスの機能が完全に直ちに停止します。致命的な障害の一例としては、静電気ショックを受けたメモリ DIMM が直ちに「No POST/No Video (POST なし/ビデオなし)」症状を起し、メモリが存在または機能しないことを示すビープコードが鳴るケースが挙げられます。
- ・ **断続的** – 断続的なエラーは、ESD 関連障害の約 80% を占めます。この高い割合は、障害が発生しても、大半のケースにおいてすぐにはそれを認識することができないことを意味しています。DIMM が静電気ショックを受けたものの、トレースが弱まっただけで、外から見て分かる障害関連の症状はすぐには発生しません。弱まったトレースが機能停止するまでには数週間または数ヶ月かかることがあり、それまでの間に、メモリ整合性の劣化、断続的メモリエラーなどが発生する可能性があります。

認識とトラブルシューティングが困難なのは、「断続的」(「潜在的」または「障害を負いながら機能」とも呼ばれる) 障害です。

ESD による破損を防ぐには、次の手順を実行します。

- ・ 適切に接地された、有線の ESD リストバンドを使用します。ワイヤレスの静電気防止用リストバンドの使用は、現在許可されていません。これらのリストバンドでは、適切な保護がなされません。パーツの取り扱い前にシャーシに触れる方法では、感度が増したパーツを ESD から十分に保護することができません。
- ・ 静電気の影響を受けやすいすべてのコンポーネントは、静電気のない場所で扱います。可能であれば、静電気防止フロアパッドおよび作業台パッドを使用します。
- ・ 静電気の影響を受けやすいコンポーネントを輸送用段ボールから取り出す場合は、コンポーネントを取り付ける準備ができるまで、静電気防止梱包材から取り出さないでください。静電気防止パッケージを開ける前に、必ず身体から静電気を放出してください。
- ・ 静電気の影響を受けやすいコンポーネントを輸送する場合は、あらかじめ静電気防止コンテナまたは静電気防止パッケージに格納します。

ESD フィールド・サービス・キット

最も頻繁に使用されるサービスキットは、監視されないフィールド・サービス・キットです。各フィールド・サービス・キットは、静電対策マット、リストストラップ、そしてボンディングワイヤーの 3 つの主要コンポーネントから構成されています。

ESD フィールド・サービス・キットのコンポーネント

ESD フィールド・サービス・キットのコンポーネントは次のとおりです。

- ・ **静電対策マット** – 静電対策マットは散逸性があるため、サービス手順の間にパーツを置いておくことができます。静電対策マットを使用する際には、リストストラップをしっかりと装着し、ボンディングワイヤーをマットと作業中のシステムの地金部分のいずれかに接続します。正しく準備できたら、サービスパーツを ESD 袋から取り出し、マット上に直接置きます。ESD に敏感なアイテムは、手のひら、ESD マット上、システム内、または ESD 袋内で安全です。
- ・ **リストストラップとボンディングワイヤー** – リストストラップとボンディングワイヤーは、ESD マットが不要な場合に手首とハードウェアの地金部分に直接接続したり、マット上に一時的に置かれたハードウェアを保護するために静電対策マットに接続したりできます。皮膚、ESD マット、そしてハードウェアをつなぐ、リストストラップとボンディングワイヤーの物理的接続をボンディングと呼びます。リストストラップ、マット、そしてボンディングワイヤーが含まれたフィールド・サービス・キットのみを使用してください。ワイヤレスのリストストラップは使用しないでください。リストストラップの内部ワイヤーは、通常の装着によって損傷が発生します。よって、事故による ESD のハードウェア損傷を避けるため、リスト・ストラップ・テスターを使用して定期的に確認する必要があります。リストストラップとボンディングワイヤーは少なくとも週に一度テストすることをお勧めします。

- ・ **ESD リスト・ストラップ・テスター** – ESD ストラップの内側にあるワイヤーは、時間の経過に伴って損傷を受けます。監視されないキットを使用する場合には、サービスコールのたびに定期的にストラップをテストすることがベストプラクティスです。最低でも週に一度テストします。テストには、リスト・ストラップ・テスターを使用することが最善です。リスト・ストラップ・テスターを所有していない場合には、地域オフィスに在庫を問い合わせてください。テストを実行するには、リストストラップを手首に装着した状態で、リストストラップのボンディングワイヤーをテスターに接続し、ボタンを押してテストを行います。テスト合格の場合には緑の LED が点灯し、テスト不合格の場合には赤い LED が点灯し、アラームが鳴ります。
- ・ **絶縁体要素** – プラスチック製のヒートシンクの覆いなど、ESD に敏感なデバイスを、高く帯電していることが多いインシュレータ内蔵パーツから遠ざけることが重要です。
- ・ **作業現場環境** – ESD フィールド・サービス・キットを配備する前に、お客様の場所の状況を評価します。たとえば、サーバ環境用にキットを配備するのと、デスクトップや携帯デバイス用にキットを配備することは異なります。サーバは通常、データセンター内のラックに設置され、デスクトップや携帯デバイスはオフィスのデスク上か、仕切りで区切られた作業場所に配置されます。物品が散乱しておらず ESD キットを広げるために十分な平らな広いエリアを探してください。このとき、修理対象のシステムのためのスペースも考慮してください。また、作業場所に ESD の原因となり得る絶縁体がないことも確認します。ハードウェアコンポーネントを実際に取り扱う前に、作業場所では常に発泡スチロールおよびその他のプラスチックなどのインシュレータは敏感なパーツから最低 30 cm (12 インチ) 離して置きます。
- ・ **静電気を防止する梱包** – すべての ESD に敏感なデバイスは、静電気の発生しない梱包材で発送および受領する必要があります。メタルアウト/静電気防止袋の使用をお勧めします。なお、損傷した部品は、新しい部品が納品されたときと同じ ESD 保護袋とパッケージを使用して返却される必要があります。ESD 保護袋は折り重ねてテープで封をし、新しい部品が納品されたときの箱に同じエアクッション梱包材をすべて入れてください。ESD に敏感なデバイスは、ESD 保護の作業場でのみパッケージから取り出すようにします。ESD 保護袋では、中身のみ保護されるため、袋の表面に部品を置かないでください。パーツは常に、手の中、ESD マット上、システム内、または静電気防止袋内にあるようにしてください。
- ・ **敏感なコンポーネントの輸送** – 交換用パーツやデルに返却するパーツなど、ESD に敏感なパーツを輸送する場合には、安全に輸送するため、それらのパーツを静電気防止袋に入れることが非常に重要です。

ESD 保護の概要


すべてのフィールドサービス技術者は、デル製品を保守する際には、従来型の有線 ESD 接地リストバンドおよび保護用の静電対策マットを使用することをお勧めします。さらに技術者は、サービスを行う際に、静電気に敏感なパーツからあらゆる絶縁体パーツを遠ざけ、静電気に敏感なパーツの運搬には静電気防止バッグを使用することが非常に重要です。

敏感なコンポーネントの輸送

交換パーツまたはデルに返送する部品など、ESD に敏感なコンポーネントを輸送する場合は、安全輸送用の静電気防止袋にこれらの部品を入れることが重要です。

装置の持ち上げ

重量のある装置を持ち上げる際は、次のガイドラインに従います。

 **注意:** 50 ポンド以上の装置は持ち上げないでください。常に追加リソースを確保しておくか、機械のリフトデバイスを使用します。

1. バランスの取れた足場を確保します。足を開いて安定させ、つま先を外に向けます。
2. 腹筋を締めます。腹筋は、持ち上げる際に背骨を支え、負荷の力を弱めます。
3. 背中ではなく、脚を使って持ち上げます。
4. 荷を身体に近づけます。背骨に近づけるほど、背中に及ぶ力が減ります。
5. 荷を持ち上げるときも降ろすときも背中を伸ばしておきます。荷に体重をかけてないでください。身体や背中をねじらないようにします。
6. 反対に荷を置くときも、同じ手法に従ってください。


コンピュータ内部の作業を終えた後に

このタスクについて

取り付け手順が完了したら、コンピュータの電源を入れる前に、外付けデバイス、カード、ケーブルが接続されていることを確認してください。

手順

1. 電話線、またはネットワークケーブルをコンピュータに接続します。

 **注意:** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

2. コンピュータ、および取り付けられているすべてのデバイスをコンセントに接続します。
3. コンピュータの電源を入れます。
4. 必要に応じて **ePSA 診断** を実行して、コンピュータが正しく動作することを確認します。

テクノロジーとコンポーネント

① **メモ:** 本セクションに記載されている手順は、**Windows 10** オペレーティングシステム搭載のコンピュータに適用されます。
Windows 10 は工場出荷時にコンピュータにインストールされています。

トピック：

- ・ DDR4
- ・ HDMI 1.4
- ・ USB の機能
- ・ インテル Optane メモリ

DDR4

DDR4 (ダブルデータレート第4世代) メモリは、DDR2 および DDR3 テクノロジーを高速化した後継メモリです。DDR3 の容量は DIMM あたり最大 128 GB ですが、DDR4 では最大 512 GB です。ユーザーが間違っただ種類のメモリをシステムに取り付けるのを避けるため、DDR4 同期ダイナミックランダムアクセスメモリの設計は、SDRAM および DDR と異なっています。

DDR4 に必要な動作電圧はわずか 1.2 ボルトで、1.5 ボルトを必要とする DDR3 と比較して 20 パーセント低くなっています。DDR4 は、ホストデバイスがメモリをリフレッシュしなくてもスタンバイに移行できる、ディープパワーダウンモードもサポートしています。ディープパワーダウンモードでは、スタンバイ電力消費量が 40~50 パーセント低減されると期待されています。

DDR4 の詳細

DDR3 と DDR4 メモリ モジュール間には、以下の微妙な違いがあります。

切り込みの違い

DDR4 モジュールの切り込みは、DDR3 モジュールの切り込みとは別の位置にあります。切り込みは両方とも挿入側にあります。DDR4 の切り込みの位置は若干異なっています。これにより、モジュールが互換性のないボードまたはプラットフォームに取り付けられないようにします。

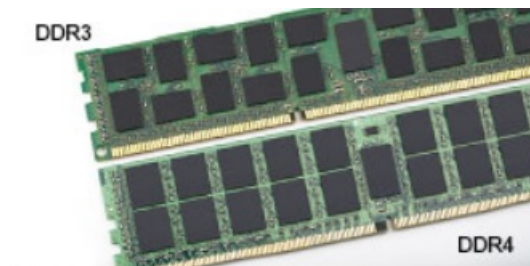


図 1. 切り込みの違い

厚み増加

DDR4 モジュールは DDR3 より若干厚く、より多くの信号レイヤーに対応します。

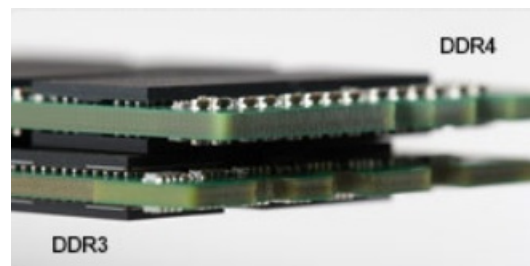


図 2. 厚みの違い

カーブしたエッジ

DDR4 モジュールのエッジはカーブしているため挿入が簡単で、メモリの取り付け時にかかる PCB への圧力を和らげます。

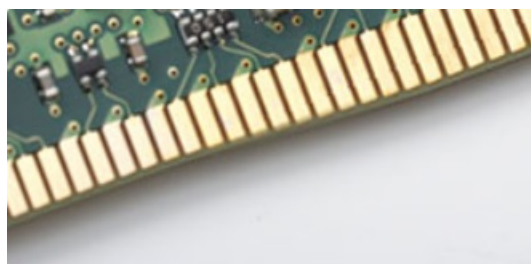


図 3. カーブしたエッジ

メモリエラー

システムでメモリエラーが発生した場合、「ON-FLASH-FLASH」または「ON-FLASH-ON」という新しい障害コードが表示されます。すべてのメモリが故障した場合、LCD は起動しません。メモリ障害のトラブルシューティングを実行するには、一部のポータブルシステムと同様に、システムの底部またはキーボードの下にあるメモリコネクタで動作確認済みのメモリモジュールを試します。

❶ **メモ:** DDR4 メモリは基板に埋め込まれており、図や説明で示されているように交換可能な DIMM ではありません。

HDMI 1.4

このトピックでは、HDMI 1.4 とその機能について、利点をまじえて説明します。

HDMI (High-Definition Multimedia Interface) は、業界でサポートされている、完全デジタルの未圧縮のオーディオ/ビデオインターフェイスです。HDMI は、DVD プレイヤ、または A/V レシーバなどの互換性のあるデジタルオーディオ/ビデオソースと、デジタル TV (DTV) などの互換性のあるデジタルオーディオおよび/またはビデオモニタ間にインターフェイスを提供します。対象とする用途は、HDMI TV、および DVD プレイヤです。主な利点は、ケーブル数の削減とコンテンツ保護のプロビジョニングです。HDMI は、1本のケーブルで標準の拡張ビデオ (HD ビデオ) に加え、マルチチャンネルデジタルオーディオをサポートします。

❶ **メモ:** HDMI 1.4 は 5.1 チャンネルオーディオをサポートします。

HDMI 1.4 の機能

- ・ **HDMI イーサネットチャンネル** - 高速ネットワークを HDMI リンクに追加すると、ユーザーは別のイーサネットケーブルなしで IP 対応デバイスをフル活用できます。
- ・ **オーディオリターンチャンネル** - チューナー内蔵の HDMI 接続 TV で、別のオーディオケーブルの必要なくオーディオデータ「アップストリーム」をサラウンドオーディオシステムに送信できます。
- ・ **3D - メジャー** な 3D ビデオ形式の入力/出力プロトコルを定義し、本当の 3D ゲームと 3D ホームシアターアプリケーションの下準備をします。
- ・ **コンテンツタイプ** - コンテンツタイプに基づいて TV でイメージ設定を最適化できる、ディスプレイとソースデバイス間のコンテンツタイプのリアルタイム信号です。
- ・ **追加のカラースペース** - デジタル写真とコンピュータグラフィックスで使用される追加のカラーモデルのためのサポートが追加されています。
- ・ **4K サポート** - 1080p をはるかに超えるビデオ解像度を可能にし、多くの映画館で使用されるデジタルシネマシステムに匹敵する次世代ディスプレイをサポートします。
- ・ **HDMI マイクロコネクタ** - 1080p までのビデオ解像度をサポートする、電話やその他のポータブルデバイス用の新しく小さいコネクタです。
- ・ **車両用接続システム** - 真の HD 品質を配信しつつ、自動車環境に特有の需要を満たすように設計された、車両用ビデオシステムの新しいケーブルとコネクタです。

HDMI の利点

- ・ 高品質の HDMI で、鮮明で最高画質の非圧縮のデジタルオーディオとビデオを転送します。
- ・ 低コストの HDMI は、簡単で効率の良い方法で非圧縮ビデオ形式をサポートすると同時に、デジタルインターフェイスの品質と機能を提供します。
- ・ オーディオ HDMI は、標準ステレオからマルチチャンネル・サラウンド・サウンドまで複数のオーディオ形式をサポートします

- ・ HDMI は、ビデオとマルチチャンネルオーディオを1本のケーブルにまとめることで、A/V システムで現在使用している複数のケーブルの費用、複雑さ、混乱を取り除きます。
- ・ HDMI はビデオソース (DVD プレーヤーなど) と DTV 間の通信をサポートし、新しい機能に対応します。

USB の機能

USB (ユニバーサル シリアル バス) は 1996 年に導入されました。これにより、ホスト コンピューターと周辺機器 (マウス、キーボード、外付けドライブ、プリンタなど) との接続が大幅にシンプルになりました。

下記の表を参照して USB の進化について簡単に振り返ります。

表 1. USB の進化

タイプ	データ転送速度	カテゴリ	導入された年
USB 2.0	480 Mbps	High Speed	2000
USB 3.0/USB 3.1 Gen 1	5 Gbps	Super Speed	2010 年
USB 3.1 Gen 2	10 Gbps	Super Speed	2013

USB 3.0/USB 3.1 Gen 1 (SuperSpeed USB)

長年にわたり、USB 2.0 は、PC 業界の事実上のインターフェイス標準として確実に定着しており、約 60 億個のデバイスがすでに販売されていますが、コンピューティング ハードウェアのさらなる高速化と広帯域幅化へのニーズの高まりから、より高速なインターフェイス標準が必要になっています。USB 3.0/USB 3.1 Gen 1 は、理論的には USB 2.0 の 10 倍の速度を提供することで、このニーズに対する答えをついに実現しました。USB 3.1 Gen 1 の機能概要を次に示します。

- ・ より速い転送速度 (最大 5 Gbps)
- ・ 電力を大量消費するデバイスにより良く適応させるために拡大された最大バスパワーとデバイスの電流引き込み
- ・ 新しい電源管理機能
- ・ 全二重データ転送と新しい転送タイプのサポート
- ・ USB 2.0 の下位互換性
- ・ 新しいコネクタとケーブル

以下のトピックには USB 3.0/USB 3.1 Gen 1 に関するよくある質問の一部が記載されています。

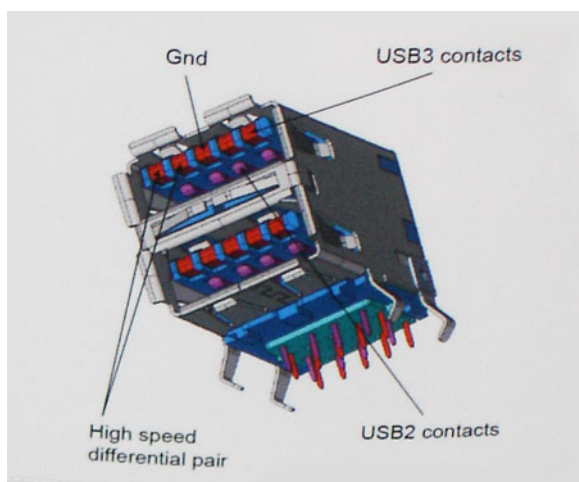


速度

現時点で最新の USB 3.0/USB 3.1 Gen 1 仕様では、Super-Speed、Hi-Speed、および Full-Speed の 3 つの速度モードが定義されています。新しい SuperSpeed モードの転送速度は 4.8 Gbps です。この仕様では下位互換性を維持するために、Hi-speed モード (USB 2.0、480 Mbps) および Full-speed モード (USB 1.1、12 Mbps) の低速モードもサポートされています。

USB 3.0/USB 3.1 Gen 1 は次の技術変更によって、パフォーマンスをさらに向上させています。

- ・ 既存の USB 2.0 バスと並行して追加された追加の物理バス (以下の図を参照)。
- ・ USB 2.0 には 4 本のケーブル (電源、接地、および差分データ用の 1 組) がありましたが、USB 3.0/USB 3.1 Gen 1 では 2 組の差分信号 (送受信) 用にさらに 4 本追加され、コネクタとケーブルの接続は合計で 8 つになります。
- ・ USB 3.0/USB 3.1 Gen 1 は、USB 2.0 の半二重配置ではなく、双方向データ インターフェイスを使用します。これにより、帯域幅が理論的に 10 倍に増加します。



高精細ビデオコンテンツ、テラバイトのストレージデバイス、超高解像度のデジタルカメラなどのデータ転送に対する要求がますます高まっている現在、USB 2.0 は十分に高速ではない可能性があります。さらに、理論上の最大スループットである 480 Mbps を達成する USB 2.0 接続は存在せず、現実的なデータ転送率は、最大で約 320 Mbps (40 MB/s) となっています。同様に、USB 3.0/USB 3.1 Gen 1 接続が 4.8 Gbps のスループットを達成することはありません。実際には、オーバーヘッドを含めて 400 MB/s の最大転送率であると想定されますが、この速度でも USB 3.0/USB 3.1 Gen 1 は USB 2.0 の 10 倍向上しています。

用途

USB 3.0/USB 3.1 Gen 1 により、デバイスで転送率が向上し、帯域幅に余裕ができるので、全体的なエクスペリエンスが向上します。以前の USB ビデオは、最大解像度、レイテンシ、ビデオ圧縮のそれぞれの観点でほとんど使用に耐えないものでしたが、利用可能な帯域幅が 5~10 倍になれば、USB ビデオソリューションの有用性ははるかに向上することが容易に想像できます。単一リンクの DVI では、約 2 Gbps のスループットが必要です。480 Mbps では制限がありました。5 Gbps では十分すぎるほどの帯域幅が実現します。4.8 Gbps の速度が見込めることで、新しいインターフェイス標準の利用範囲は、以前は USB 領域ではなかった外部 RAID ストレージシステムのような製品へと拡大する可能性があります。

以下に、使用可能な SuperSpeed USB 3.0/USB 3.1 Gen 1 の製品の一部をリストアップします。

- ・ デスクトップ用外付け USB 3.0/USB 3.1 Gen 1 ハードドライブ
- ・ ポータブル USB 3.0/USB 3.1 Gen 1 ハードドライブ
- ・ USB 3.0/USB 3.1 Gen 1 ドライブドックおよびアダプタ
- ・ USB 3.0/USB 3.1 Gen 1 フラッシュドライブおよびリーダー
- ・ USB 3.0/USB 3.1 Gen 1 ソリッドステートドライブ
- ・ USB 3.0/USB 3.1 Gen 1 RAID
- ・ オプティカルメディアドライブ
- ・ マルチメディアドライブ
- ・ ネットワーク
- ・ USB 3.0/USB 3.1 Gen 1 アダプタカードおよびハブ

互換性

USB 3.0/USB 3.1 Gen 1 は最初から慎重に計画されており、USB 2.0 との互換性を完全に維持しています。まず、USB 3.0/USB 3.1 Gen 1 では新しいプロトコルの高速能力を利用するために、新しい物理接続と新しいケーブルが指定されていますが、コネクタ自体は 4 つの USB 2.0 接点で以前と同じ場所にある同じ長方形のままです。USB 3.0/USB 3.1 Gen 1 ケーブルには独立してデータを送受信するための 5 つの新しい接続があり、これらは、適切な SuperSpeed USB 接続に接続されている場合にのみ接続されます。

Windows 10 は USB 3.1 Gen 1 コントローラーを標準装備しています。一方、以前のバージョンの Windows では、USB 3.0/USB 3.1 Gen 1 コントローラー用の個別のドライバが引き続き必要です。

インテル Optane メモリ

インテル Optane メモリはストレージアクセラレーターとしてのみ機能します。お使いのコンピューターに搭載されているメモリ (RAM) に取って代わるものでも、それを追加するものでもありません。

① | メモ: インテル Optane メモリは、次の要件を満たすコンピューターでサポートされます。

- 第7世代以降のインテル Core i3/i5/i7 プロセッサ
- Windows 10 64 ビット バージョン以降
- インテル ラピッド ストレージ テクノロジー ドライバ バージョン 15.9.1.1018 以降


表 2. インテル Optane メモリの仕様

特長	仕様
インタフェース	PCIe 3x2 NVMe 1.1
コネクタ	M.2 カード スロット (2230/2280)
サポートされている構成	<ul style="list-style-type: none"> • 第7世代以降のインテル Core i3/i5/i7 プロセッサ • Windows 10 64 ビット バージョン以降 • インテル ラピッド ストレージ テクノロジー ドライバ バージョン 15.9.1.1018 以降
容量	32 GB または 64 GB

インテル Optane メモリの有効化

手順


1. タスクバーで検索ボックスをクリックし、「Intel Rapid Storage Technology」と入力します。
2. [Intel Rapid Storage Technology] をクリックします。
3. [Status] タブで [Enable] をクリックし、インテル Optane メモリを有効にします。
4. 警告画面で互換性のある高速ドライブを選択し、[Yes] をクリックして、インテル Optane メモリの有効化を続行します。
5. [Intel Optane memory] > [Reboot] をクリックし、インテル Optane メモリを有効にします。

 **メモ:** 完全なパフォーマンス メリットを得るには、有効化後、アプリケーションは最大で 3 回の起動が必要になる可能性があります。

インテル Optane メモリの無効化

このタスクについて

 **注意:** インテル Optane メモリの無効化後、インテル Rapid Storage Technology のドライバをアンインストールしないでください。ブルー スクリーンのエラーが発生します。インテル Rapid Storage Technology のユーザー インターフェイスは、ドライバをアンインストールせずに削除できます。

 **メモ:** インテル Optane メモリの無効化は、インテル Optane メモリ モジュールによって高速化された SATA ストレージ デバイスをコンピューターから取り外す前に行う必要があります。

手順

1. タスクバーで検索ボックスをクリックし、「Intel Rapid Storage Technology」と入力します。
2. [Intel Rapid Storage Technology] をクリックします。[Intel Rapid Storage Technology] ウィンドウが表示されます。
3. [Intel Optane memory] タブで [Disable] をクリックし、インテル Optane メモリを無効にします。
4. 警告を受け入れる場合は、[Yes] をクリックします。無効化の進行状況が表示されます。
5. [Reboot] をクリックして、インテル Optane メモリの無効化を完了し、コンピューターを再起動します。

コンポーネントの取り外しと取り付け

推奨ツール

本マニュアルの手順には以下のツールが必要です。

- ・ #0 プラス ドライバー
- ・ #1 プラス ドライバ
- ・ プラスチックスクライブ






① **メモ:** #0 ネジ ドライバはネジ 0-1用、#1 ネジ ドライバはネジ 2-4用です。

ネジのリスト

次の表は、さまざまなコンポーネントを固定するために使用されるネジのリストです。

表3. ネジのリスト

コンポーネント	ネジの種類	数	ネジの画像
ベース カバー	<ul style="list-style-type: none"> ・ M2.5x7 ・ M2x4 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6 ・ 1 	 <p>① メモ: ネジの色は、発注時の構成によって異なります。</p>
バッテリー	M2x3	4	
サーマル プレートへのソリッド ステート ドライブ	M2x3	1	
バームレストとキーボードへのソリッドステート ドライブ	M2x3	1	
ハードドライブアセンブリ	M2x3	4	
ハードドライブブラケット	M3x3	4	
システムファン	M2x5	3	
I/O ボード	M2x4	2	
タッチパッド	M2x2	6	
電源ボタンボード	M2x2	1	
システム基板	M2x4	1	

コンポーネント	ネジの種類	数	ネジの画像
電源アダプタポート	M2x3	1	
ディスプレイパネル	M2x2	4	
ディスプレイヒンジ	<ul style="list-style-type: none"> ・ M2.5x2.5 ・ M2x2 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8 ・ 2 	 
ワイヤレスカードブラケット	M2x3	1	

SD カード

SD カードの取り外し

前提条件

1. 「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順に従います。

手順

1. SD カードを押して、コンピュータから外します。
2. SD カードをコンピュータから引き出します。



SD カードの取り付け

手順

所定の位置にカチッと収まるまで、SD カードをスロットに差し込みます。



次の手順

1. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

ベースカバー

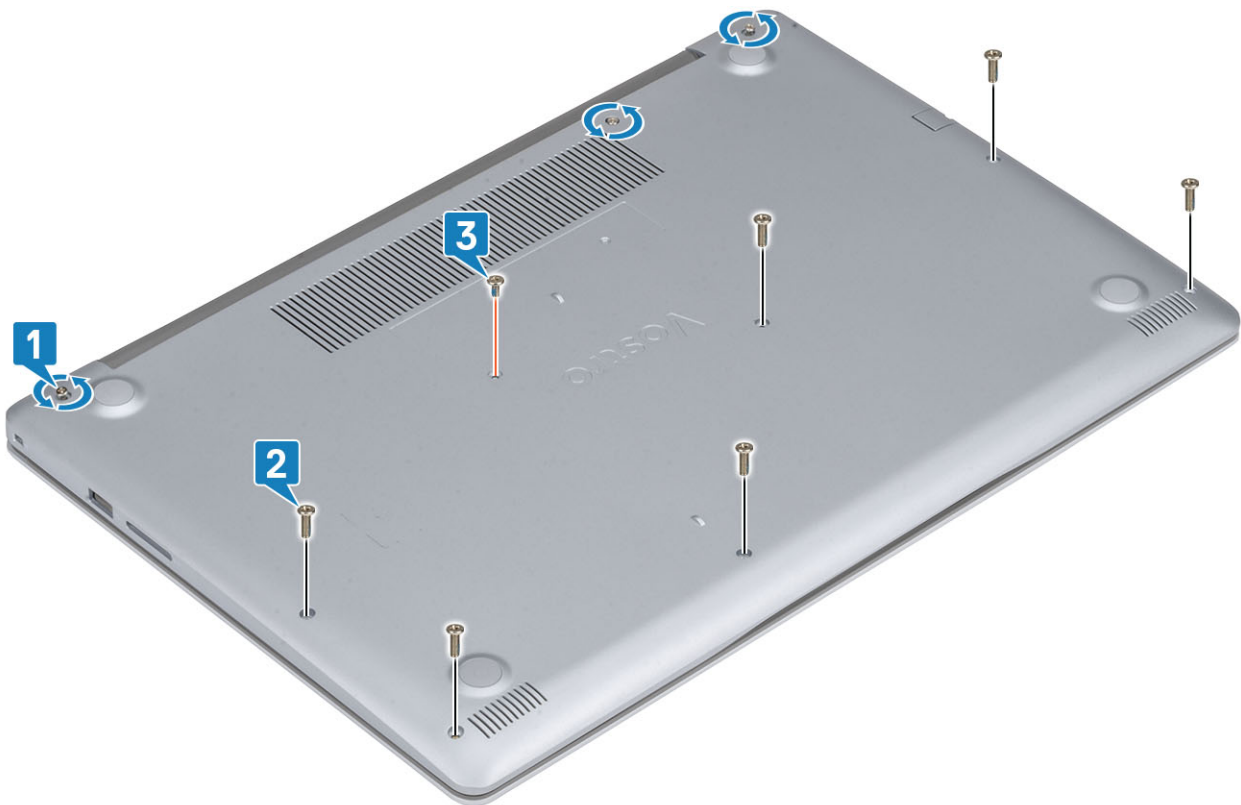
ベースカバーの取り外し

前提条件

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SDメモリカードを取り外します。

手順

1. 3本の拘束ネジを緩めます [1]。
2. ベースカバーをパームレストとキーボードアセンブリーに固定している1本のネジ (M2x4) と6本のネジ (M2.5x7) を取り外します [2, 3]。



2

3. ベースカバーを左上隅から持ち上げ [1]、続けてベースカバーの側部を開きます [2、3、4]。



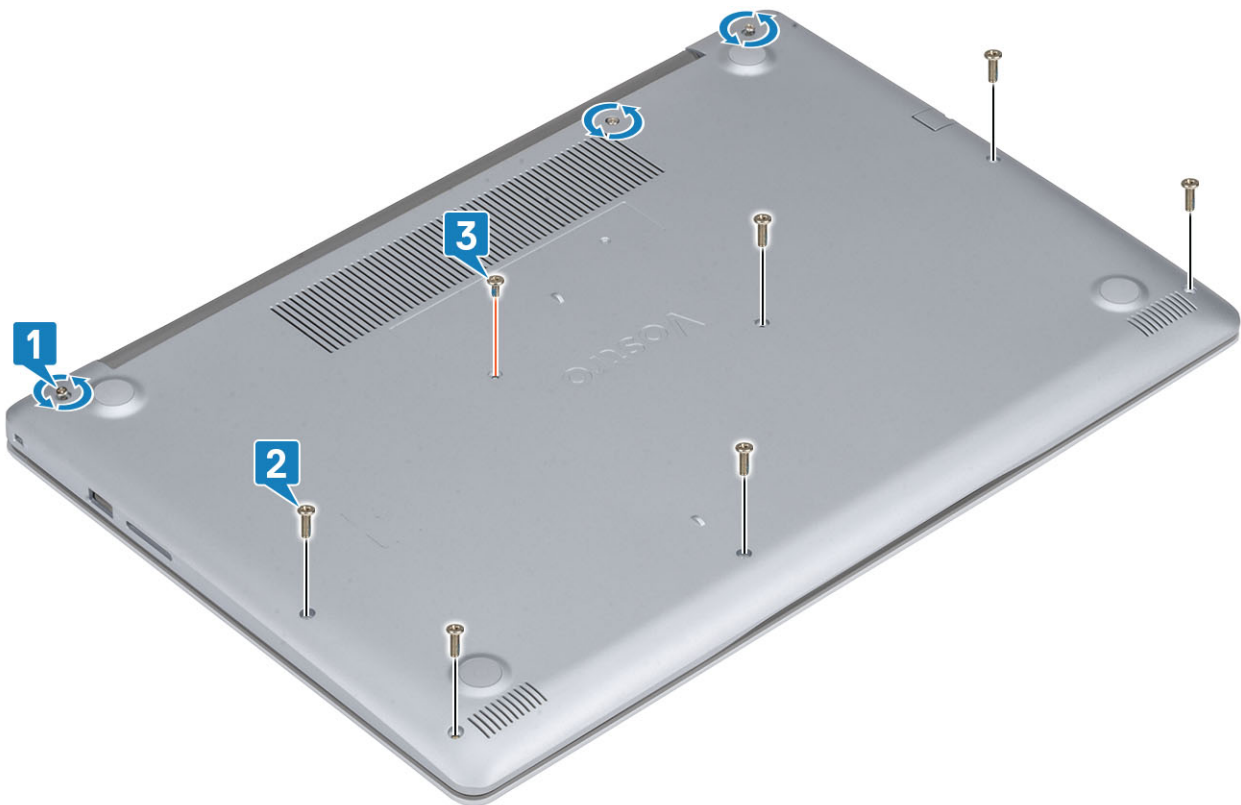
ベース カバーの取り付け

手順

1. ベース カバーをパームレストとキーボード アセンブリーにセットします [1]。
2. 所定の位置に収まるまで、ベース カバーの端部と側部を押し込みます [2、3]。



3. 3本の拘束ネジを締め、1本のネジ (M2x4) と6本のネジ (M2.5x7) を取り付け、ベース カバーをパームレストとキーボード アセンブリーに固定します [1、2、3]。



次の手順

1. SD メモリ カードを取り付けます
2. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います

バッテリー

リチウムイオンバッテリーに関する注意事項

△ 注意:

- リチウムイオンバッテリーを取り扱う際は、十分に注意してください。
- システムから取り外す前に、できる限りバッテリーを放電してください。放電は、システムから AC アダプタを取り外してバッテリーを消耗させることで実行できます。
- バッテリーを破壊したり、落としたり、損傷させたり、バッテリーに異物を侵入させたりしないでください。
- バッテリーを高温にさらしたり、バッテリーパックまたはセルを分解したりしないでください。
- バッテリーの表面に圧力をかけないでください。
- バッテリーを曲げないでください。
- 種類にかかわらず、ツールを使用してバッテリーをこじ開けないでください。
- バッテリーやその他のシステムコンポーネントの偶発的な破裂や損傷を防ぐため、この製品のサービス作業中に、ネジを紛失したり置き忘れていたりしないようにしてください。
- 膨張によってリチウムイオンバッテリーがコンピュータ内で詰まってしまう場合、穴を開けたり、曲げたり、押しつぶしたりすると危険なため、無理に取り出そうとしないでください。そのような場合は、デルテクニカルサポートにお問い合わせください。www.dell.com/contactdell を参照してください。
- 必ず、www.dell.com または Dell 認定パートナーおよび再販業者から正規のバッテリーを購入してください。

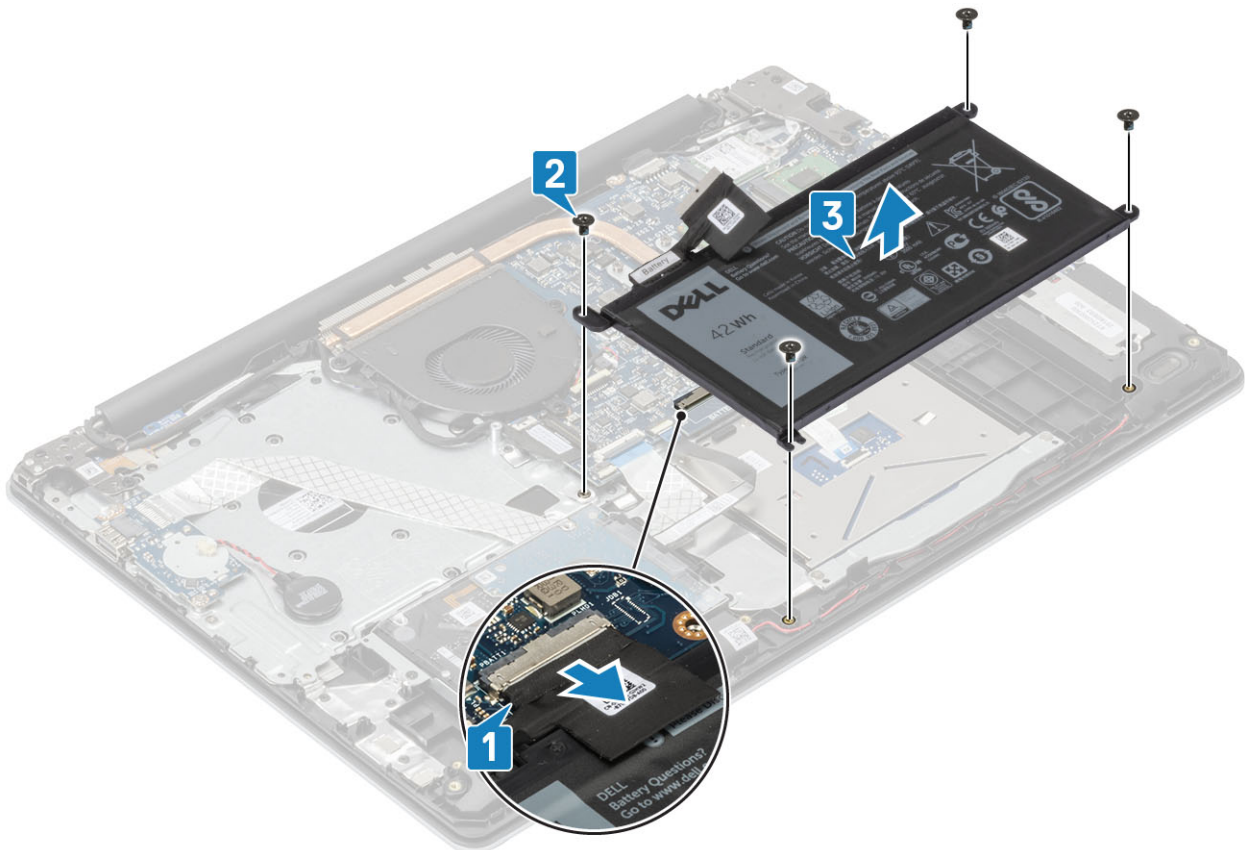
バッテリーの取り外し

前提条件

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SD カードを取り出します。
3. ベースカバーを取り外します。

手順

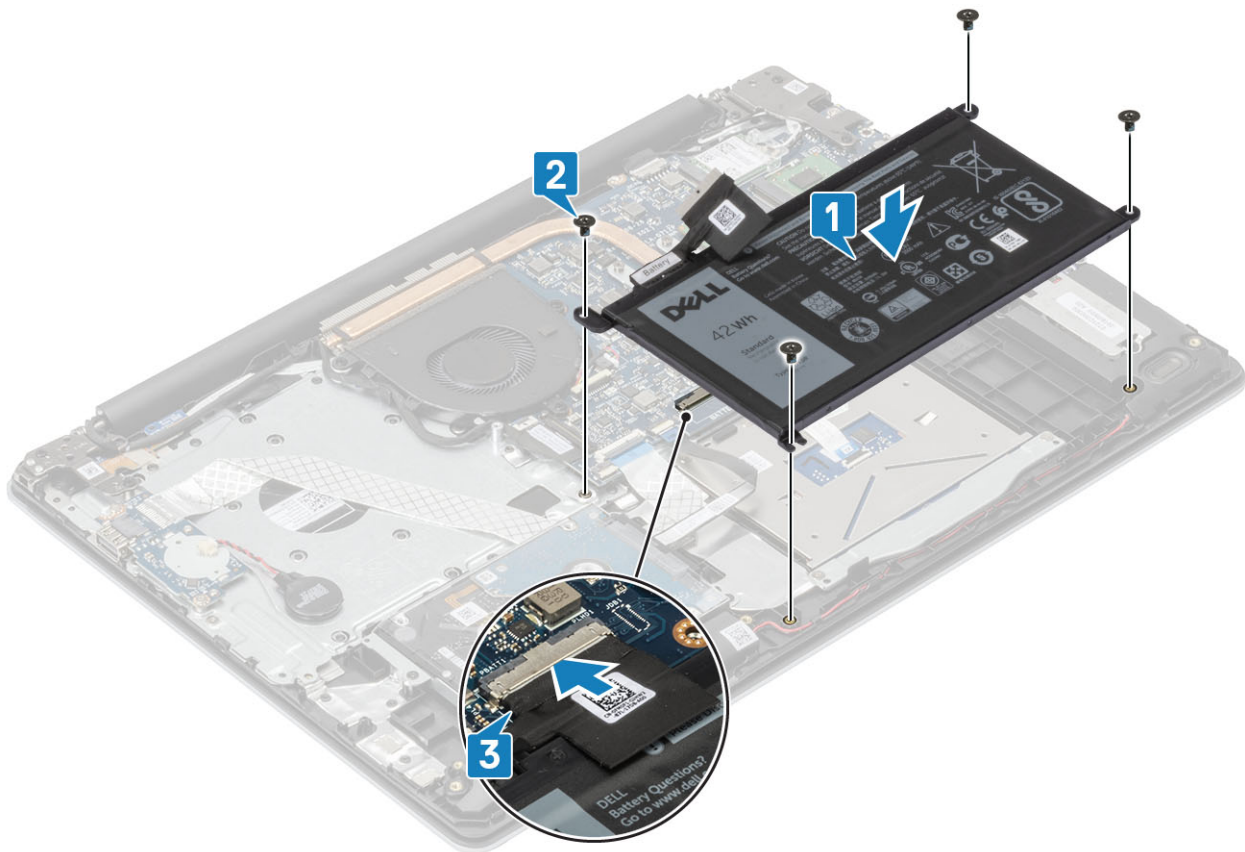
1. バッテリーケーブルをシステム基板から外します [1]。
2. バッテリーをパームレストとキーボード アセンブリーに固定している 4 本のネジ (M2x3) を取り外します [2]。
3. バッテリーを持ち上げて、パームレストとキーボード アセンブリーから取り外します [3]。



バッテリーの取り付け

手順

1. バッテリーのネジ穴をパームレストとキーボード アセンブリーのネジ穴に合わせます [1]。
2. バッテリーをパームレストとキーボード アセンブリーに固定する 4 本のネジ (M2x3) を取り付けます [2]。
3. バッテリー ケーブルをシステム基板に接続します [3]。



次の手順

1. ベースカバーを取り付けます。
2. SDカードを取り付けます。
3. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

メモリモジュール

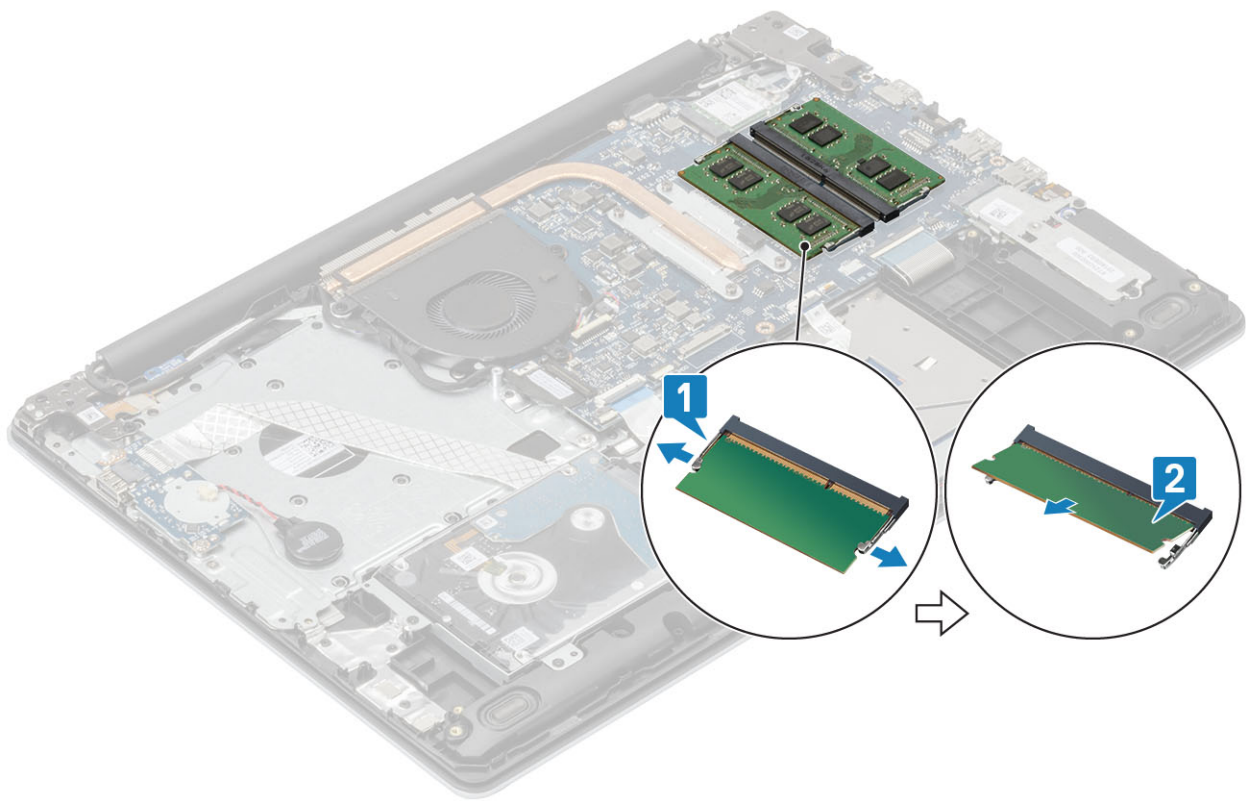
メモリモジュールの取り外し

前提条件

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SDカードを取り外します。
3. ベースカバーを取り外します。
4. バッテリーケーブルを外します

手順

1. メモリモジュールが持ち上がるまでメモリモジュールを固定しているクリップを引きます [1]。
2. メモリモジュールをメモリモジュールスロットから取り外します [2]。

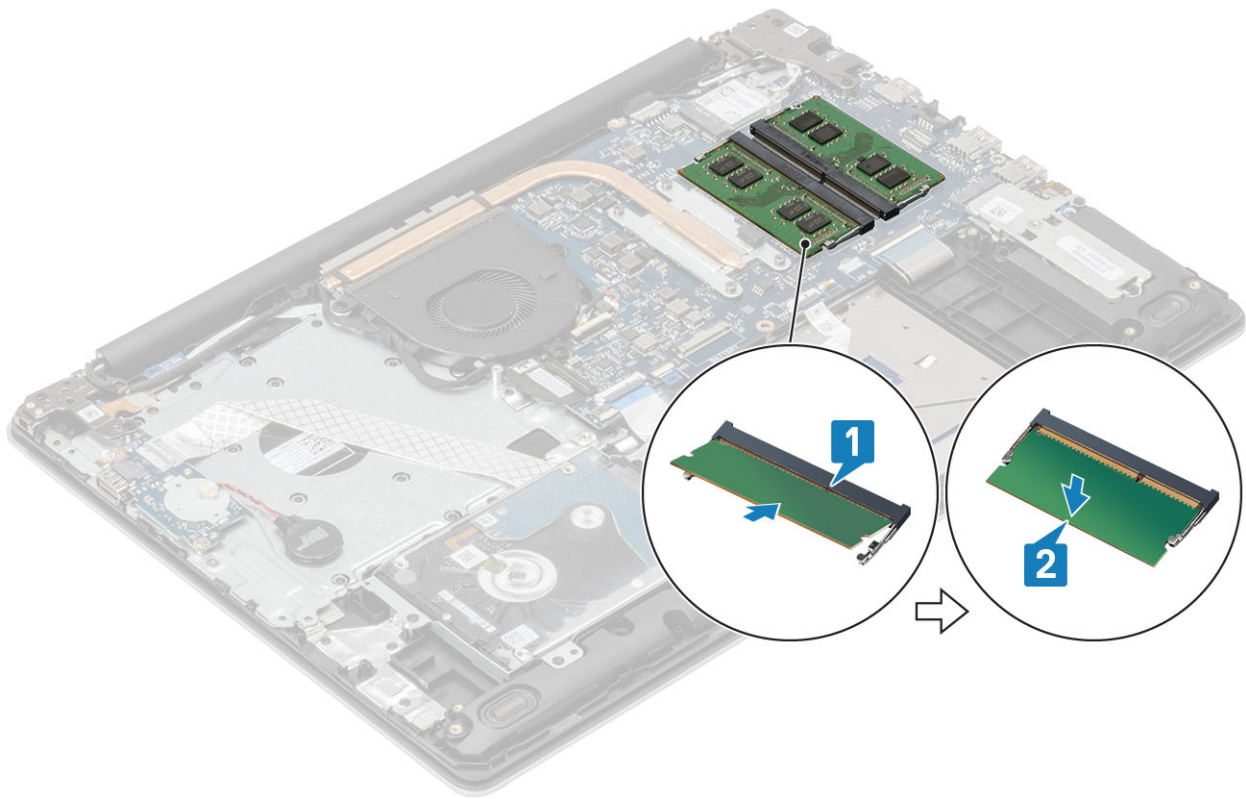


メモリモジュールの取り付け

手順

1. メモリモジュールの切り込みをメモリモジュールスロットのタブに合わせます。
2. メモリモジュールを斜めにしてスロットにしっかりと差し込みます [1]。
3. クリップで固定されるまで、メモリモジュールを押し込みます [2]。

① **メモ:** カチッという感触がない場合は、メモリモジュールを取り外して、もう一度差し込んでください。



次の手順

1. バッテリー ケーブルを接続します。
2. ベース カバーを取り付けます
3. SD メモリ カードを取り付けます
4. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います

WLAN カード

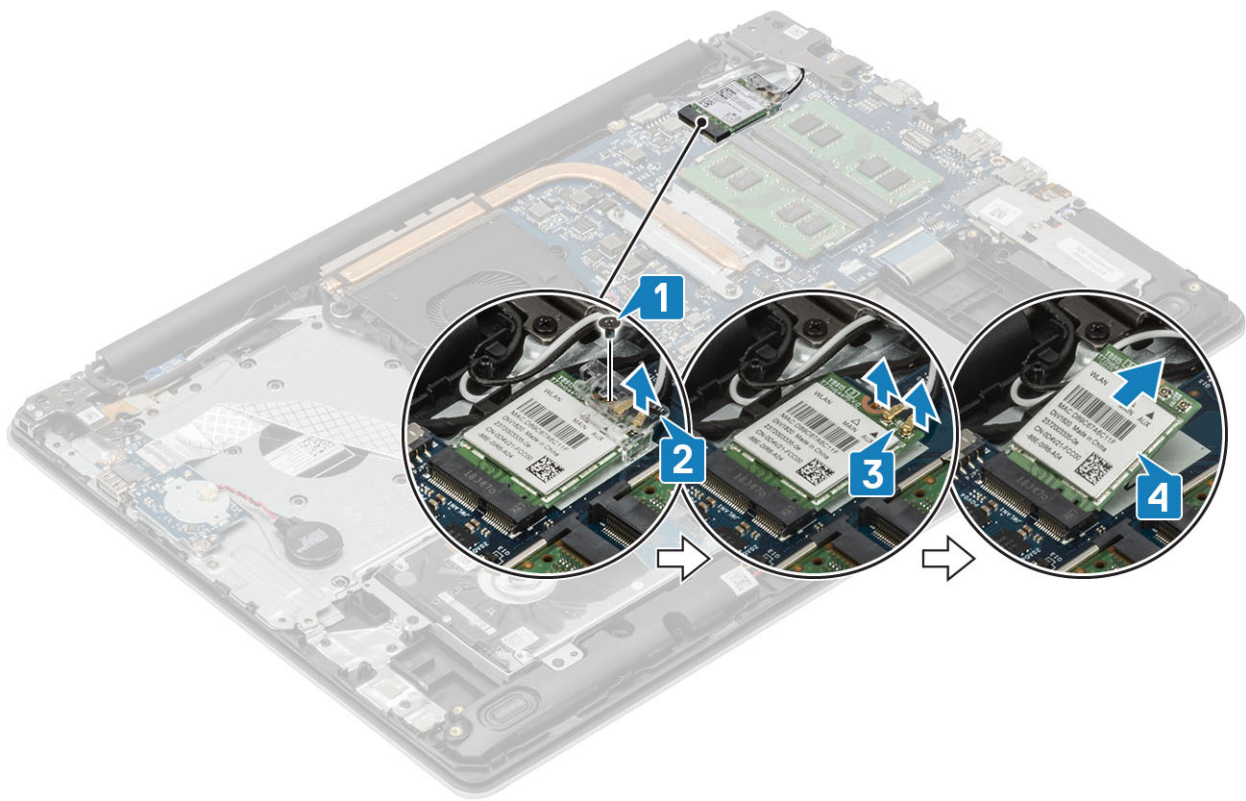
WLAN カードの取り外し

前提条件

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SD カードを取り出します。
3. ベースカバーを取り外します。
4. バッテリー ケーブルを外します

手順

1. WLAN カード ブラケットをシステム基板に固定している M2x3 ネジを外します [1]。
2. WLAN ケーブルを固定している WLAN カード ブラケットをスライドさせて取り外します [2]。
3. WLAN ケーブルを WLAN カードのコネクタから外します [3]。
4. WLAN カードを持ち上げてコネクタから取り外します [4]。



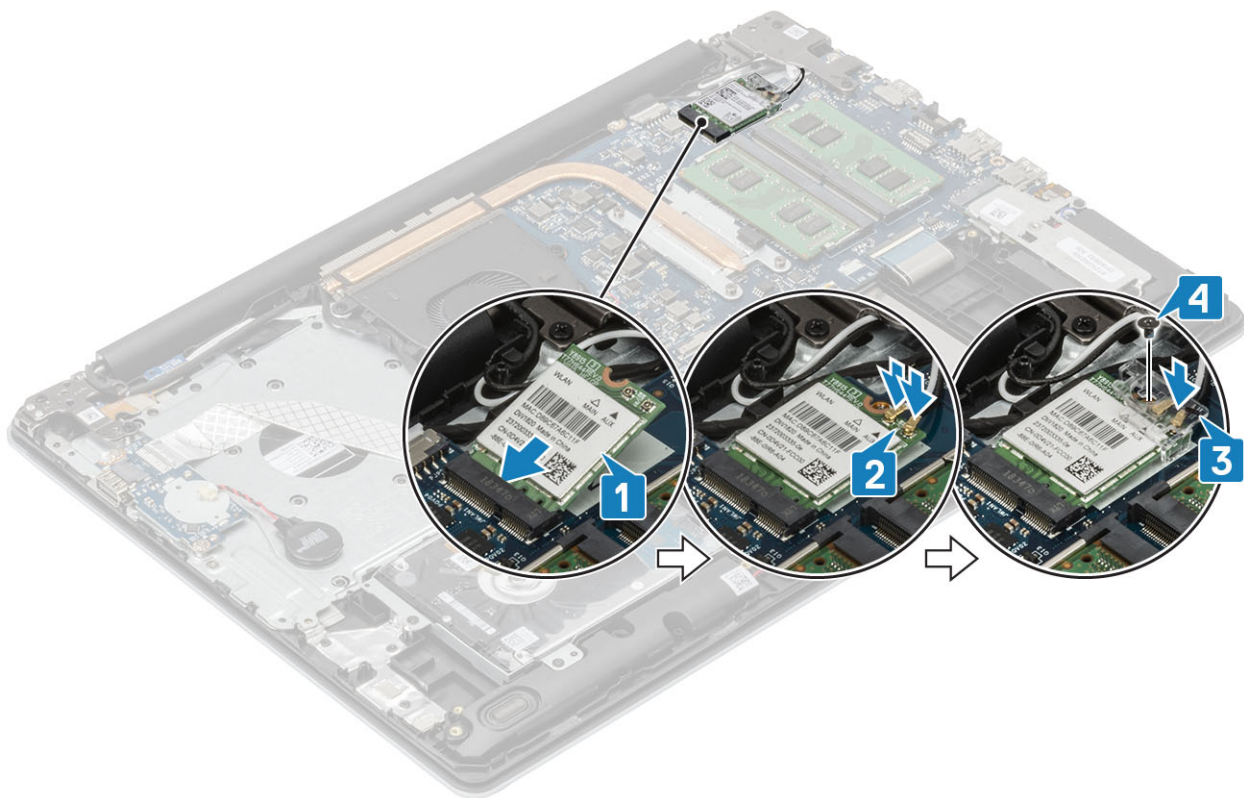
WLAN カードの取り付け

このタスクについて

△ 注意: WLAN カードへの損傷を避けるため、カードの下にケーブルを置かないでください。

手順

1. WLAN カードをシステム基板のコネクタに差し込みます [1]。
2. WLAN ケーブルを WLAN カードのコネクタに接続します [2]。
3. WLAN カード ブラケットを取り付けて WLAN ケーブルを固定します [3]。
4. 1本のネジ (M2x3) を取り付けて、WLAN ブラケットを WLAN カードに固定します [4]。



次の手順

1. バッテリー ケーブルを接続します。
2. ベース カバーを取り付けます。
3. SD カードを取り付けます。
4. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います

ソリッドステート ドライブ/インテル Optane

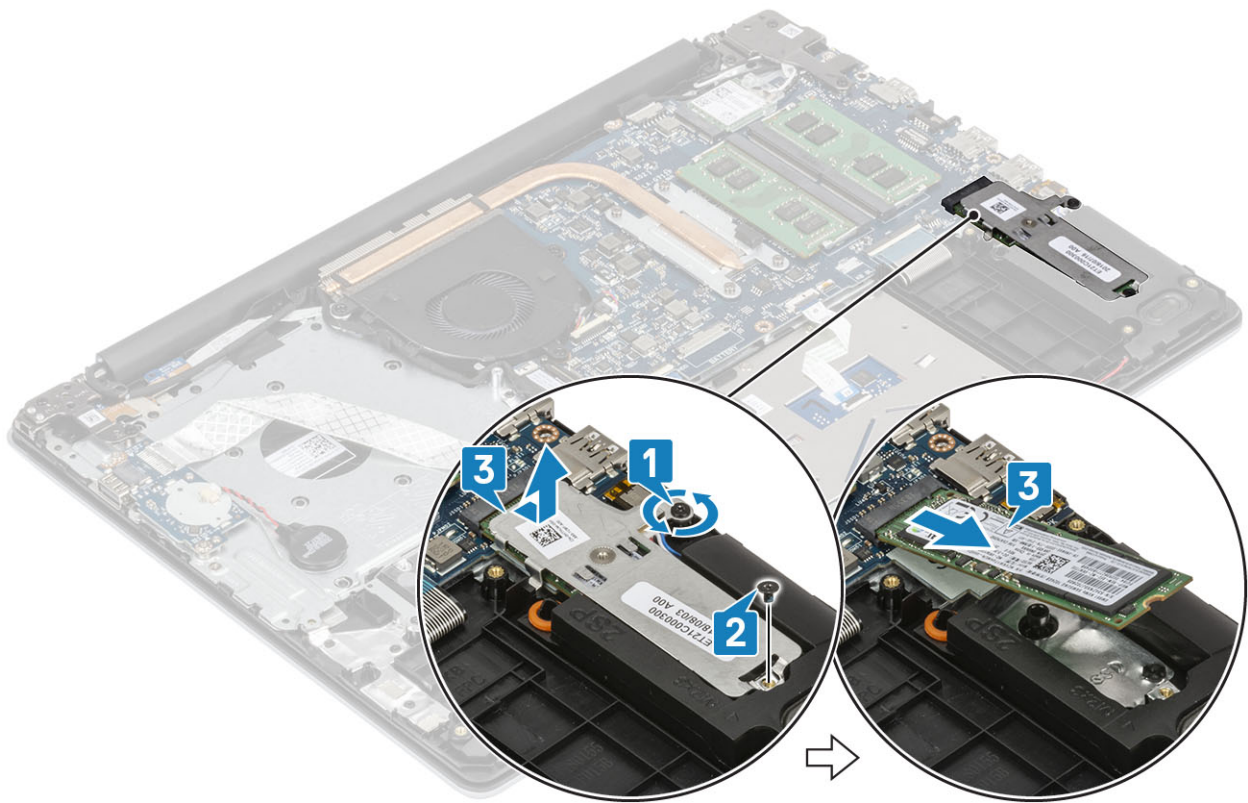
M.2 2280 ソリッドステート ドライブまたはインテル Optane メモリ (オプション) の取り外し

前提条件

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SD カードを取り出します。
3. ベースカバーを取り外します。
4. バッテリー ケーブルを外します

手順

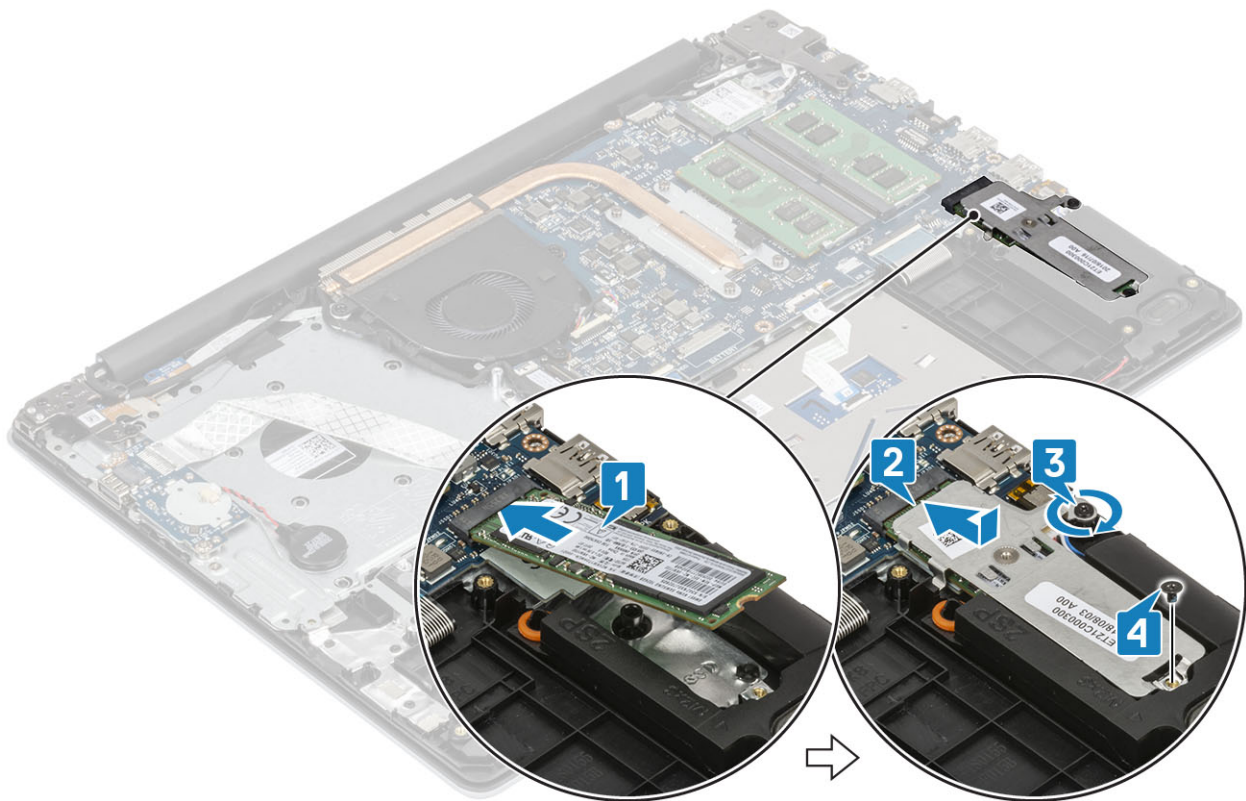
1. サーマル プレートをパームレストとキーボード アセンブリーに固定している拘束ネジを緩めます [1]。
2. サーマル プレートがパームレストとキーボード アセンブリーに固定している 1本のネジ (M2x3) を外します [2]。
3. ソリッドステート ドライブ/インテル Optane スロットからサーマル プレートを引き出して取り外します [3]。
4. ソリッドステート ドライブ/インテル Optane をスライドさせて持ち上げ、パームレストとキーボード アセンブリーから取り外します [4]。



M.2 2280 ソリッドステート ドライブまたはインテル Optane メモリ (オプション) の取り付け

手順

1. タブ付きソリッドステートドライブ/インテル Optane をスライドさせて、ソリッドステートドライブ/インテル Optane のスロットに挿入します [1、2]。
2. サーマル プレート をパームレストとキーボード アセンブリーに固定する拘束ネジを締めます [3]。
3. サーマル プレート をパームレストとキーボード アセンブリーに固定する 1本のネジ (M2x3) を取り付けます [4]。



次の手順

1. バッテリーケーブルを接続します。
2. ベースカバーを取り付けます。
3. SDカードを取り付けます。
4. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います

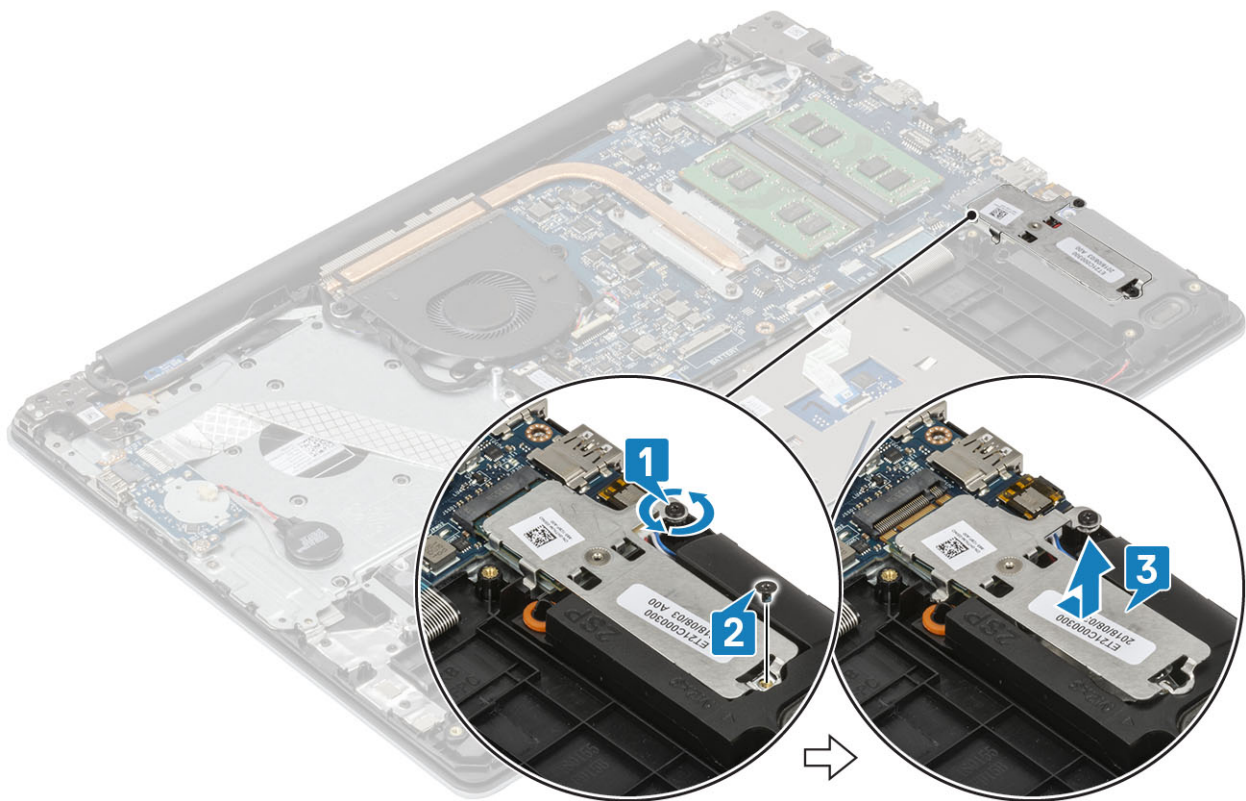
M.2 2230 ソリッドステートドライブの取り外し

前提条件

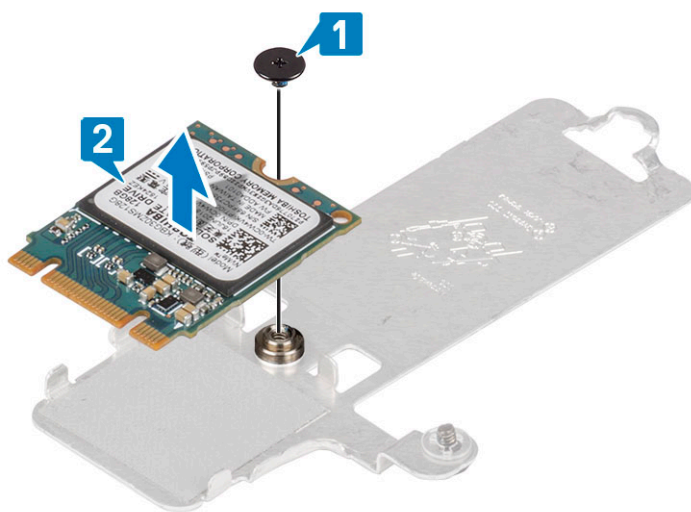
1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SDカードを取り出します。
3. ベースカバーを取り外します。
4. バッテリーケーブルを外します

手順

1. サーマルプレートをパームレストとキーボードアセンブリーに固定している拘束ネジを緩めます [1]。
2. サーマルプレートがパームレストとキーボードアセンブリーに固定されている1本のネジ (M2x3) を外します [2]。
3. サーマルプレートをスライドさせてソリッドステートドライブスロットから取り外します [3]。



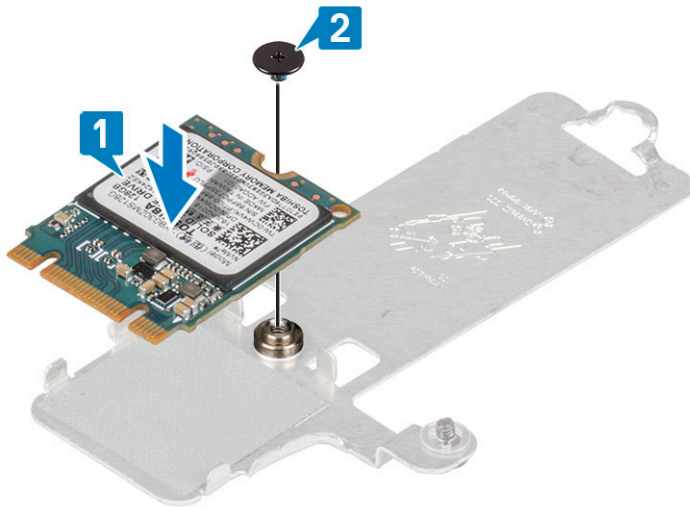
4. サーマル プレートを裏返します。
5. ソリッドステート ドライブをサーマル プレートに固定している1本のネジ (M2x2) を外します [1]。
6. ソリッドステート ドライブを持ち上げて、サーマル プレートから取り外します [2]。



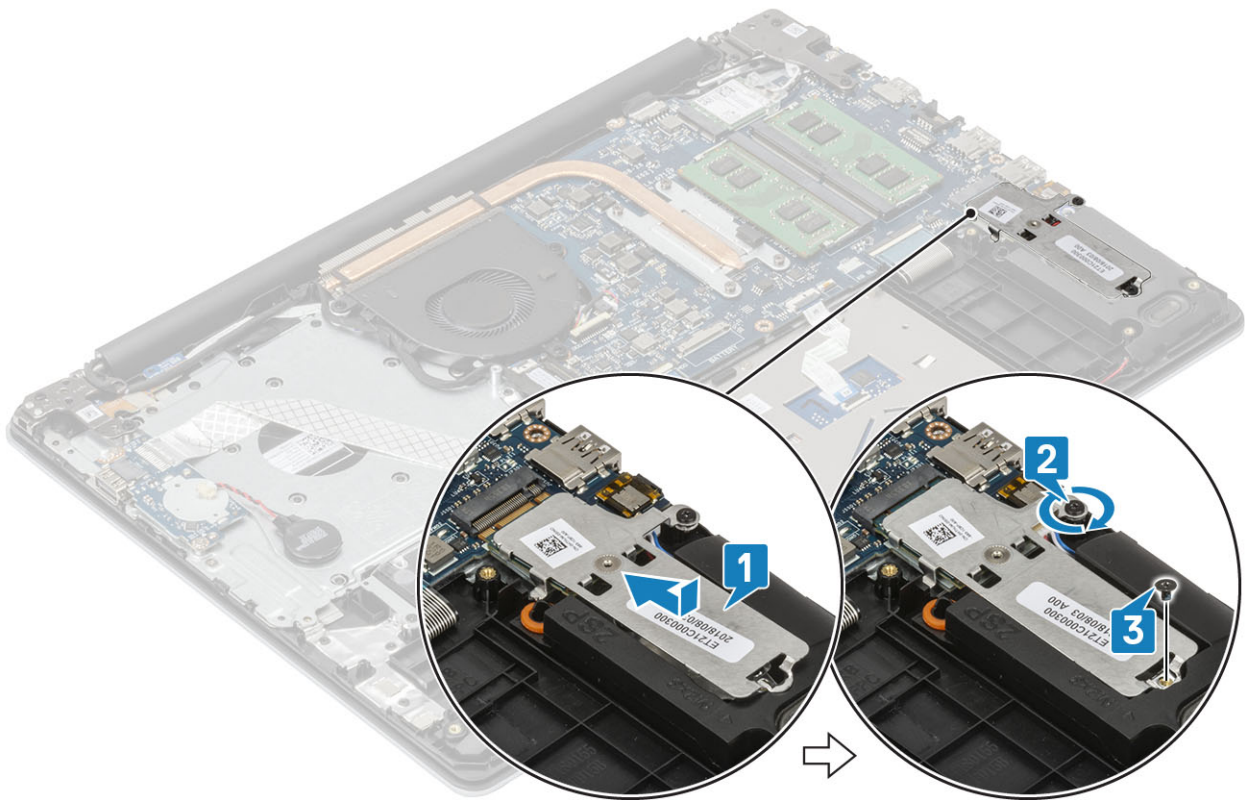
M.2 2230 ソリッドステート ドライブの取り付け

手順

1. ソリッドステート ドライブをサーマル プレートのスロットに差し込みます [1]。
2. ソリッドステート ドライブをサーマル プレートに固定する1本のネジ (M2x2) を取り付けます [2]。



3. ソリッドステートドライブの切り込みをソリッドステートドライブスロットのタブの位置に合わせます。
4. タブ付きソリッドステートドライブをスライドさせて、ソリッドステートドライブスロットに挿入します [1]。
5. サーマルプレートのパームレストとキーボードアセンブリーに固定する拘束ネジを締めます [2]。
6. サーマルプレートのパームレストとキーボードアセンブリーに固定する1本のネジ (M2x3) を取り付けます [3]。



次の手順

1. バッテリーケーブルを接続します。
2. ベースカバーを取り付けます。
3. SDカードを取り付けます。
4. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います

コイン型電池

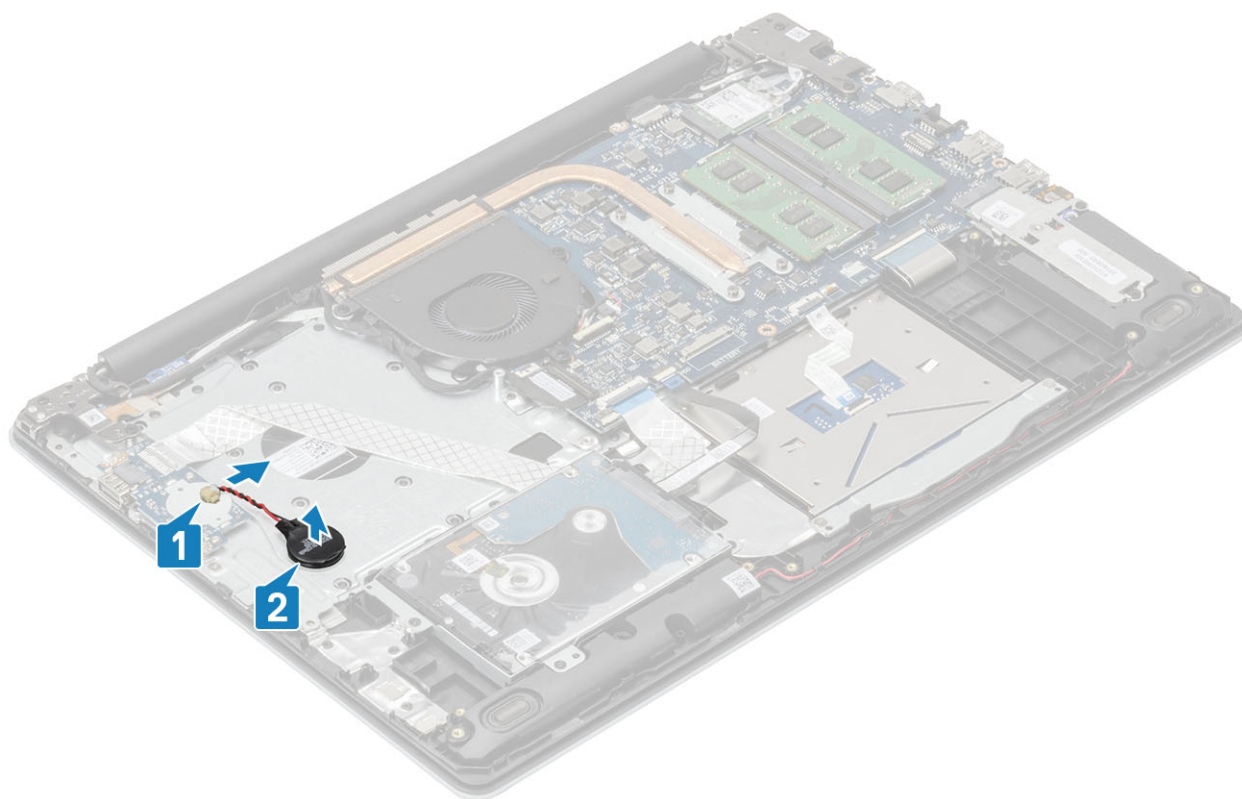
コイン型電池の取り外し

前提条件

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SD カードを取り出します。
3. ベースカバーを取り外します。
4. バッテリー ケーブルを外します

手順

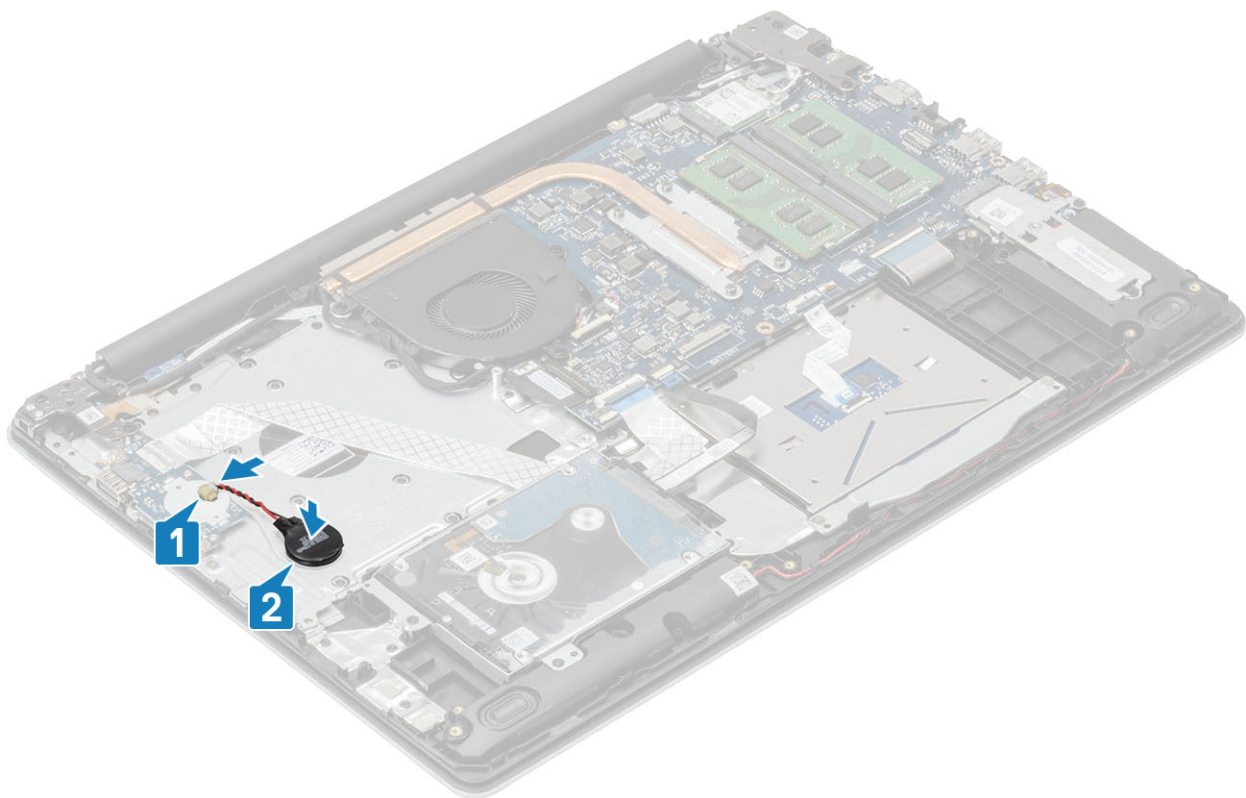
1. コイン型電池ケーブルを I/O ボードから外します [1]。
2. コイン型電池をパームレストとキーボード アセンブリーからはがします [2]。



コイン型電池の取り付け

手順

1. コイン型電池ケーブルを I/O ボードに接続します [1]。
2. コイン型電池をパームレストとキーボード アセンブリーに貼り付けます [2]。



次の手順

1. バッテリー ケーブルを接続します。
2. ベース カバーを取り付けます。
3. SD カードを取り付けます。
4. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います

ハードドライブアセンブリー

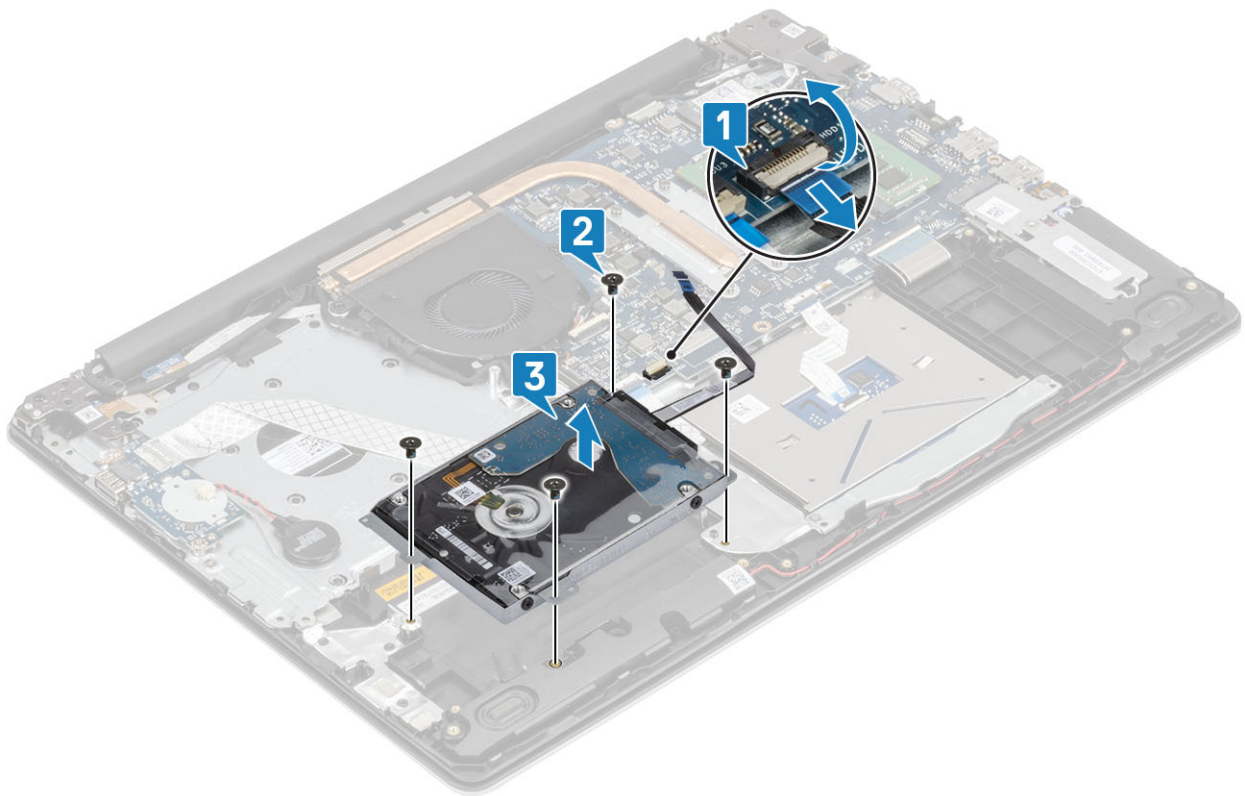
ハードドライブアセンブリーの取り外し

前提条件

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SD カードを取り出します。
3. ベース カバーを取り外します。
4. バッテリー ケーブルを外します。

手順

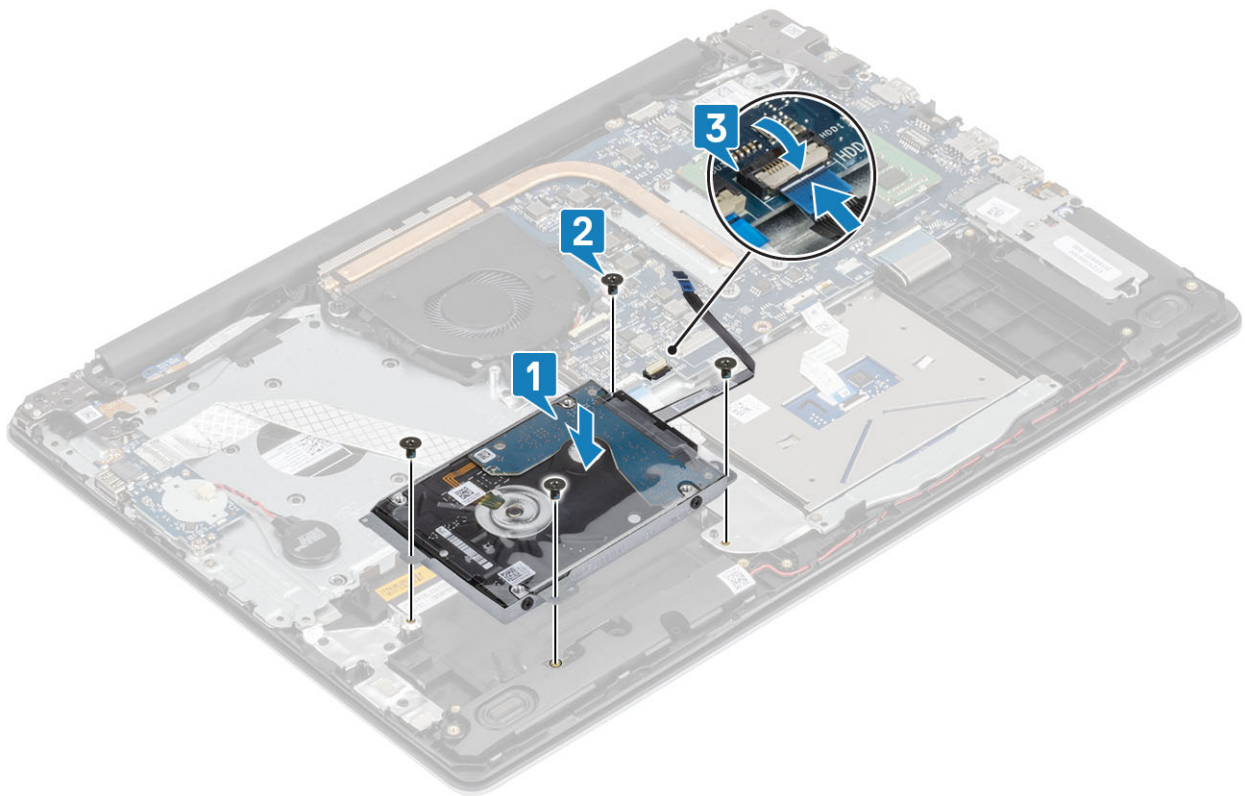
1. ラッチを持ち上げて、ハードドライブ ケーブルをシステム基板から外します [1]。
2. ハードドライブアセンブリーをパームレストとキーボードアセンブリーに固定している4本のネジ (M2x3) を取り外します [2]。
3. ハードドライブアセンブリーをケーブルと一緒に持ち上げ、パームレストとキーボードアセンブリーから取り外します [3]。



ハードドライブアセンブリの取り付け

手順

1. ハードドライブアセンブリのネジ穴をパームレストとキーボードアセンブリのネジ穴に合わせます [1]。
2. ハードドライブアセンブリをパームレストとキーボードアセンブリに固定する4本のネジ (M2x3) を取り付けます [2]。
3. ハードドライブケーブルをシステム基板に接続し、ラッチを閉じてケーブルを固定します [3]。



次の手順

1. バッテリー ケーブルを接続します。
2. ベース カバーを取り付けます。
3. SD カードを取り付けます。
4. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います

ハードドライブ

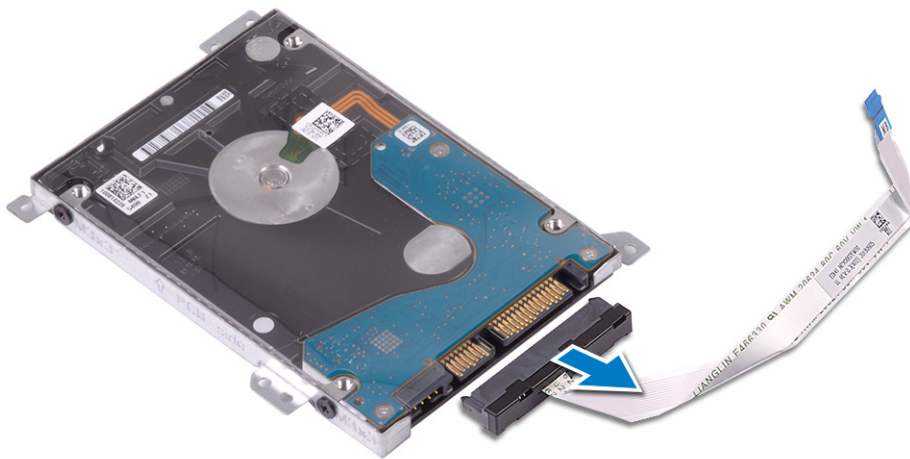
ハードドライブの取り外し

前提条件

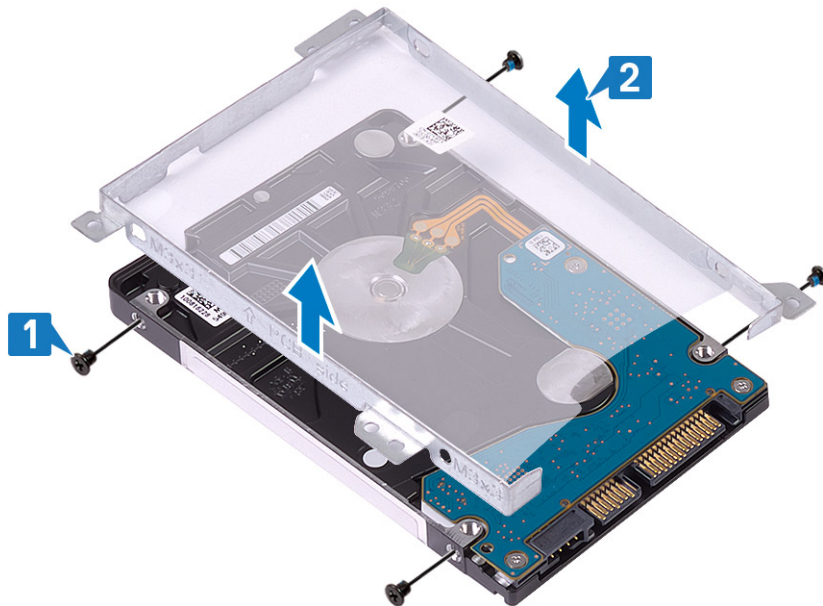
1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SD カードを取り出します。
3. ベース カバーを取り外します。
4. バッテリー ケーブルを外します。
5. ハードドライブアセンブリーを取り外します。

手順

1. ハードドライブアセンブリーからインターポーターを外します。



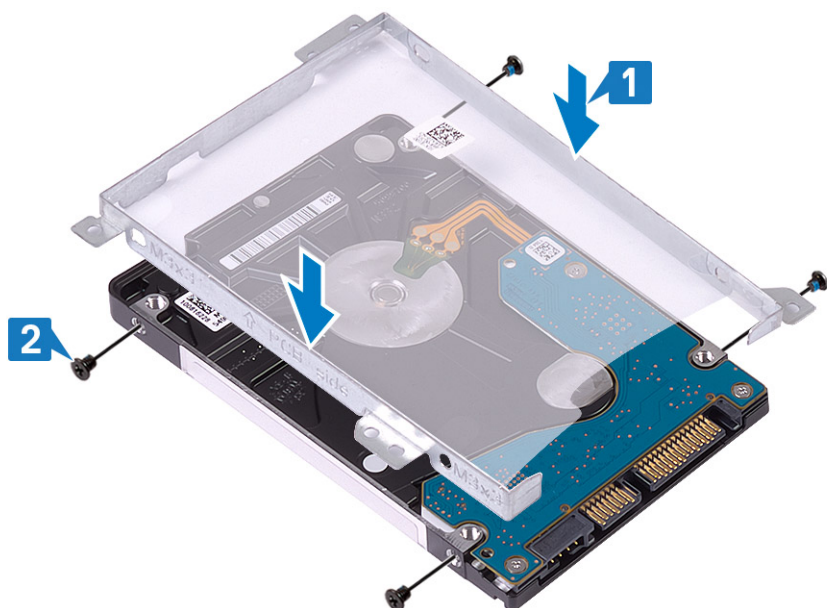
2. ハードドライブブラケットをハードドライブに固定している4本のネジ (M3x3) を取り外します [1]。
3. ハードドライブブラケットを持ち上げて、ハードドライブから取り外します [2]。



ハードドライブの取り付け

手順

1. ハードドライブブラケットのネジ穴をハードドライブのネジ穴に合わせます [1]。
2. ハードドライブブラケットをハードドライブに固定する4本のネジ (M3x3) を取り付けます [2]。



3. インターポーザーをハードドライブアセンブリーに接続します。



次の手順

1. ハードドライブアセンブリーを取り付けます。
2. バッテリーケーブルを接続します。
3. ベースカバーを取り付けます。
4. SDカードを取り付けます。
5. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います

システムファン

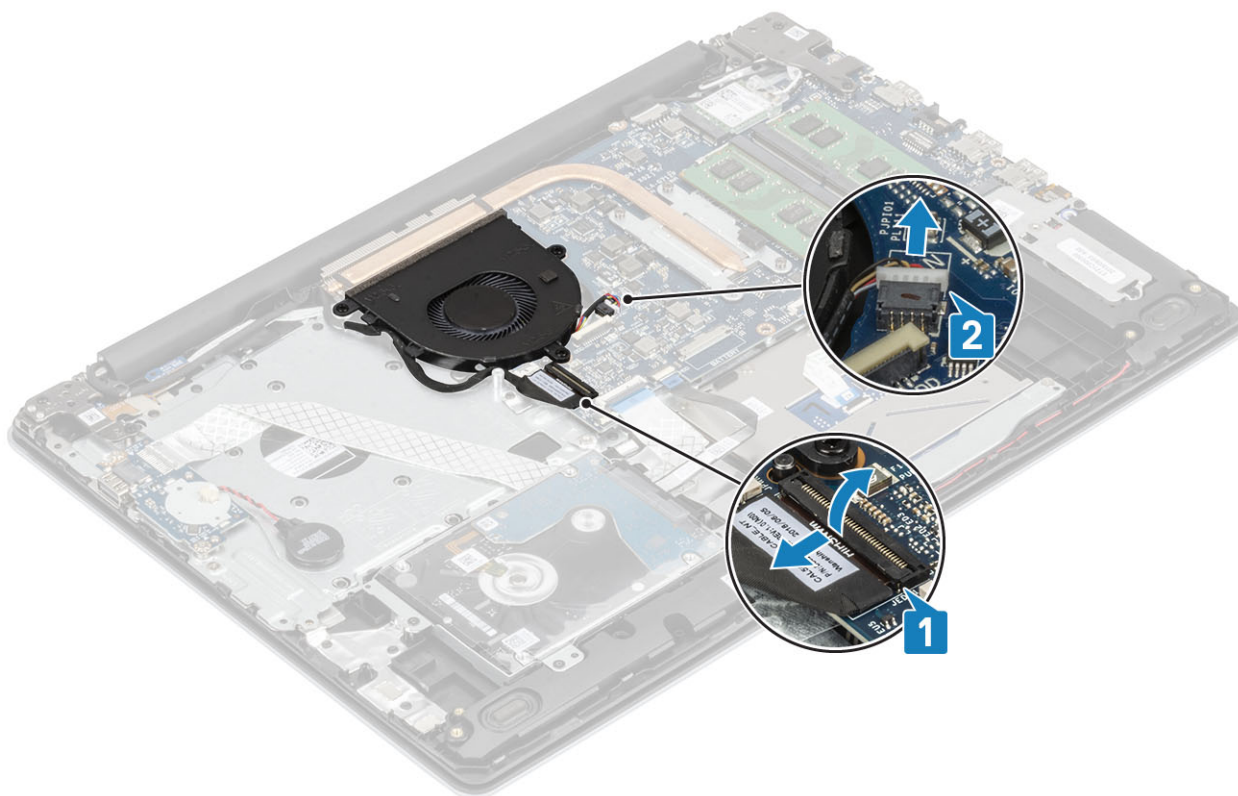
システムファンの取り外し

前提条件

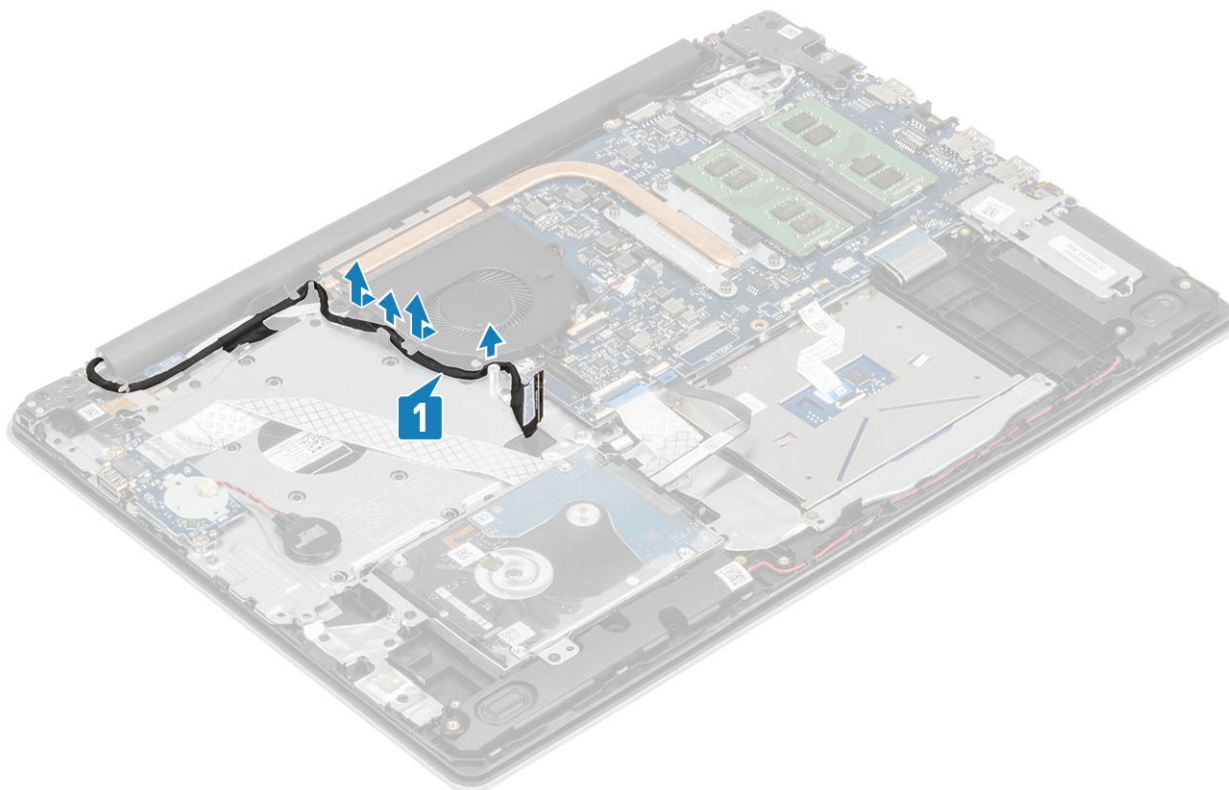
1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SDカードを取り出します。
3. ベースカバーを取り外します。
4. バッテリーケーブルを外します

手順

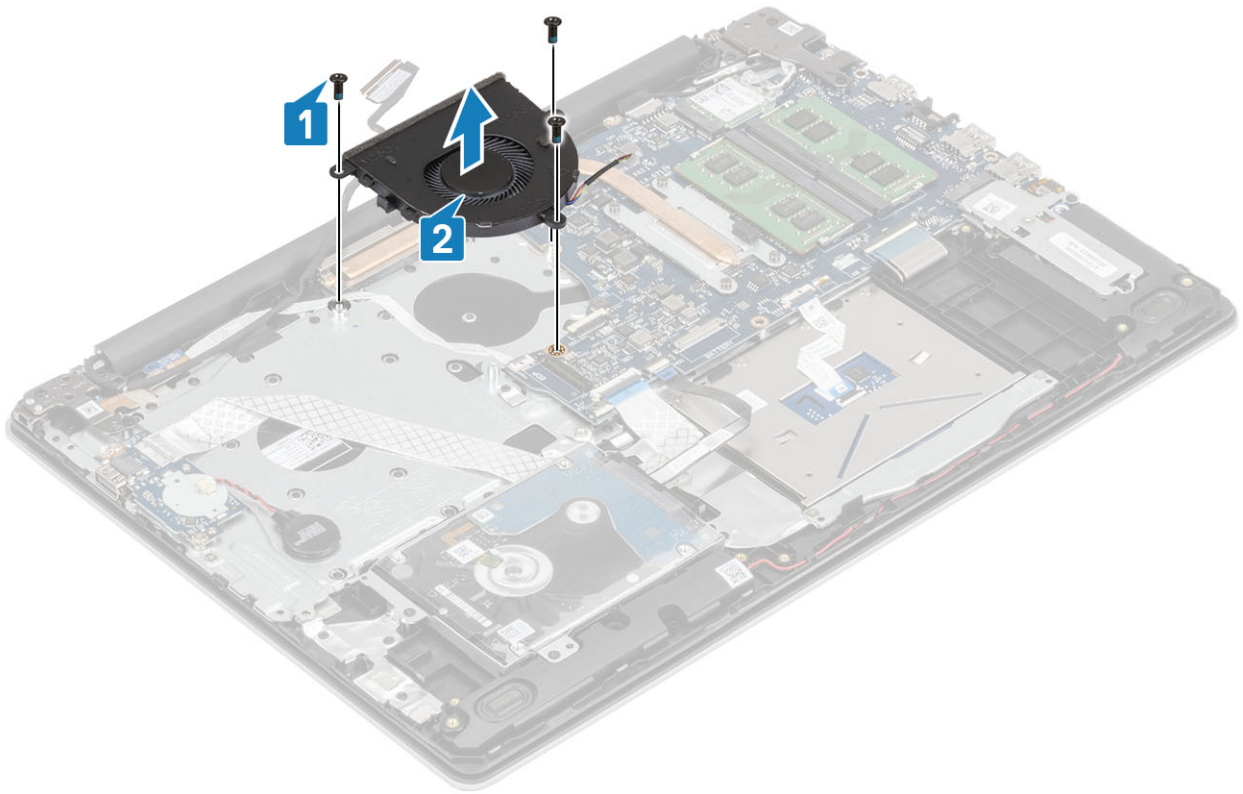
1. モニターケーブル [1] とシステム ファン ケーブル [2] をシステム基板から取り外します。



2. モニターケーブルをファンの配線ガイドから外します [1]。



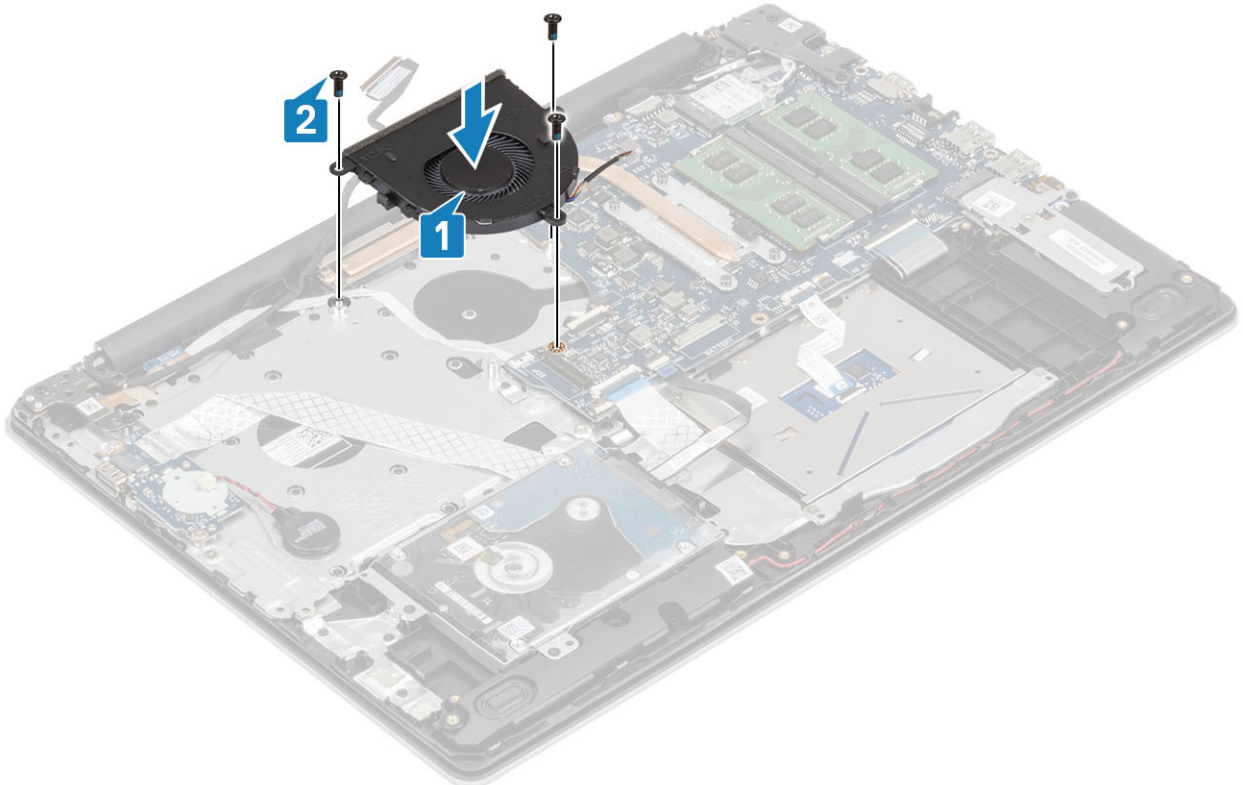
3. ファンをパームレストとキーボード アセンブリーに固定している 3 本のネジ (M2x5) を外し、システム ファンを持ち上げてシステムから取り外します。



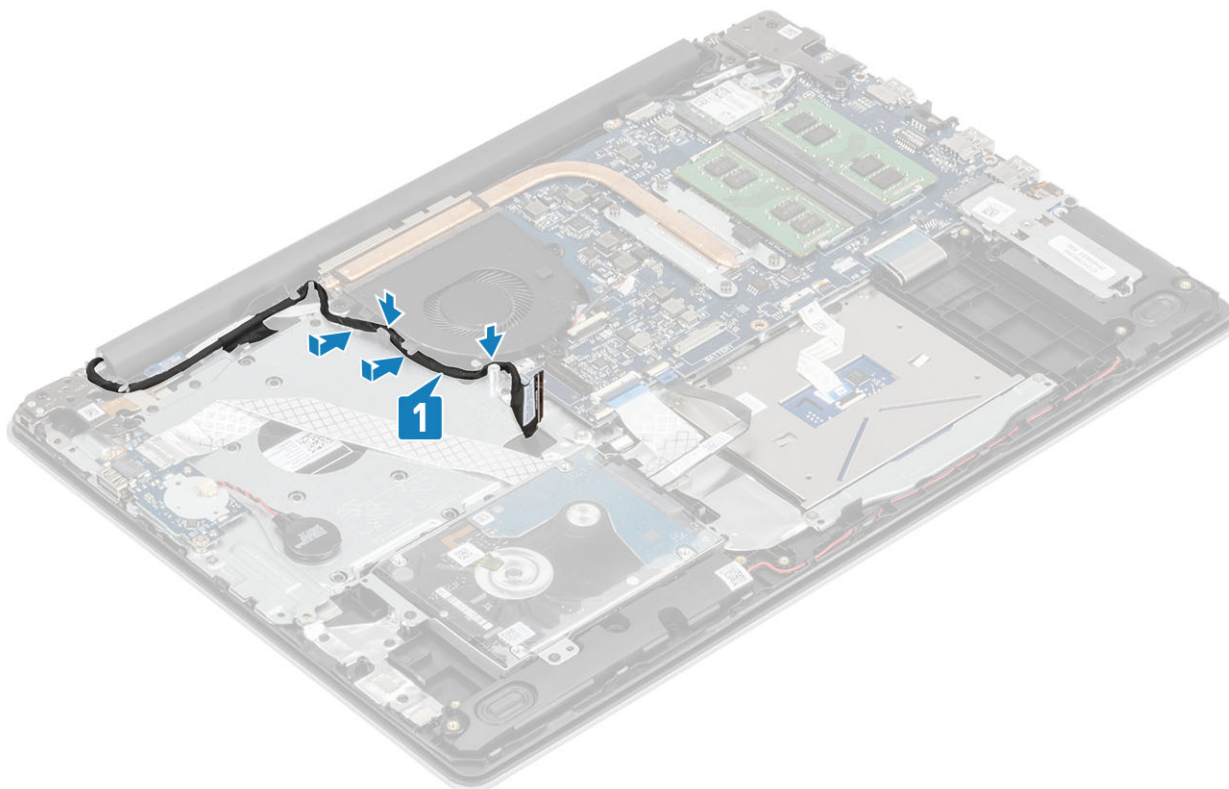
システムファンの取り付け

手順

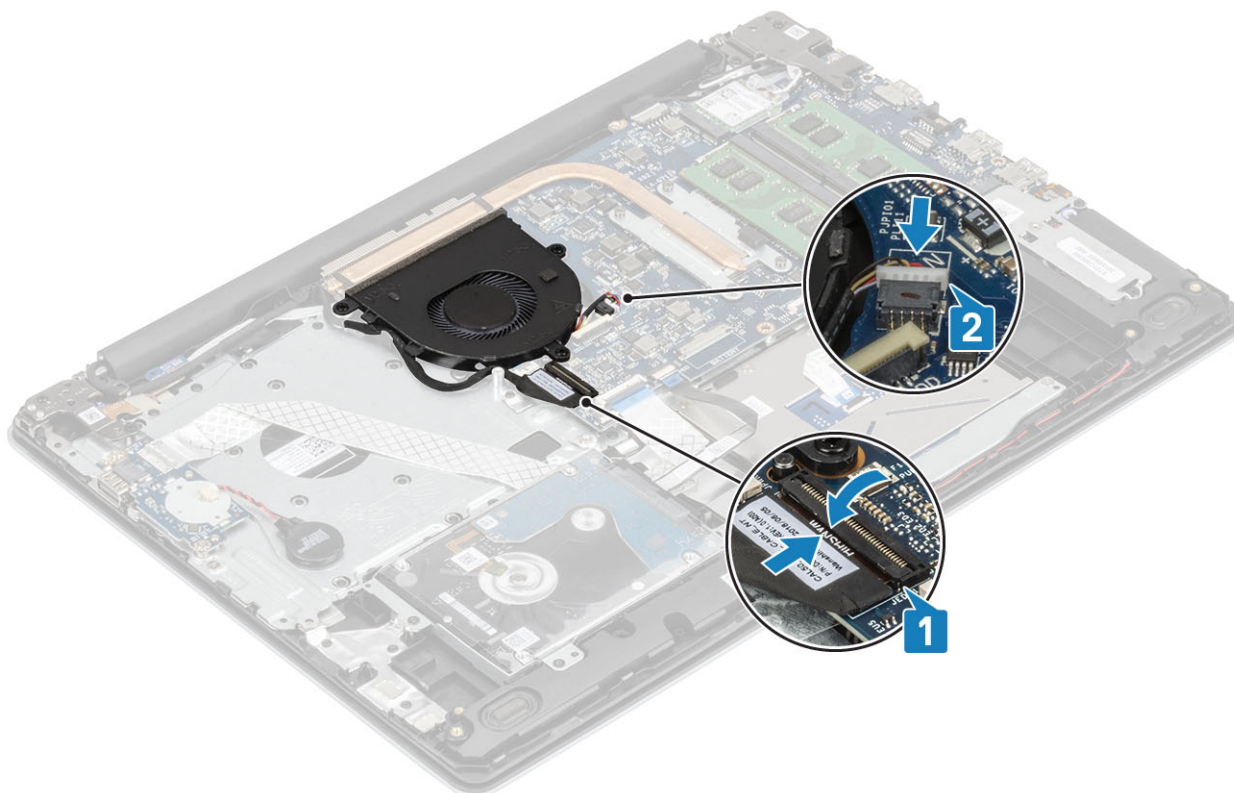
1. ファンのネジ穴をパームレストとキーボード基板アセンブリーのネジ穴に合わせます [1]。
2. ファンをパームレストとキーボード基板アセンブリーに固定する3本の (M2.5x5) ネジを取り付けます [2]。



3. モニターケーブルをファンの配線ガイドに沿って配線します [1]。



4. モニターケーブルとファンケーブルをシステム基板に接続します [1、2]。



次の手順

1. バッテリーケーブルを接続します。
2. ベースカバーを取り付けます。

3. SD カードを取り付けます。
4. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います

ヒートシンク

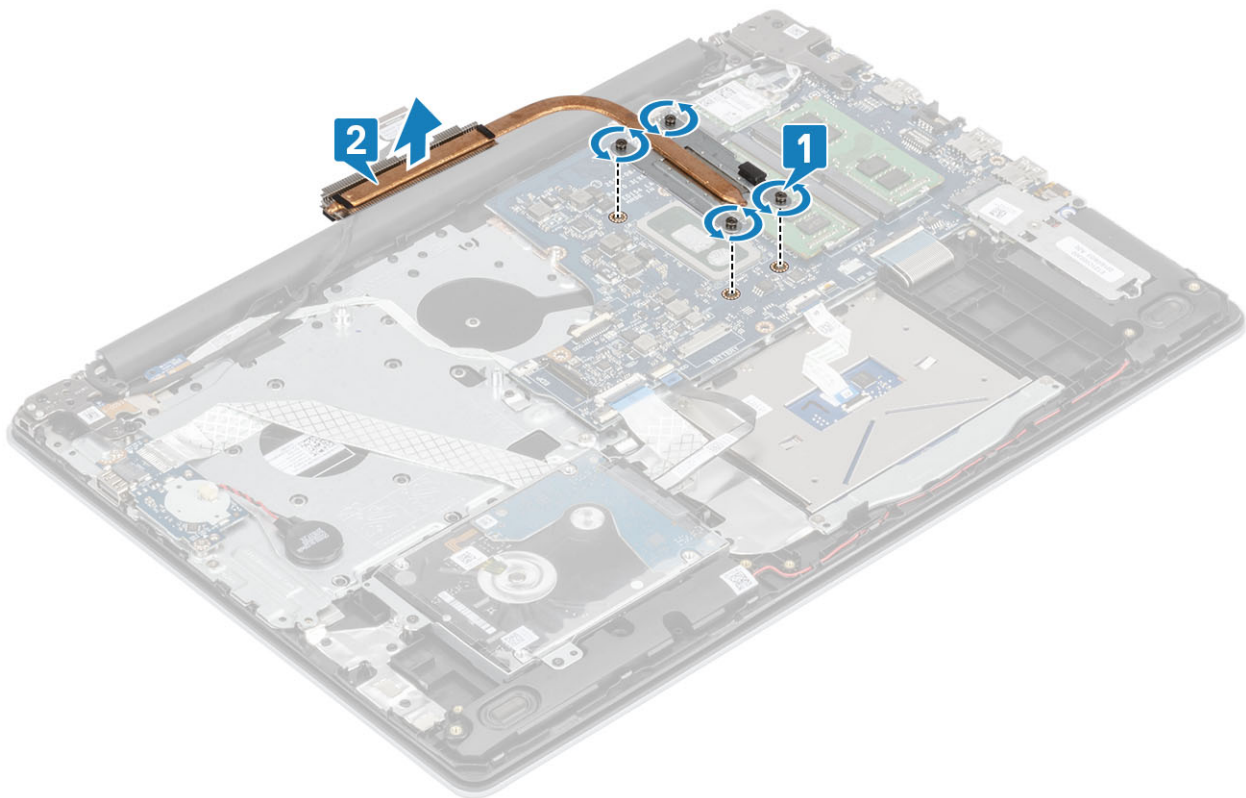
ヒートシンクの取り外し

前提条件

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SD メモリ カードを取り外します。
3. ベースカバーを取り外します。
4. バッテリー ケーブルを外します
5. システム ファンを取り外します。

手順

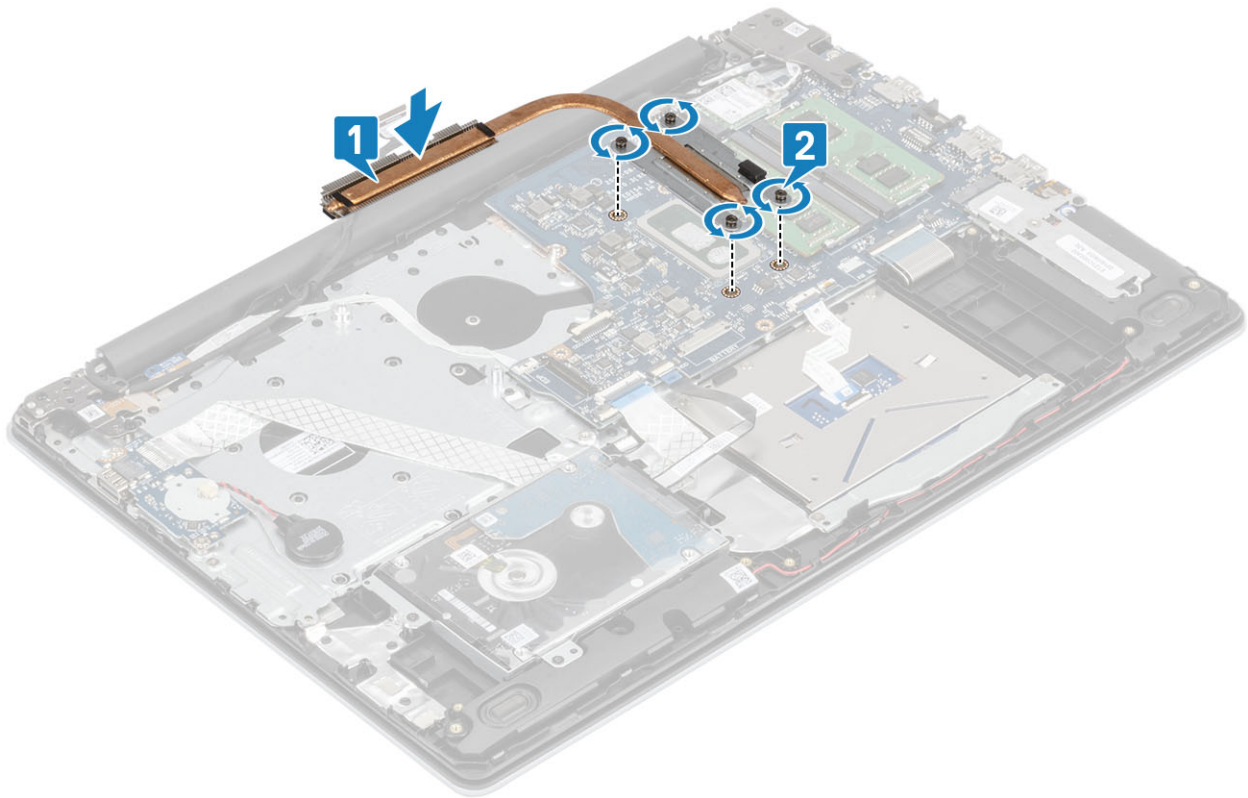
1. ヒートシンクをシステム基板に固定している 4 本の拘束ネジを緩めます [1]。
① | メモ: ヒートシンク上に示されている番号順 [1、2、3、4] にネジを緩めます。
2. ヒートシンクを持ち上げて、システム基板から取り外します [2]。



ヒートシンクの取り付け

手順

1. ヒートシンクをシステム基板にセットし、ヒートシンクのネジ穴をシステム基板のネジ穴に合わせます [1]。
2. ヒートシンク上に表示されているシーケンシャルな順序で、ヒートシンクをシステム基板に固定する 4 本の拘束ネジを締めます [2]。



次の手順

1. システム ファンを取り付けます
2. バッテリー ケーブルを接続します。
3. ベース カバーを取り付けます
4. SD メモリ カードを取り付けます
5. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います

スピーカー

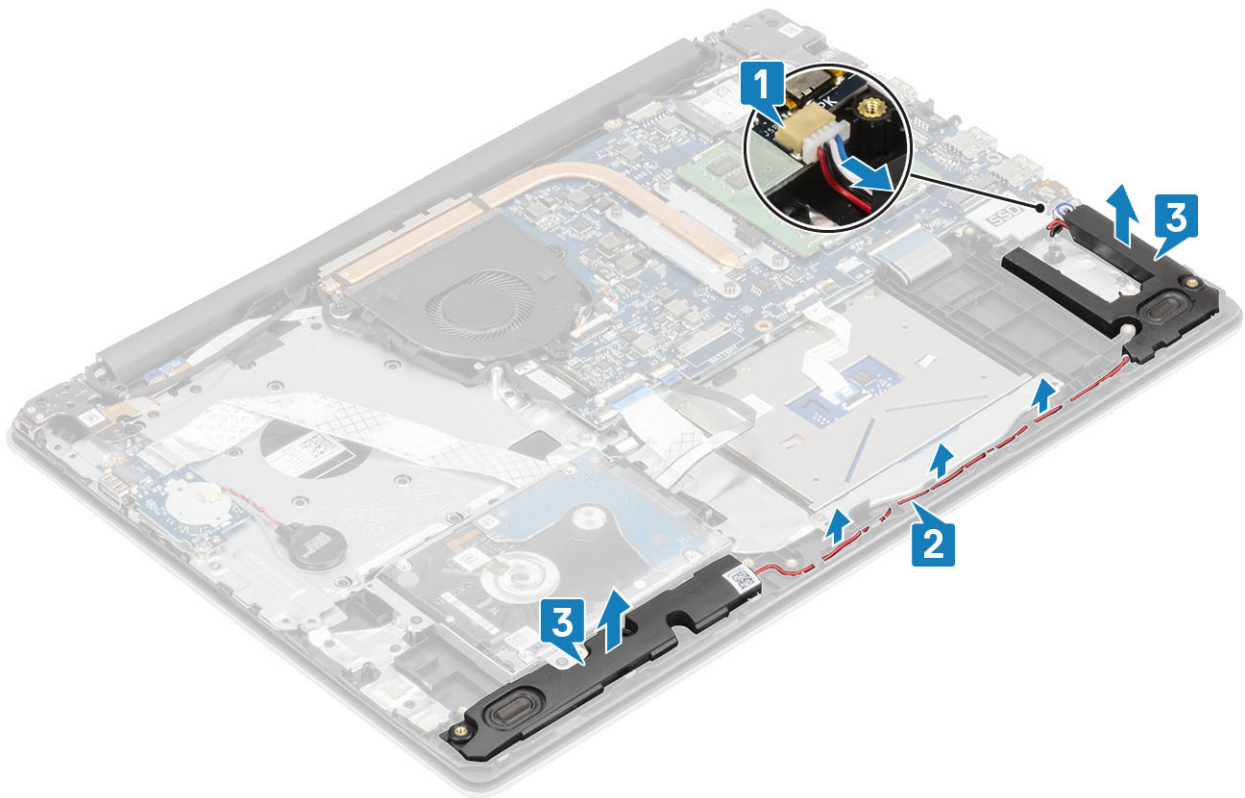
スピーカーの取り外し

前提条件

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SD メモリ カードを取り外します。
3. ベースカバーを取り外します。
4. バッテリー ケーブルを外します

手順

1. スピーカーケーブルをシステム基板から外します [1]。
2. パームレストとキーボード アセンブリーの配線ガイドからスピーカー ケーブルの配線を外します [2]。
3. スピーカーをケーブルと一緒に持ち上げて、パームレストとキーボード アセンブリーから取り外します [3]。



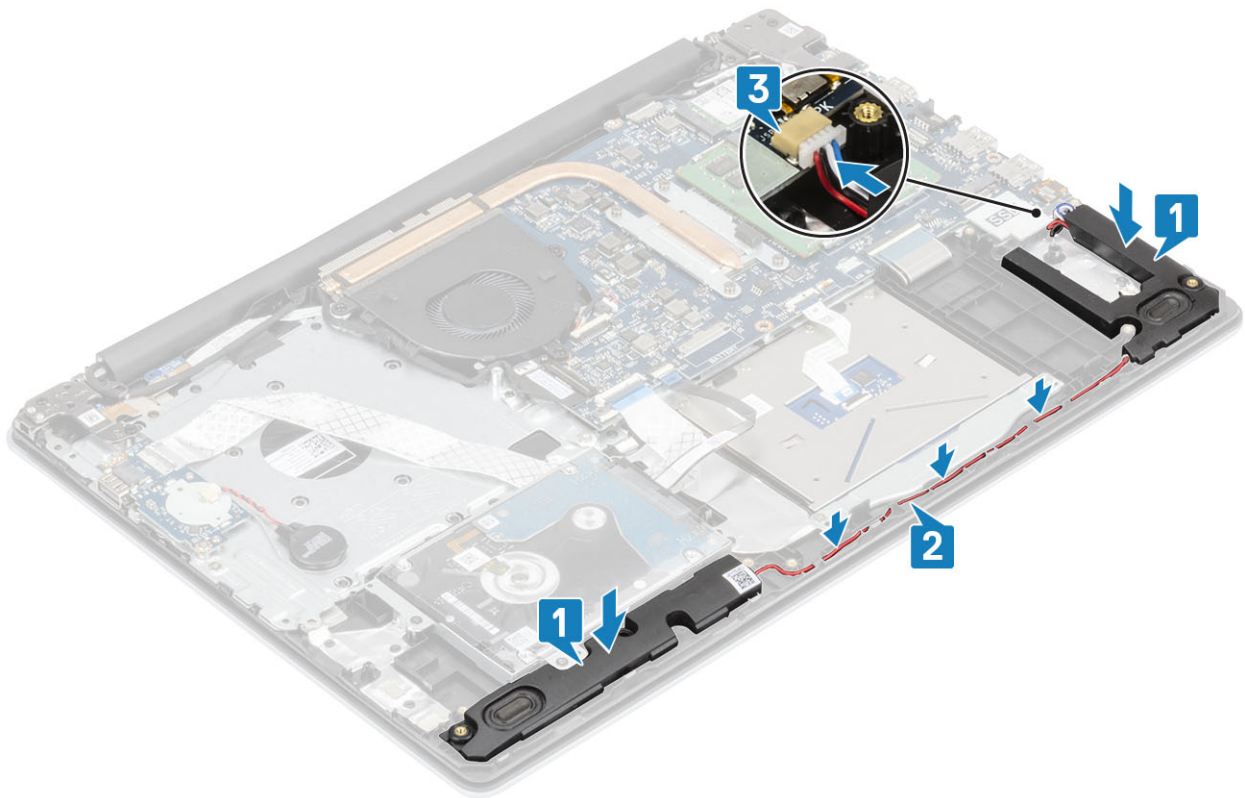
スピーカーの取り付け

このタスクについて

① **メモ:** スピーカーを取り外す際にゴム製グロメットが押し出された場合は、スピーカーの取り付け前に押し戻します。

手順

1. 位置合わせポストとゴム製グロメットを使用して、スピーカーをパームレストとキーボードアセンブリーのスロットにセットします [1]。
2. スピーカーケーブルをパームレストとキーボードアセンブリーの配線ガイドに沿って配線します [2]。
3. システム基板にスピーカーケーブルを接続します [3]。



次の手順

1. バッテリー ケーブルを接続します。
2. ベース カバーを取り付けます。
3. SD メモリ カードを取り付けます。
4. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います

IO ボード

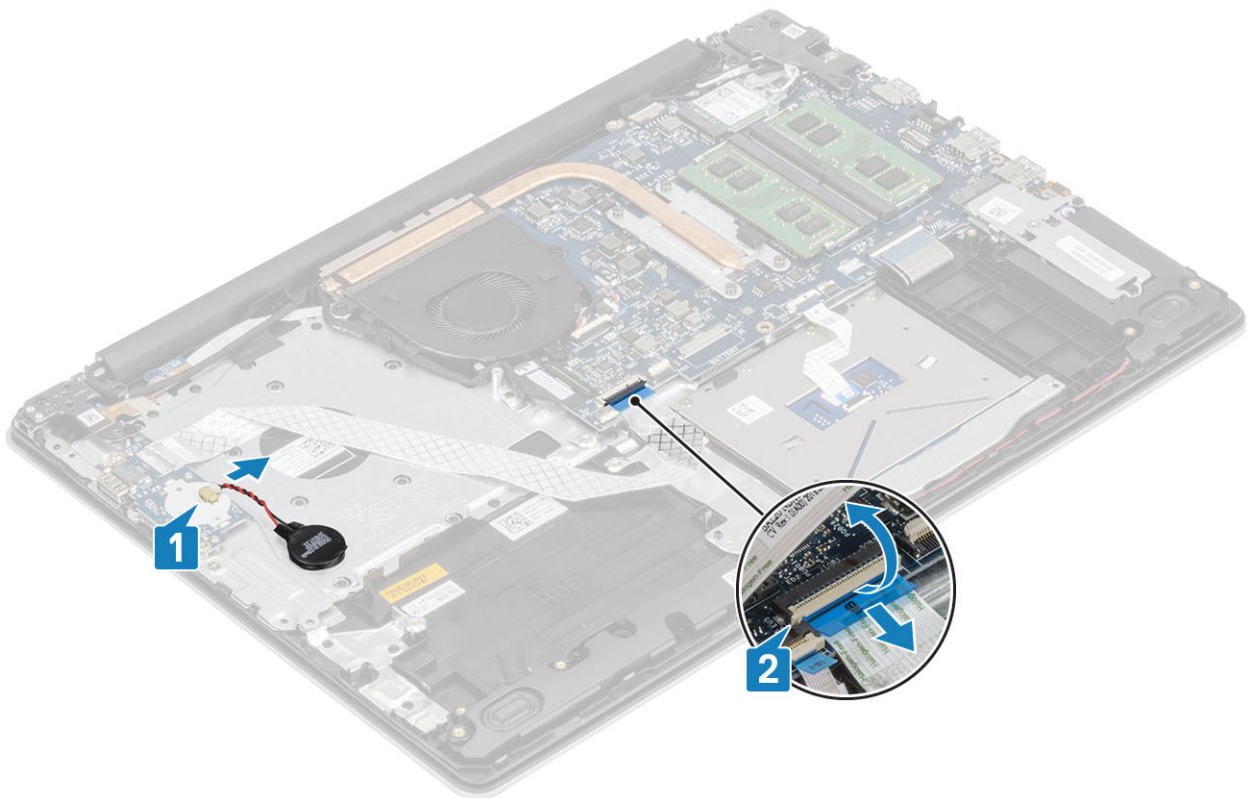
IO ボードの取り外し

前提条件

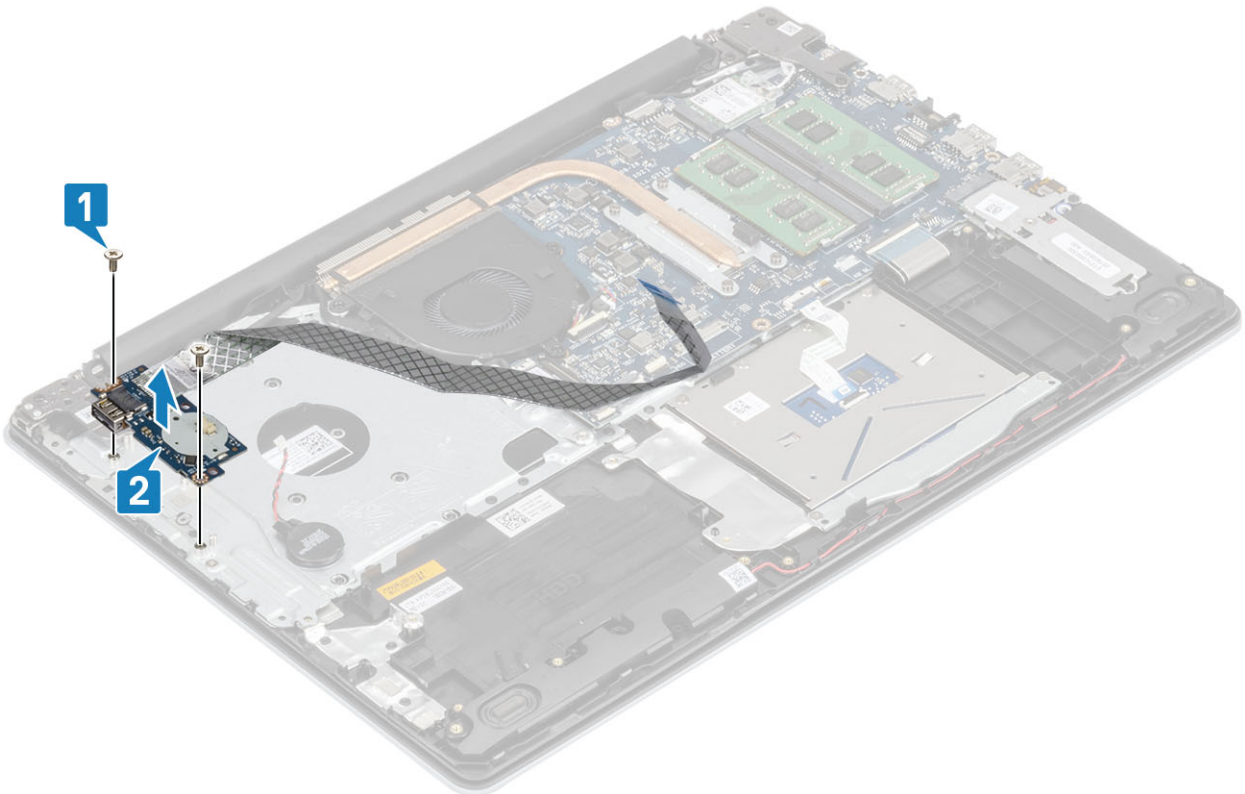
1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SD メモリ カードを取り外します。
3. ベースカバーを取り外します。
4. バッテリー ケーブルを外します
5. ハードドライブアセンブリーを取り外します。

手順

1. コイン型電池ケーブルを I/O ボードから外します [1]。
2. ラッチを開き、I/O ボード ケーブルをシステム基板から外します [2]。



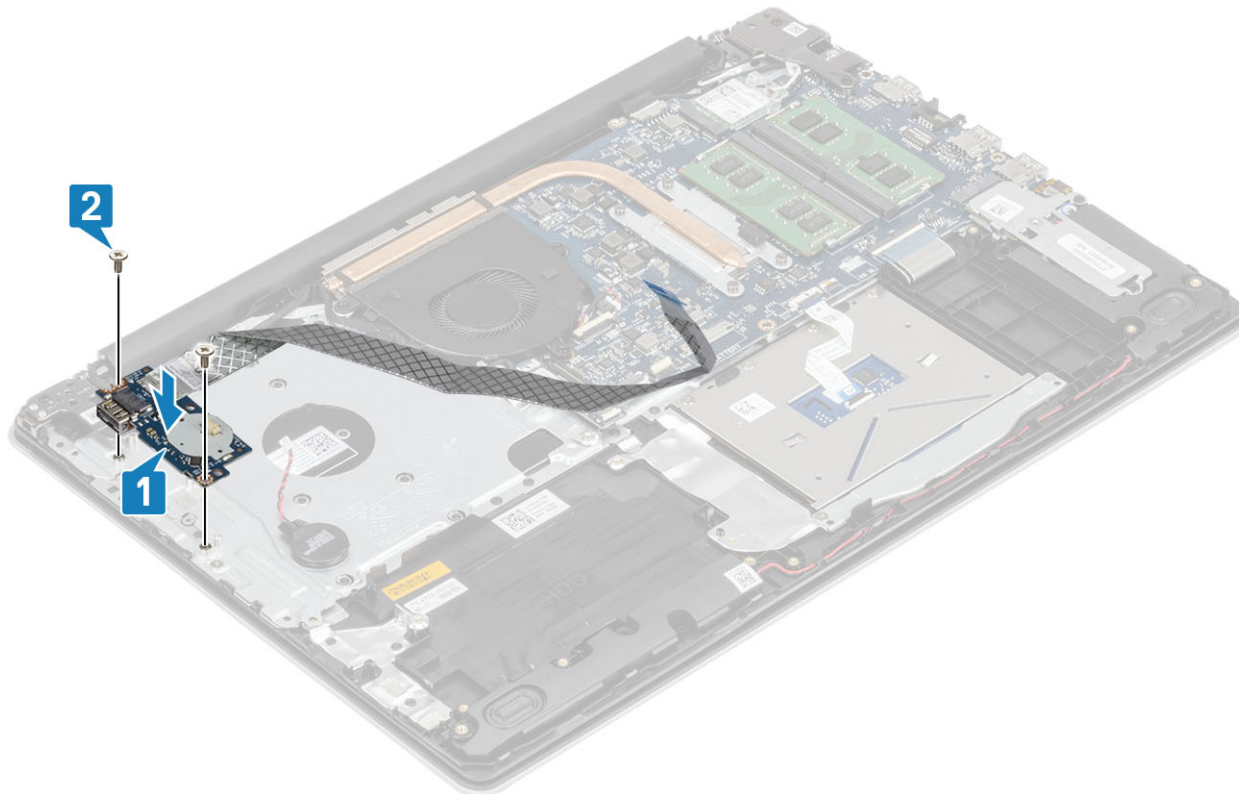
3. I/O ボードをパームレストとキーボード アセンブリーに固定している 2 本のネジ (M2x4) を外します [1]。
4. I/O ボードをケーブルと一緒に持ち上げて、パームレストとキーボード アセンブリーから取り外します [2]。



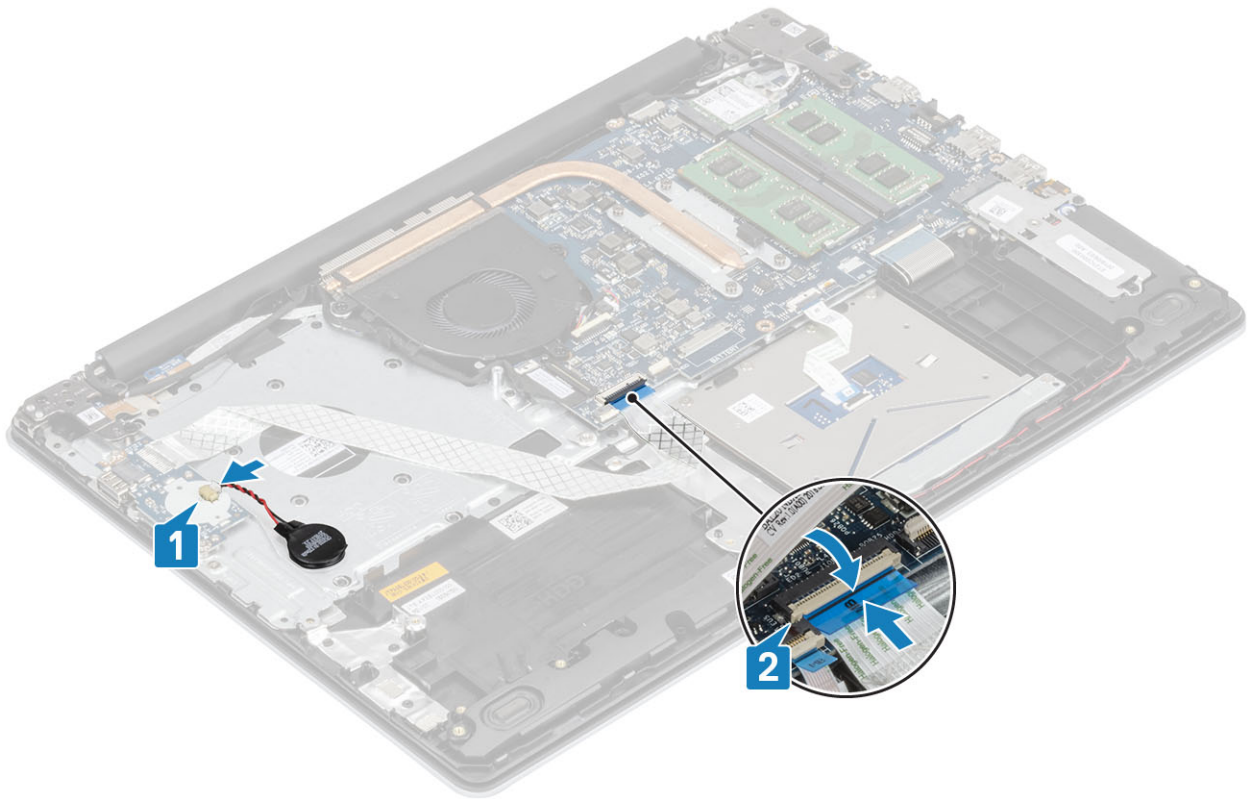
IO ボードの取り付け

手順

1. 位置合わせポストを使用して、I/O ボードをパームレストとキーボードアセンブリーにセットします [1]。
2. I/O ボードをパームレストとキーボードアセンブリーに固定する 2 本のネジ (M2x4) を取り付けます [2]。



3. コイン型電池ケーブルを I/O ボードに接続します [1]。
4. I/O ボードケーブルをシステム基板に接続し、ラッチを閉じてケーブルを固定します [2]。



次の手順

1. ハードドライブアセンブリーを取り付けます。
2. バッテリー ケーブルを接続します。
3. ベース カバーを取り付けます。
4. SD メモリ カードを取り付けます。
5. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います

タッチパッド

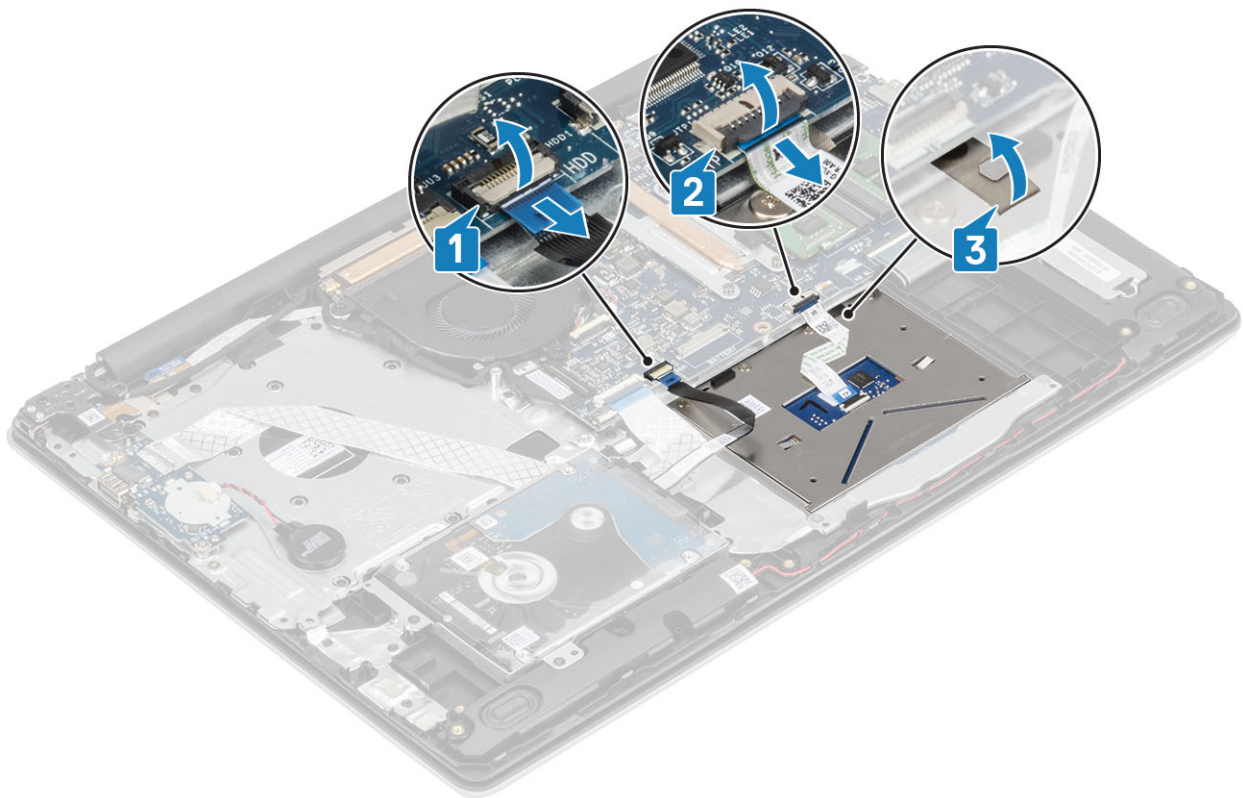
タッチパッド アセンブリーの取り外し

前提条件

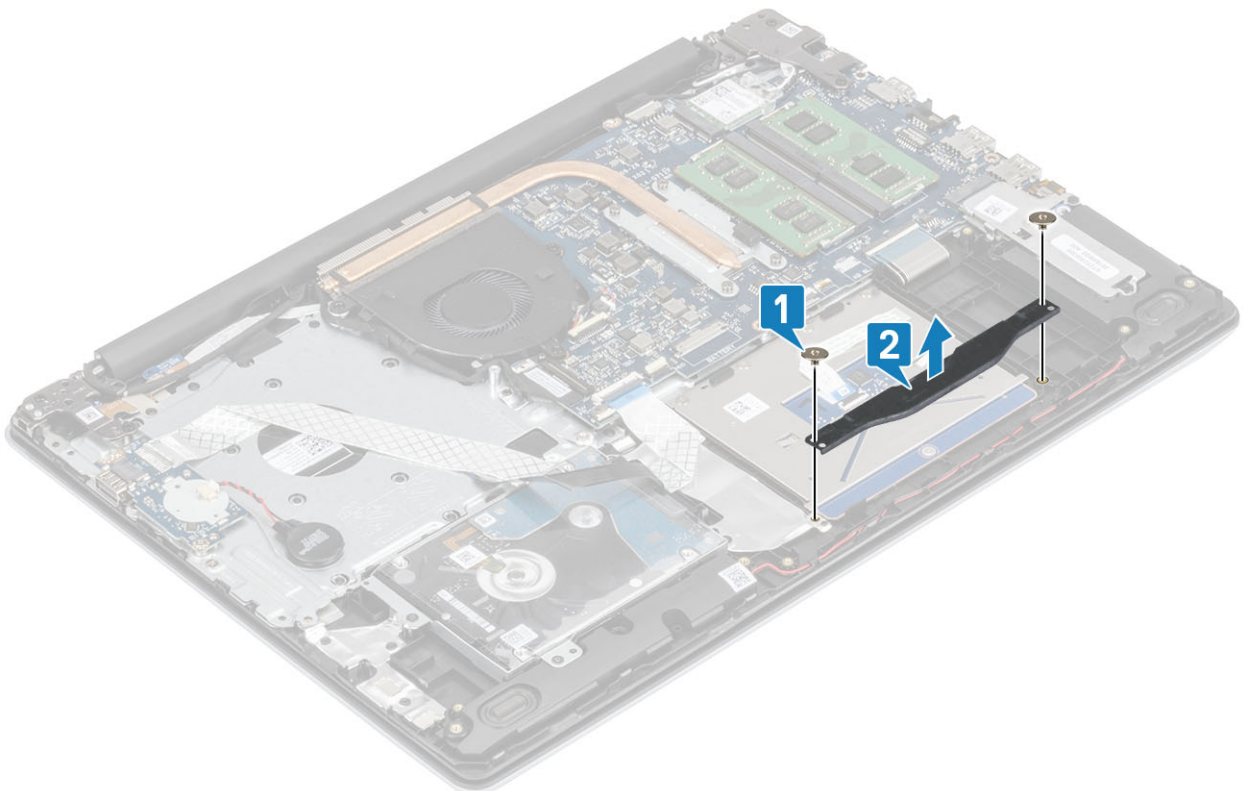
1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SD メモリ カードを取り外します。
3. ベースカバーを取り外します。
4. バッテリー ケーブルを外します

手順

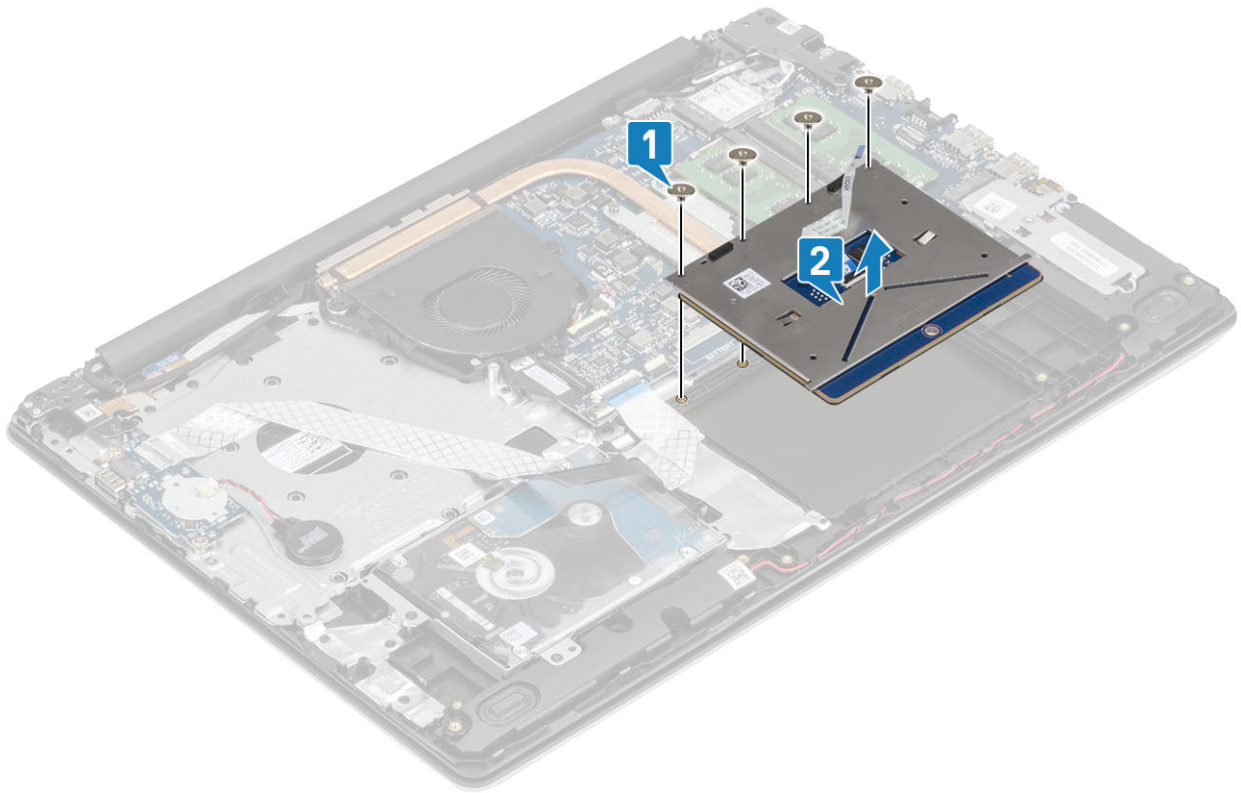
1. ラッチを開いて、ハードドライブケーブルとタッチパッドケーブルをシステム基板から外します [1、2]。
2. タッチパッドをパームレストとキーボード アセンブリーに固定しているテープをはがします [3]。



3. タッチパッド ブラケットをパームレストとキーボード アセンブリーに固定している 2 本のネジ (M2x2) を外します [1]。
4. タッチパッド ブラケットを持ち上げて、パームレストとキーボード アセンブリーから取り外します [2]。



5. タッチパッドをパームレストとキーボード アセンブリーに固定している 4 本のネジ (M2x2) を外します [1]。
6. タッチパッドを持ち上げて、パームレストとキーボード アセンブリーから取り外します [2]。



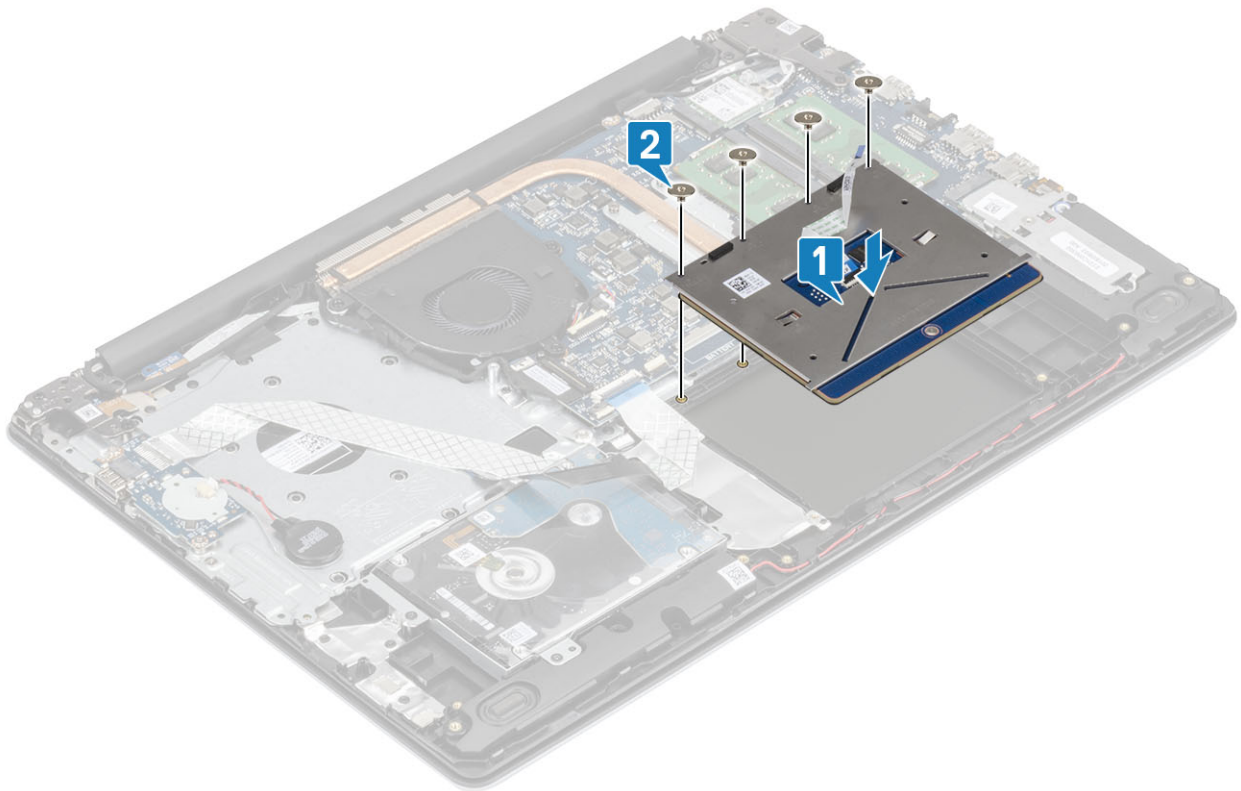
タッチパッドアセンブリの取り付け

このタスクについて

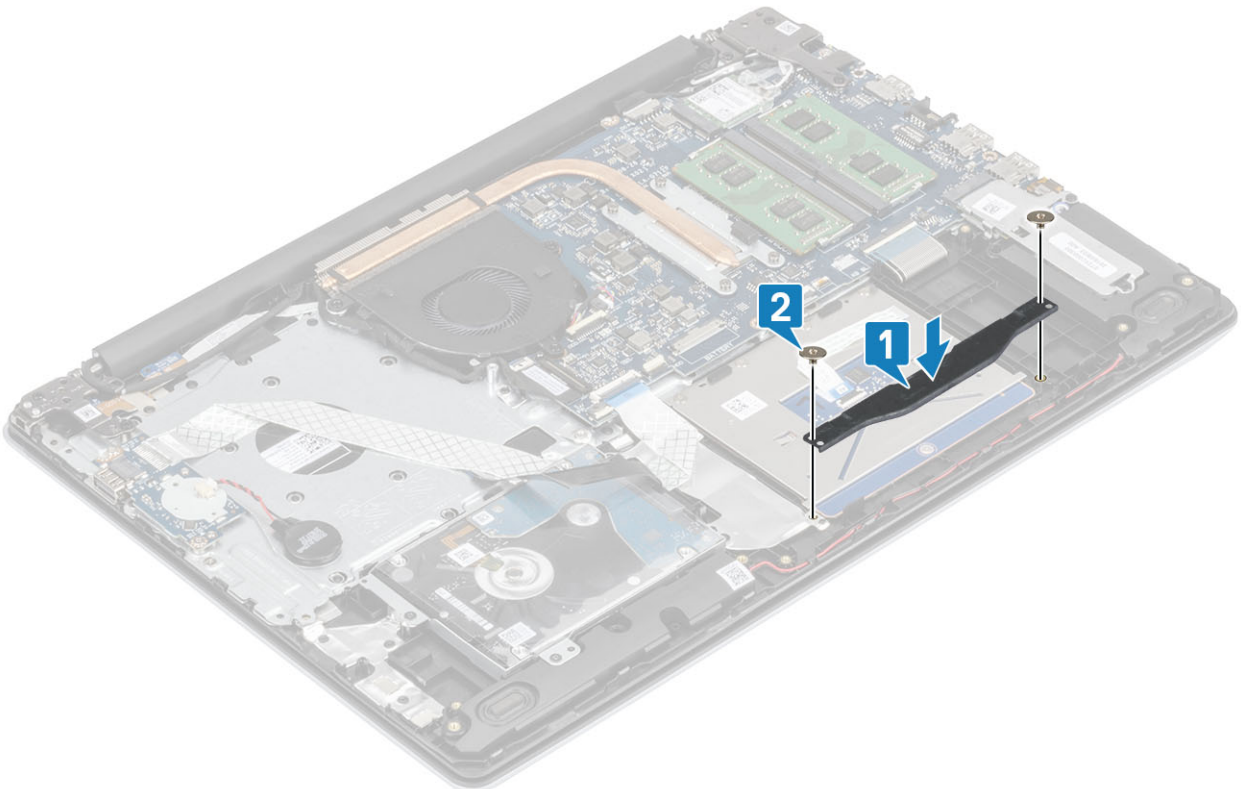
① **メモ:** タッチパッドがパームレストとキーボードアセンブリで利用可能なガイドと揃っていて、タッチパッドの両側のギャップが等しいことを確認します。

手順

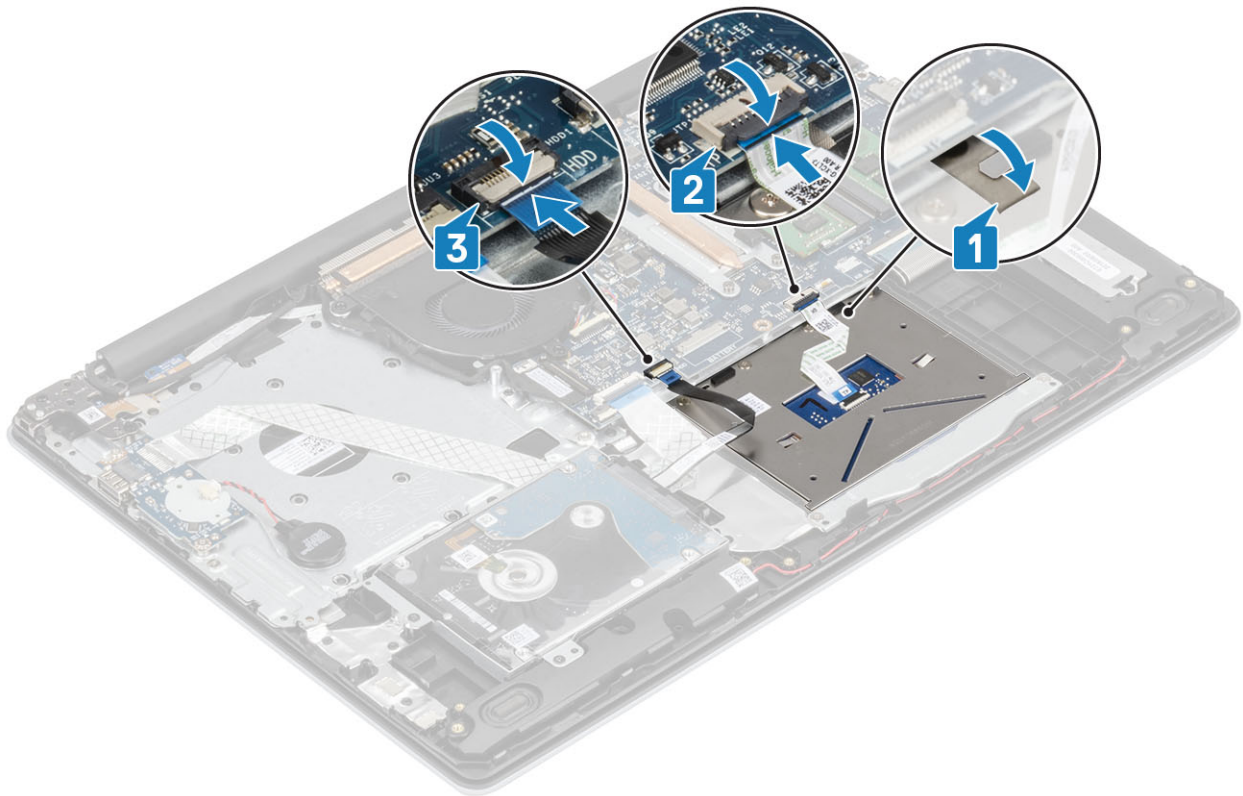
1. タッチパッドをパームレストとキーボードアセンブリのスロットに差し込みます [1]。
2. タッチパッドをパームレストとキーボードアセンブリに固定する4本のネジ (M2x2) を取り付けます [2]。



3. タッチパッド ブラケットをパームレストとキーボード アセンブリーのスロットに差し込みます [1]。
4. タッチパッド ブラケットをパームレストとキーボード アセンブリーに固定する2本のネジ (M2x2) を取り付けます [2]。



5. ハードドライブ ケーブルとタッチ パッド ケーブルをシステム基板のコネクタに差し込み、ラッチを閉じてケーブルを固定します [3、2]。
6. タッチパッドをパームレストとキーボード アセンブリーに固定するテープを貼り付けます [1]。



次の手順

1. バッテリー ケーブルを接続します。
2. ベース カバーを取り付けます。
3. SD カードを取り付けます。
4. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います

ディスプレイアセンブリ

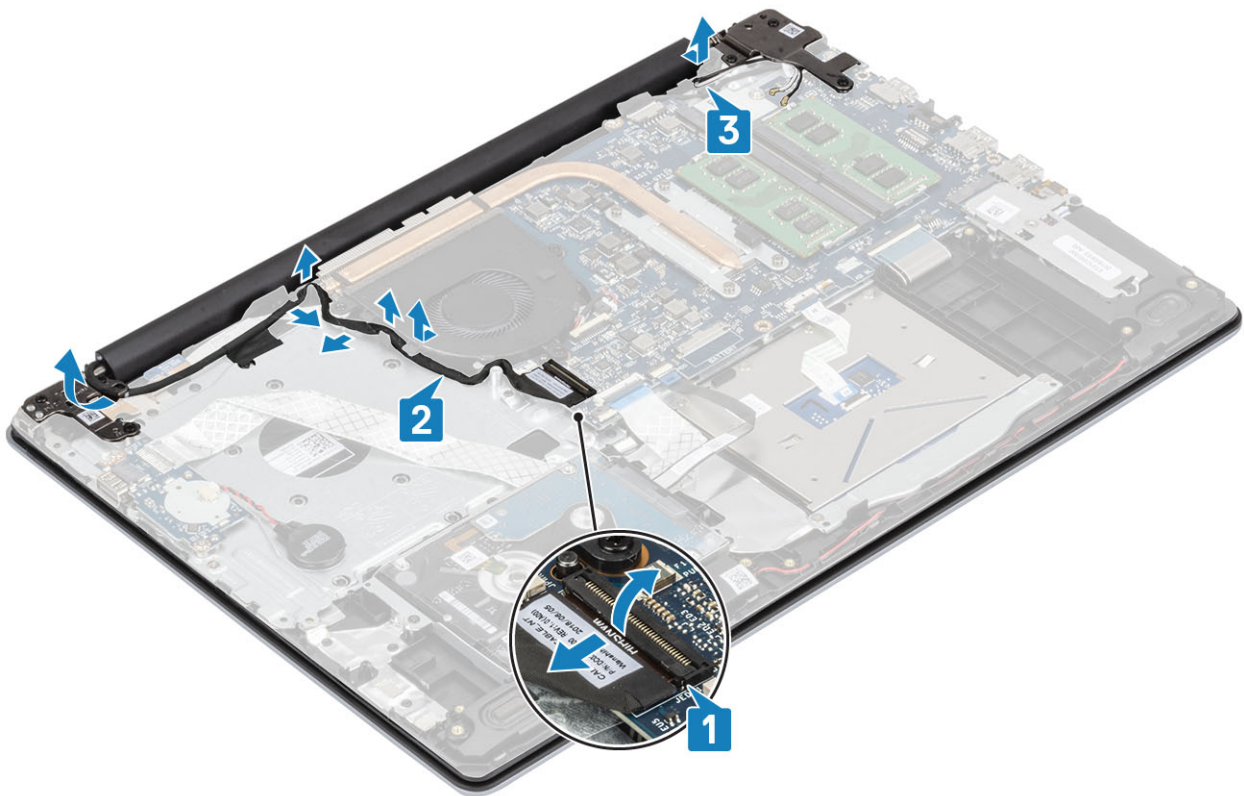
ディスプレイアセンブリの取り外し

前提条件

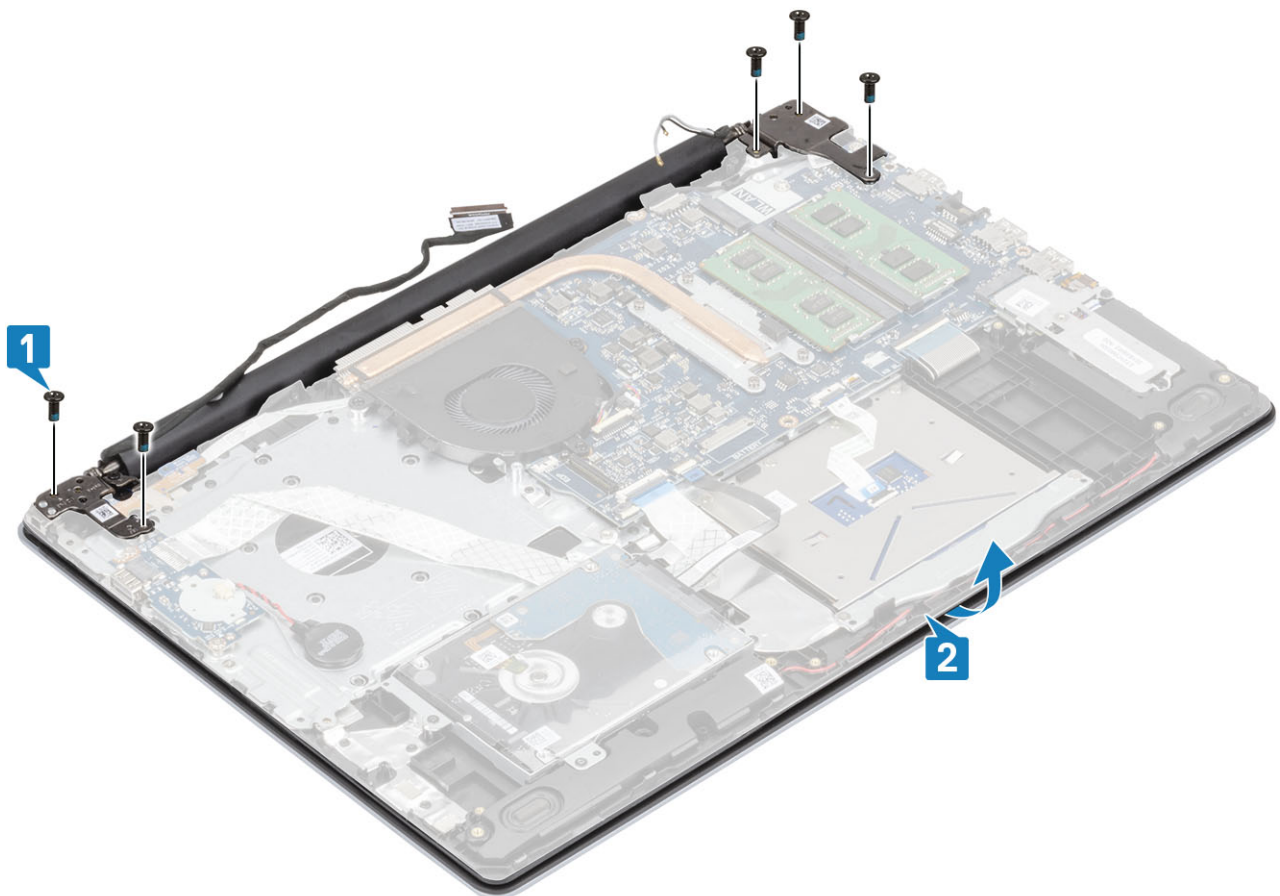
1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SD カードを取り出します。
3. ベースカバーを取り外します。
4. バッテリー ケーブルを外します
5. WLAN を取り外します。

手順

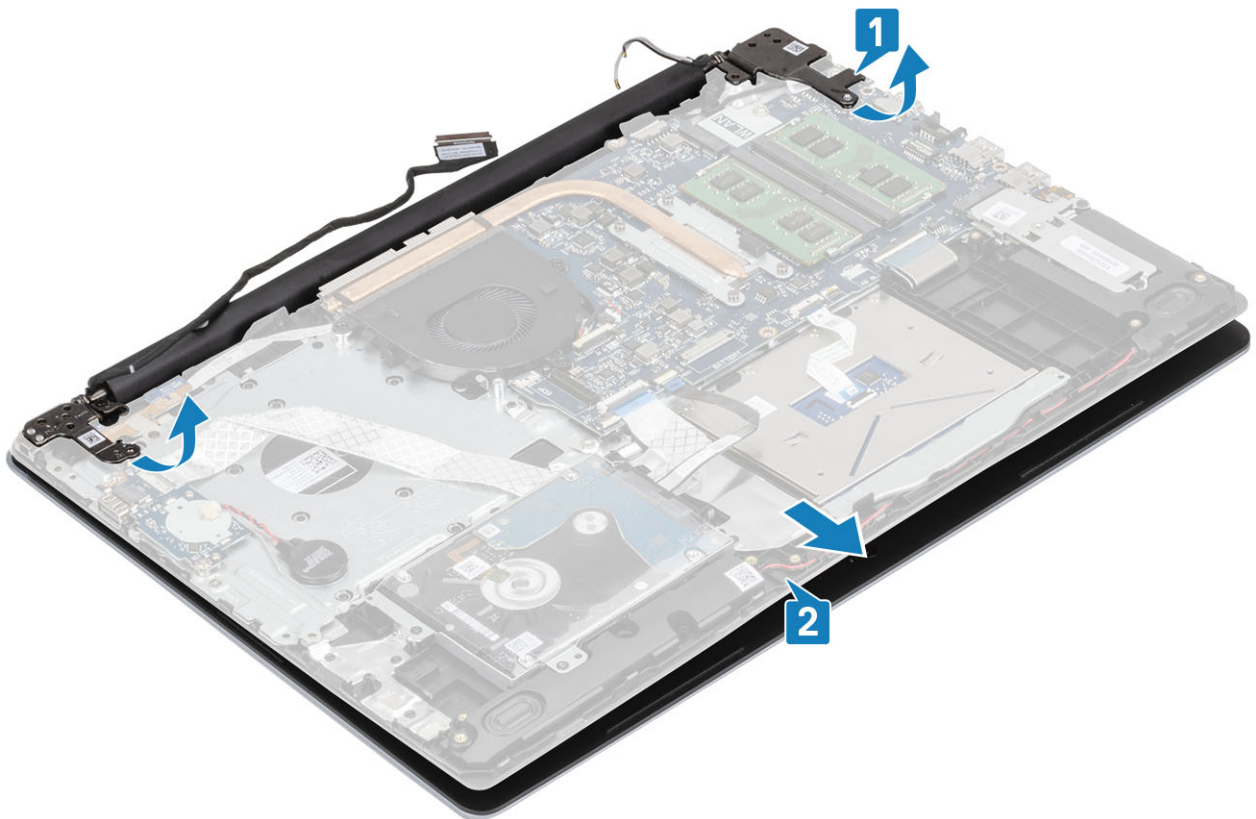
1. ラッチを開き、システム基板からモニターケーブルを外します [1]。
2. パームレストとキーボードアセンブリの配線ガイドからモニターケーブルを外します [2]。
3. ワイヤレスアンテナを固定しているテープをシステム基板からはがします [3]。



4. 左右のヒンジをシステム基板とパームレストおよびキーボード アセンブリーに固定している 5 本の (M2.5x5) ネジを取り外します [1]。
5. パームレストとキーボード アセンブリーを傾けて持ち上げます [2]。



6. ヒンジを持ち上げてパームレストとキーボード アセンブリーをディスプレイ アセンブリーから取り外します [1、2]。



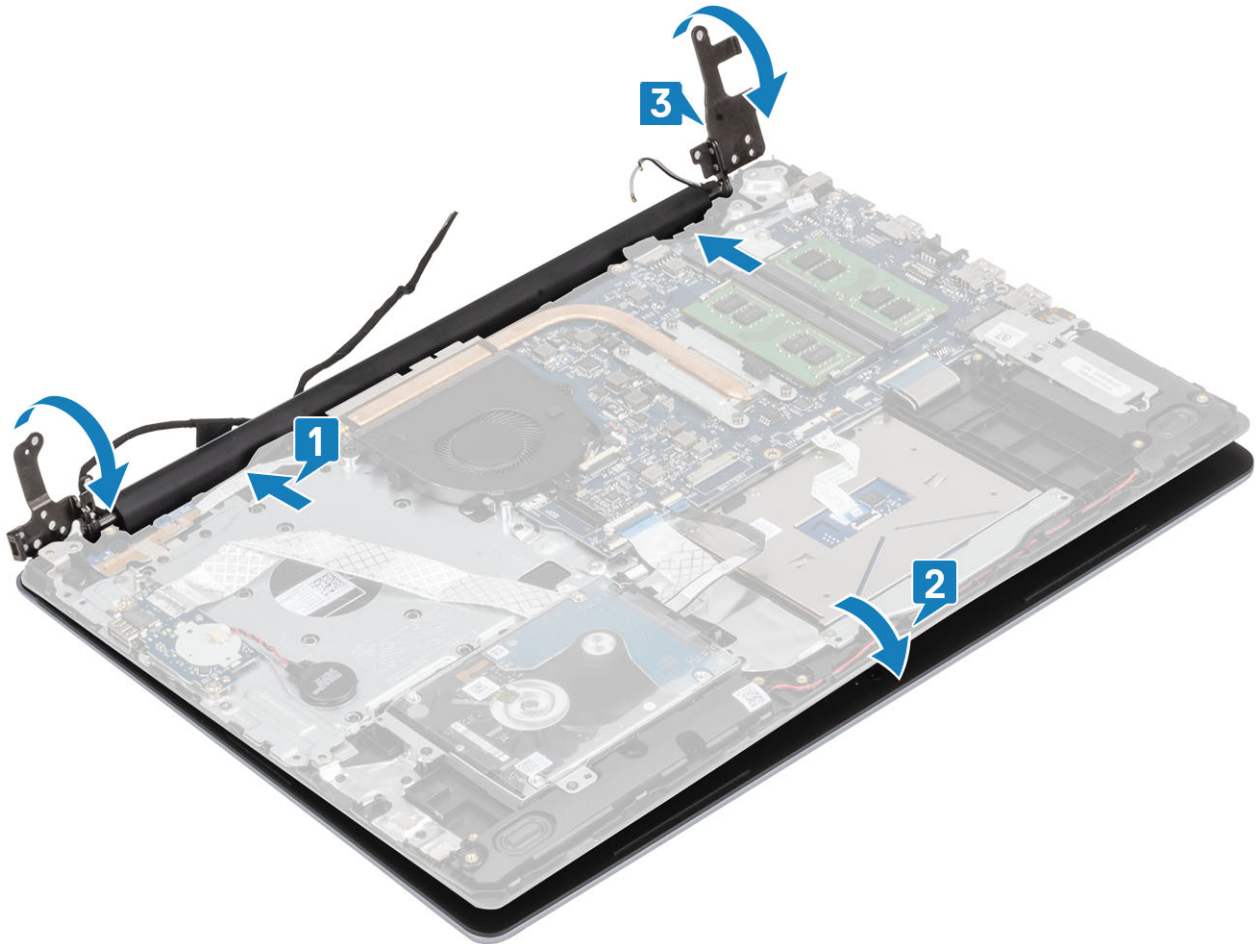
7. 前述のすべての手順を実行すると、ディスプレイ アセンブリーが残ります。



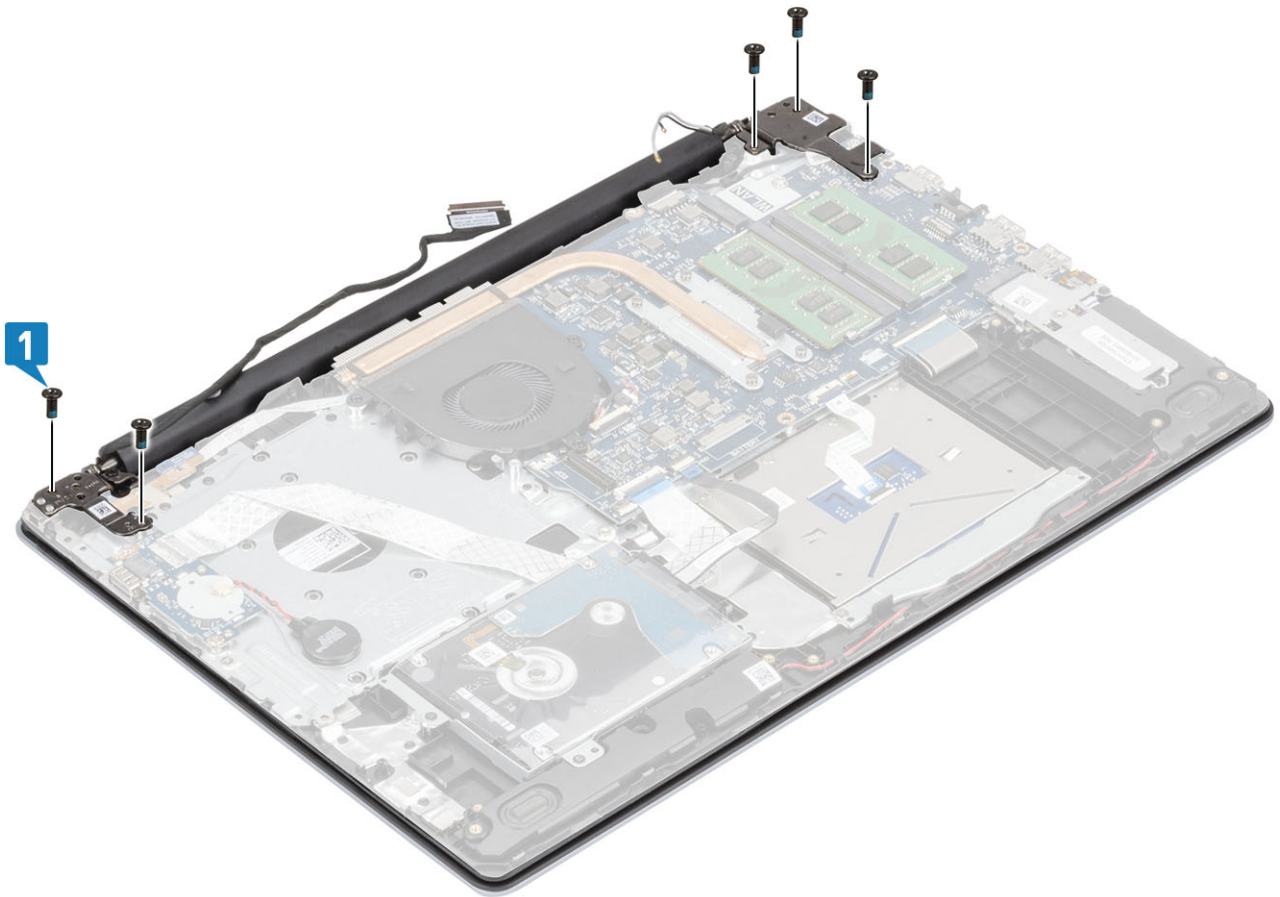
ディスプレイアセンブリの取り付け

手順

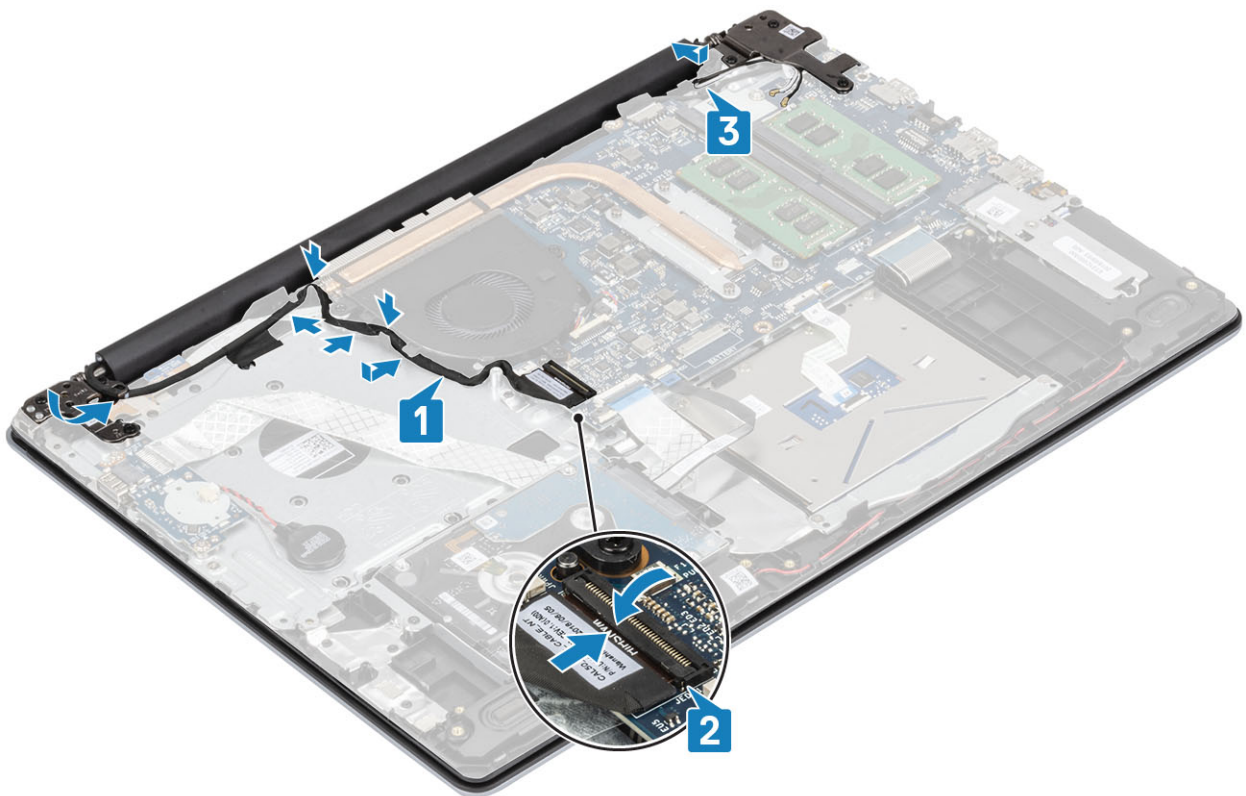
1. パームレストとキーボードアセンブリをディスプレイアセンブリのヒンジの下に合わせてセットします [1]。
2. パームレストとキーボードアセンブリをディスプレイアセンブリに装着します [2]。
3. ヒンジを、システム基板、およびパームレストとキーボードアセンブリに押し下げます [3]。



4. 左右のヒンジをシステム基板、パームレストとキーボードアセンブリに固定する5本の (M2.5x5) ネジを取り付けます [1]。



5. モニターケーブルをファンおよびパームレストとキーボードアセンブリの配線ガイドに沿って配線します [1]。
6. モニターケーブルをシステム基板のコンネクタに接続します [2]。
7. アンテナケーブルをシステム基板に貼り付けます [3]。



次の手順

1. WLAN を取り付けます。
2. バッテリー ケーブルを接続します。
3. ベース カバーを取り付けます。
4. SD カードを取り付けます。
5. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います

電源ボタンボード

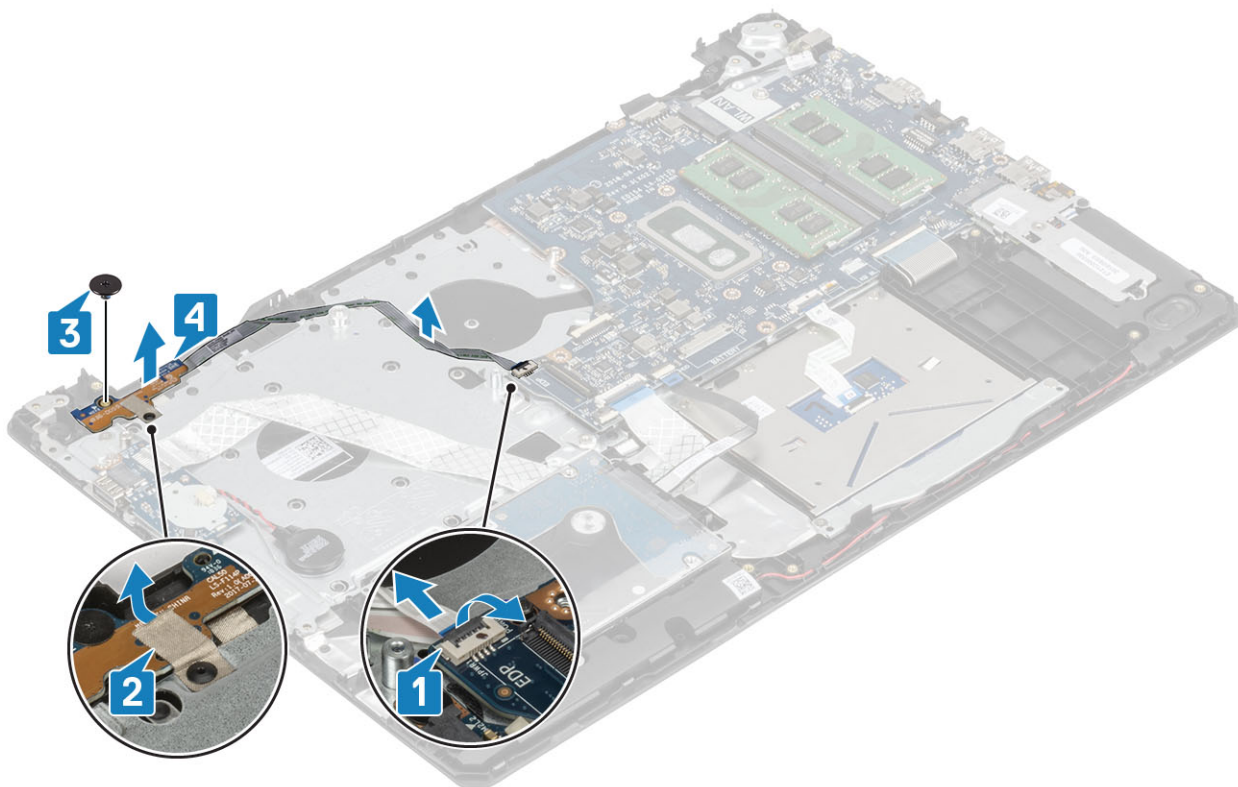
電源ボタン基板の取り外し

前提条件

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SD カードを取り出します。
3. ベースカバーを取り外します。
4. バッテリー ケーブルを外します
5. WLAN を取り外します。
6. システム ファンを取り外します。
7. ディスプレイ アセンブリーを取り外します。

手順

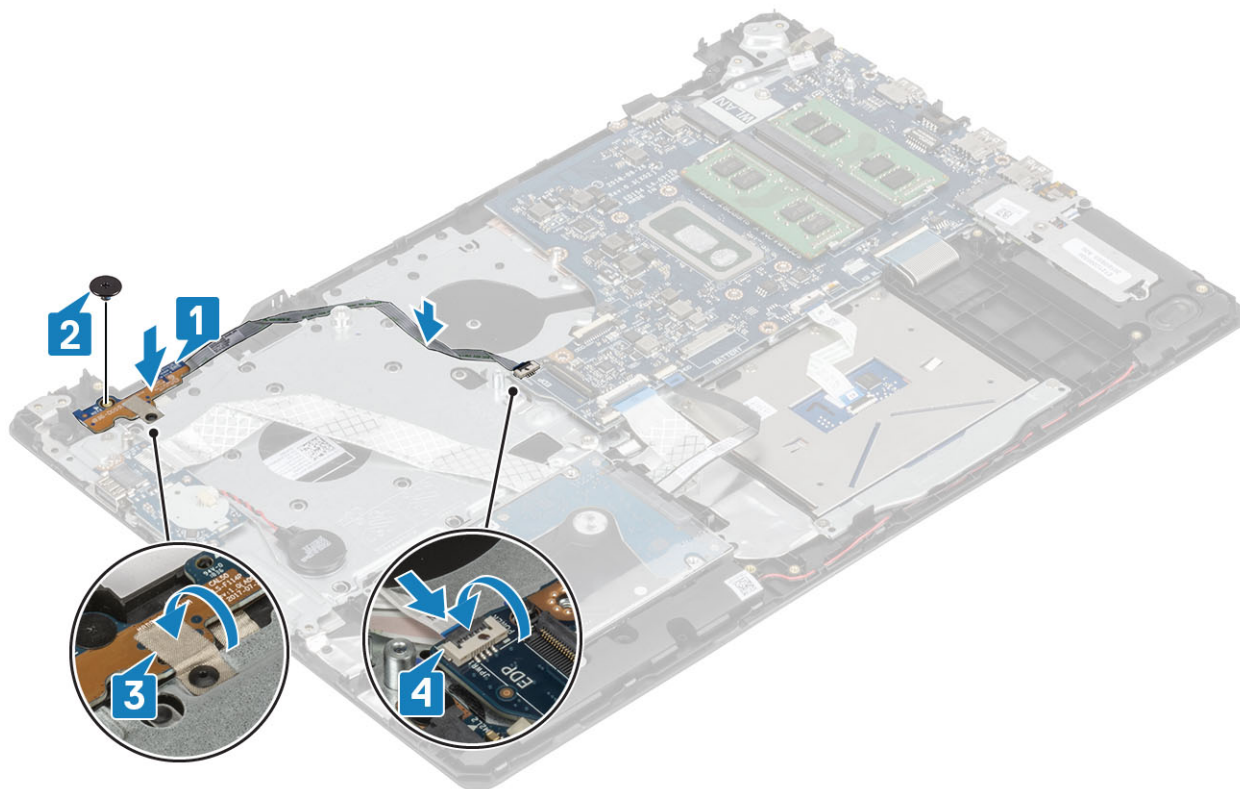
1. ラッチを開いて、電源ボタン ボード ケーブルをシステムから外します [1]。
2. 導電性テープを電源ボタン ボードからはがします [2]。
3. 電源ボタン ボードをパームレストとキーボード アセンブリーに固定している1本のネジ (M2x2) を外します [3]。
4. 電源ボタン ボードをケーブルとともに持ち上げて、パームレストとキーボード アセンブリーから取り外します [4]。



電源ボタン基板の取り付け

手順

1. 電源ボタン ボードをパームレストとキーボード アセンブリーのスロットに差し込みます [1]。
2. 電源ボタン ボードをパームレストとキーボード アセンブリーに固定する1本のネジ (M2x2) を取り付けます [2]。
3. 導電性テープを電源ボタン ボードに貼り付けます [3]。
4. 電源ボタン ケーブルをシステム基板に差し込み、ラッチを閉じてケーブルを固定します [4]。



次の手順

1. ディスプレイ アセンブリーを取り付けます。
2. システム ファンを取り付けます
3. WLAN を取り付けます
4. バッテリー ケーブルを接続します。
5. ベース カバーを取り付けます。
6. SD カードを取り付けます。
7. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います

電源ボタン

電源ボタンの取り外し

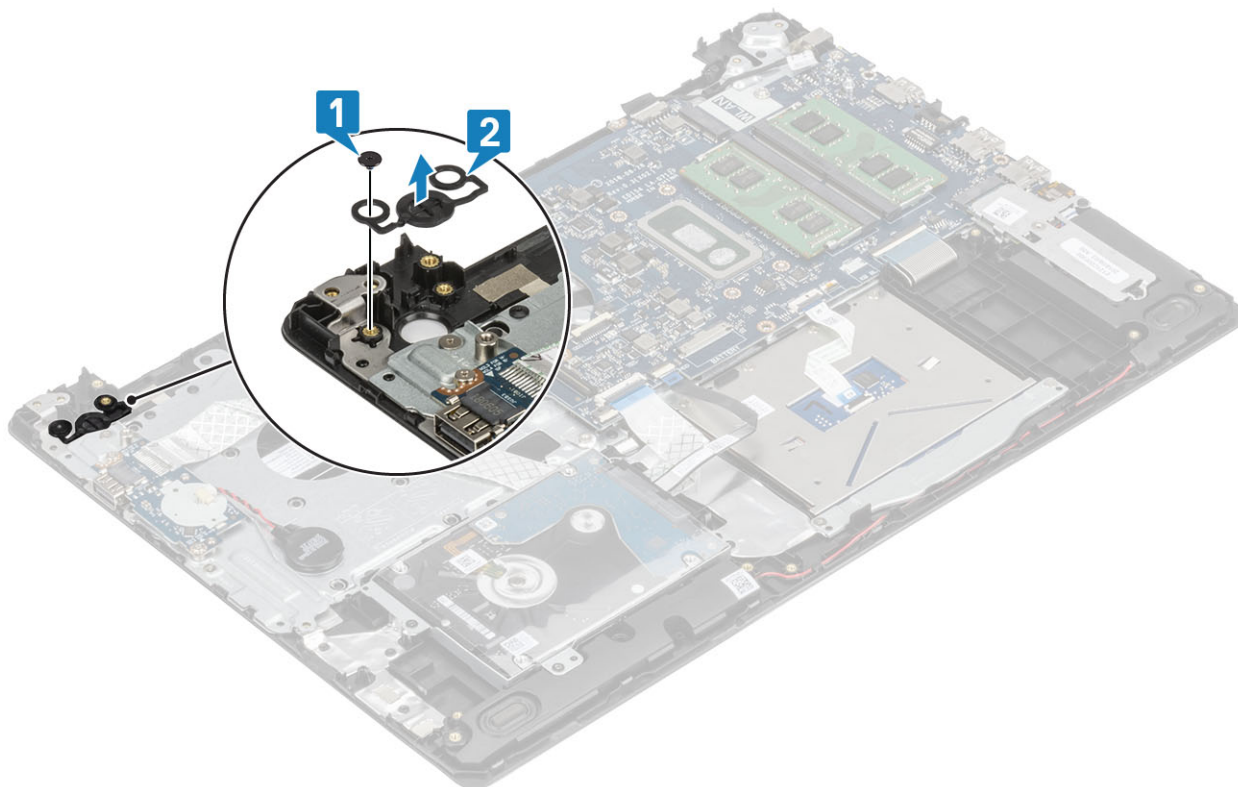
前提条件

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SD カードを取り出します。
3. ベースカバーを取り外します。
4. バッテリー ケーブルを外します
5. WLAN を取り外します。

6. システム ファンを取り外します。
7. ヒートシンクを取り外します。
8. ディスプレイ アセンブリーを取り外します。
9. 電源ボタン ボードを取り外します。

手順

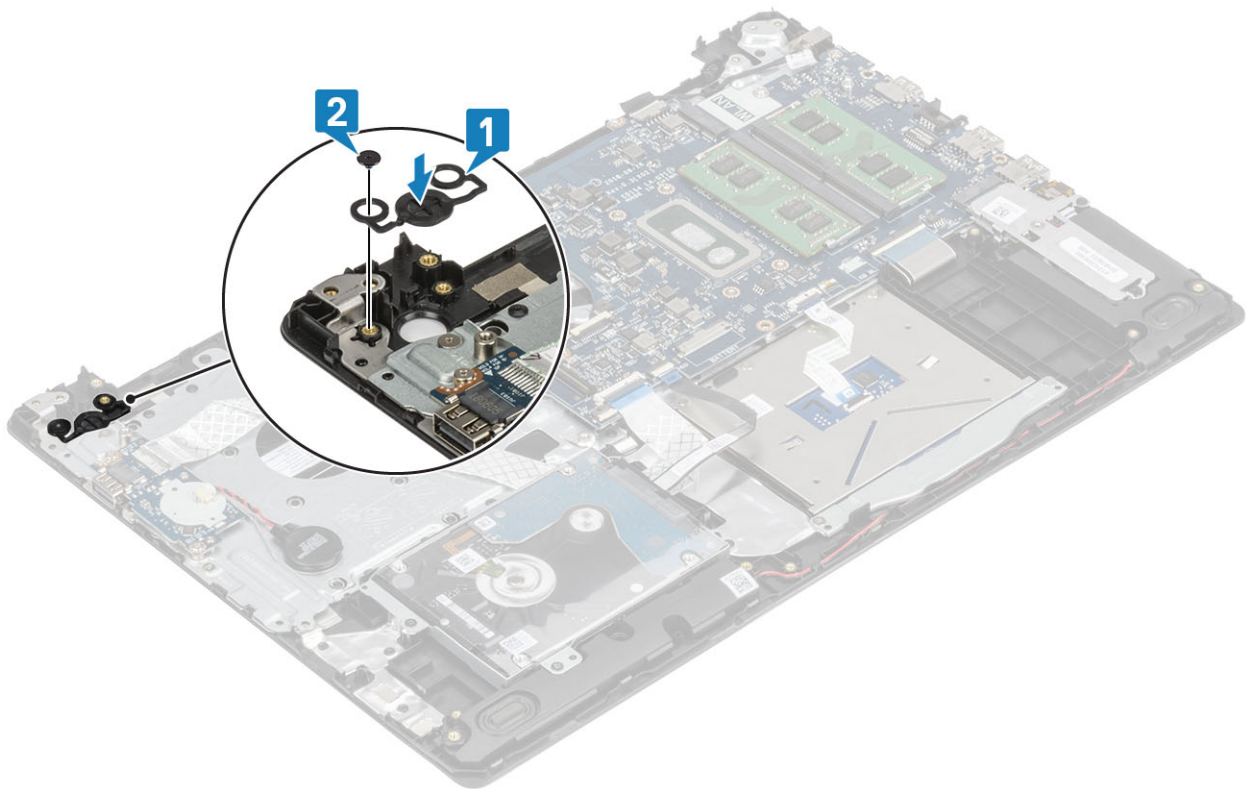
1. 電源ボタンをパームレストとキーボード アセンブリーに固定している1本のネジ (M2x2) を外します [1]。
2. 電源ボタンを持ち上げてパームレストとキーボード アセンブリーから取り外します [2]。



電源ボタンの取り付け

手順

1. 電源ボタンをパームレストとキーボード アセンブリーのスロットに差し込みます [1]。
2. システム基板をパームレストとキーボード アセンブリーに固定する1本のネジ (M2x2) を取り付けます [2]。



次の手順

1. 電源ボタン ボードを取り付けます。
2. ディスプレイ アセンブリーを取り付けます。
3. システム ファンを取り付けます。
4. WLAN を取り付けます
5. バッテリー ケーブルを接続します。
6. ベース カバーを取り付けます。
7. SD カードを取り付けます。
8. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います

システム基板

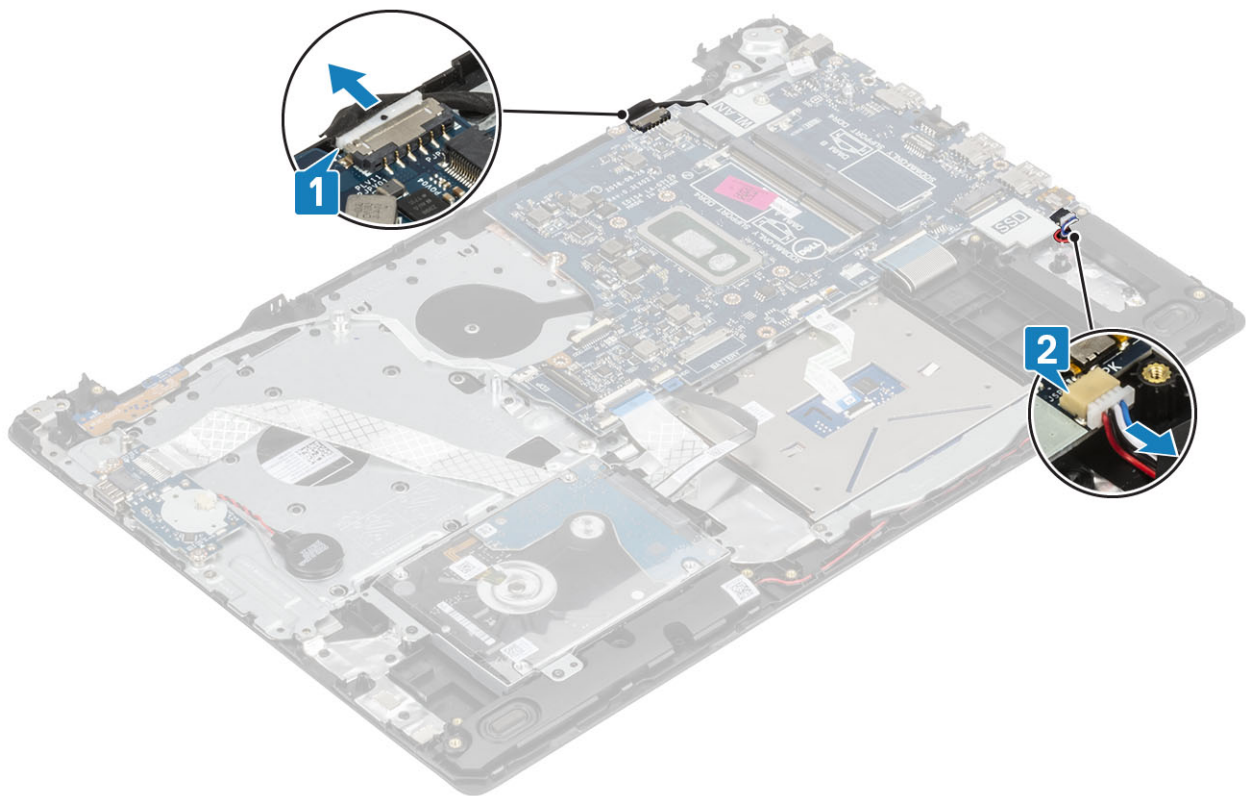
システム基板の取り外し

前提条件

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SD カードを取り出します。
3. ベースカバーを取り外します。
4. バッテリー ケーブルを外します
5. WLAN を取り外します。
6. メモリー モジュールを取り外します
7. システム ファンを取り外します。
8. ヒートシンクを取り外します。
9. ディスプレイ アセンブリーを取り外します。

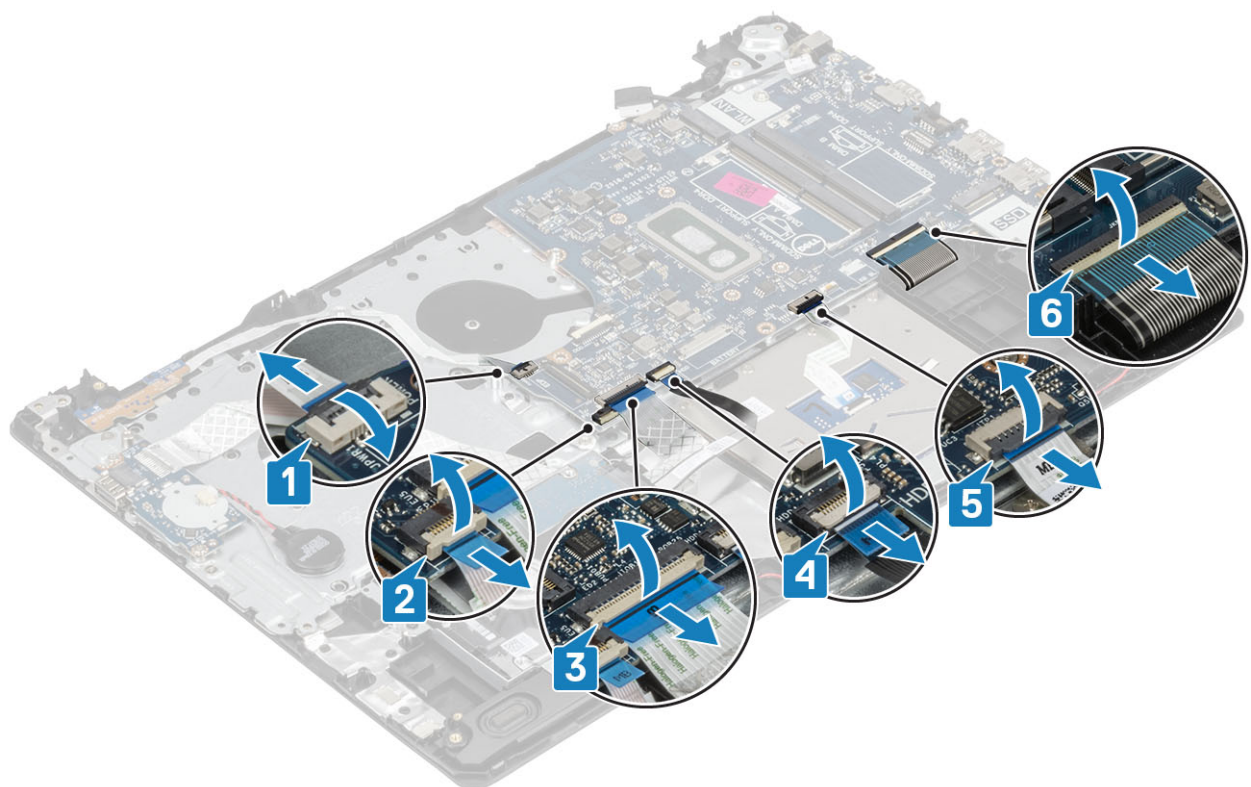
手順

1. 電源アダプタ ポート ケーブルとスピーカー ケーブルをシステム基板から外します [1、2]。

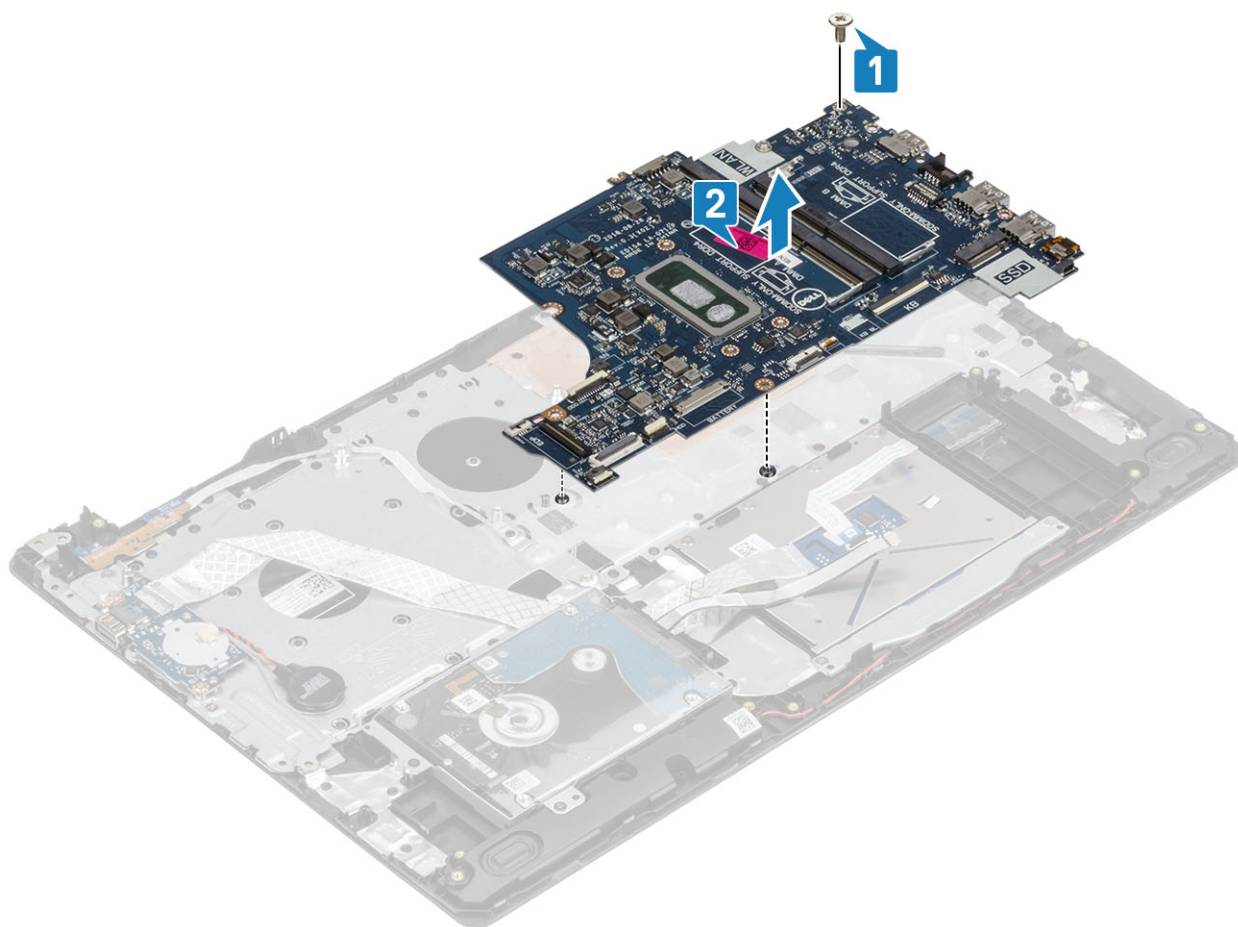


2. システム基板から以下のケーブルを外します。

- a) 電源ボタン ボード ケーブル [1]。
- b) 指紋ボード ケーブル [2]。
- c) IO ボード ケーブル [3]。
- d) ハードドライブ ケーブル [4]。
- e) タッチパッド ケーブル [5]。
- f) キーボード ケーブル [6]。



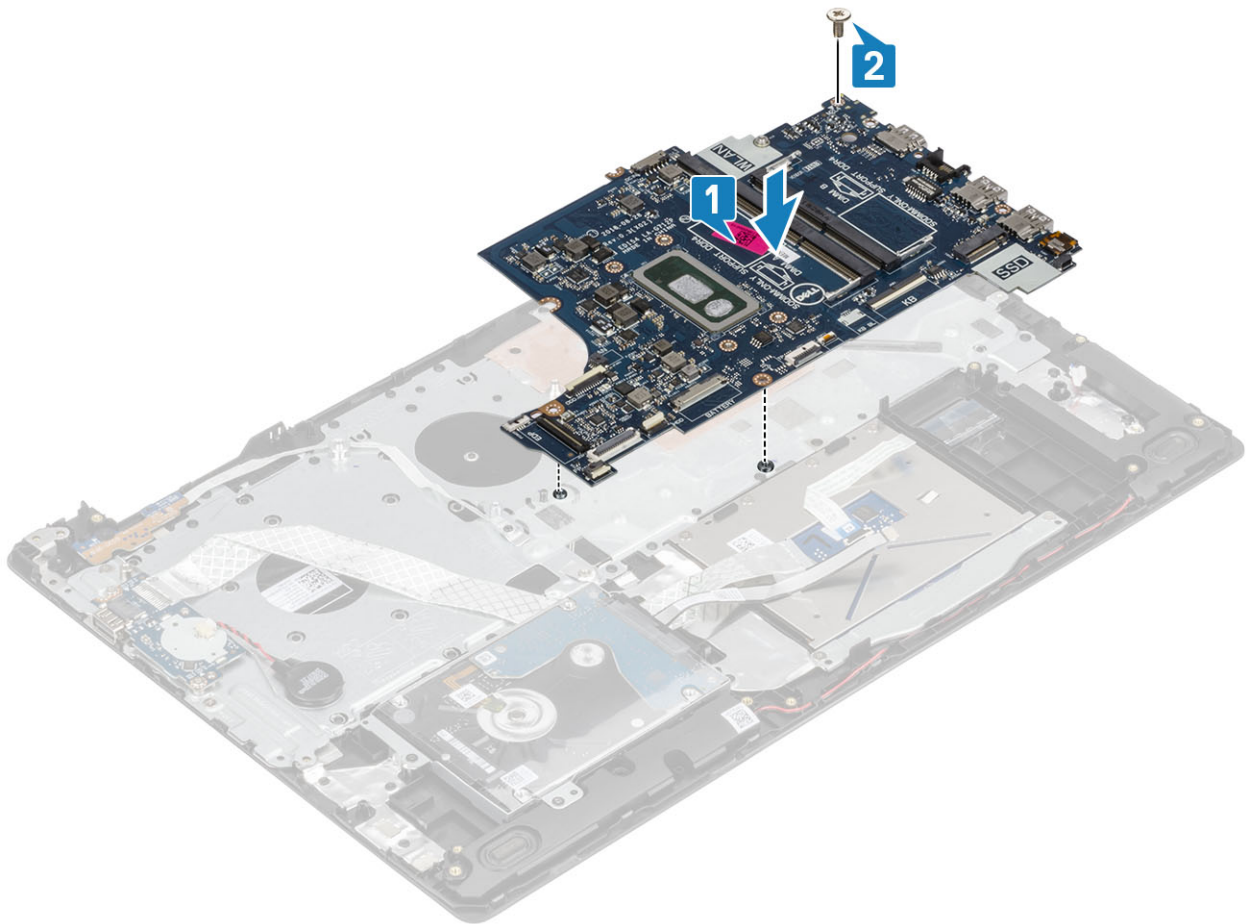
3. システム基板をパームレストとキーボードアセンブリーに固定している1本のネジ (M2x4) を外します [1]。
4. システム基板を持ち上げてパームレストとキーボードアセンブリーから取り外します [2]。



システム基板の取り付け

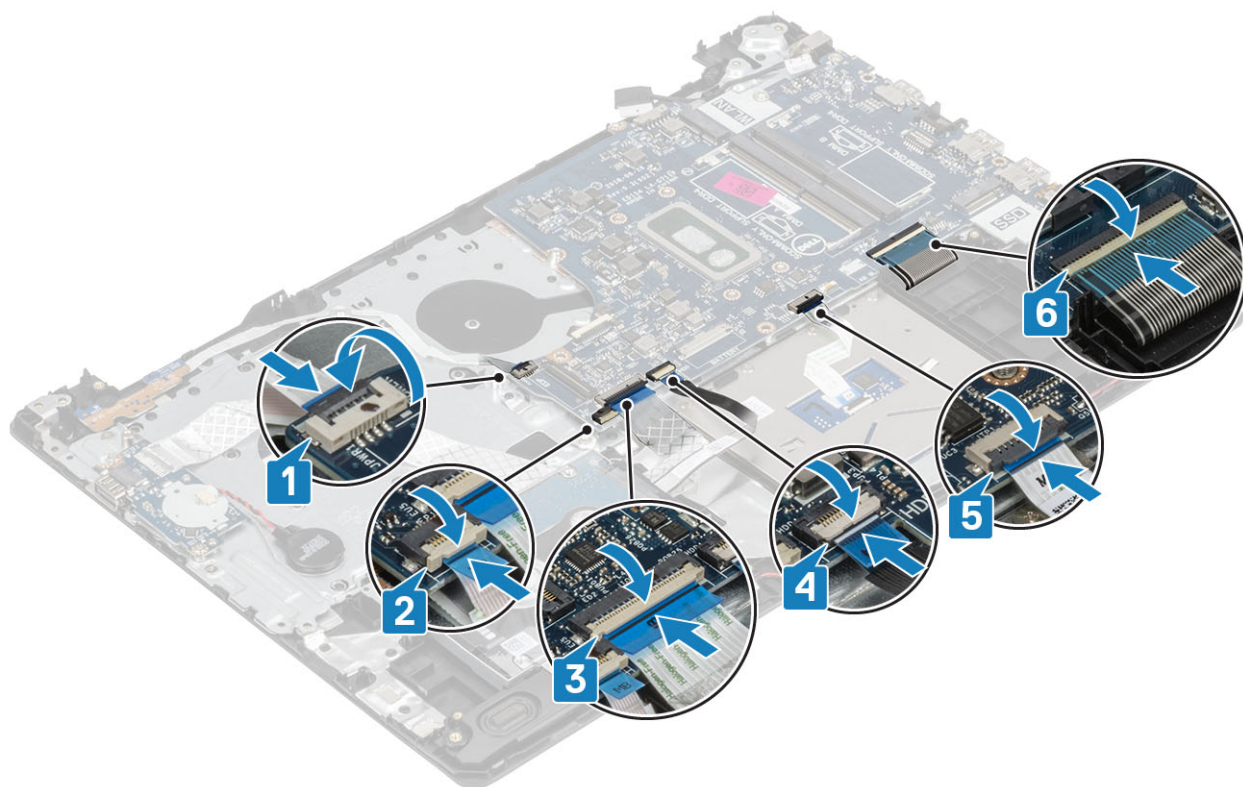
手順

1. システム基板のネジ穴をパームレストとキーボードアセンブリーのネジ穴に合わせます [1]。
2. システム基板をパームレストとキーボードアセンブリーに固定する1本のネジ (M2x4) を取り付けます [2]。

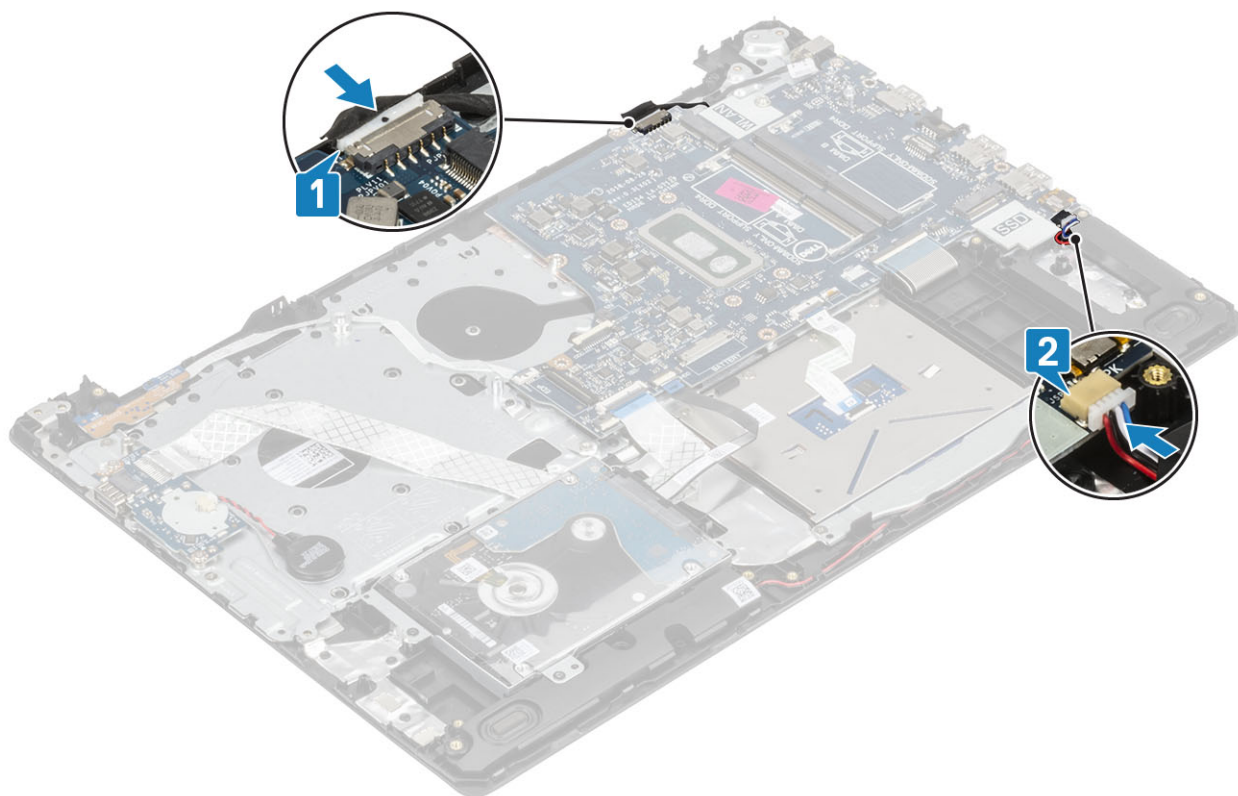


3. 以下のケーブルをシステム基板に接続します。

- a) 電源ボタンボードケーブル [1]。
- b) 指紋ボードケーブル [2]。
- c) IOボードケーブル [3]。
- d) ハードドライブケーブル [4]。
- e) タッチパッドケーブル [5]。
- f) キーボードケーブル [6]。



4. 電源アダプタポートケーブルとスピーカーケーブルをシステム基板に接続します [1、2]。



次の手順

1. ディスプレイアセンブリーを取り付けます。
2. ヒートシンクを取り付けます
3. システムファンを取り付けます。
4. メモリーモジュールを取り付けます

5. SSD を取り付けます
6. WLAN を取り付けます。
7. バッテリー ケーブルを接続します。
8. ベース カバーを取り付けます。
9. SD カードを取り付けます。
10. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います

電源アダプタポート

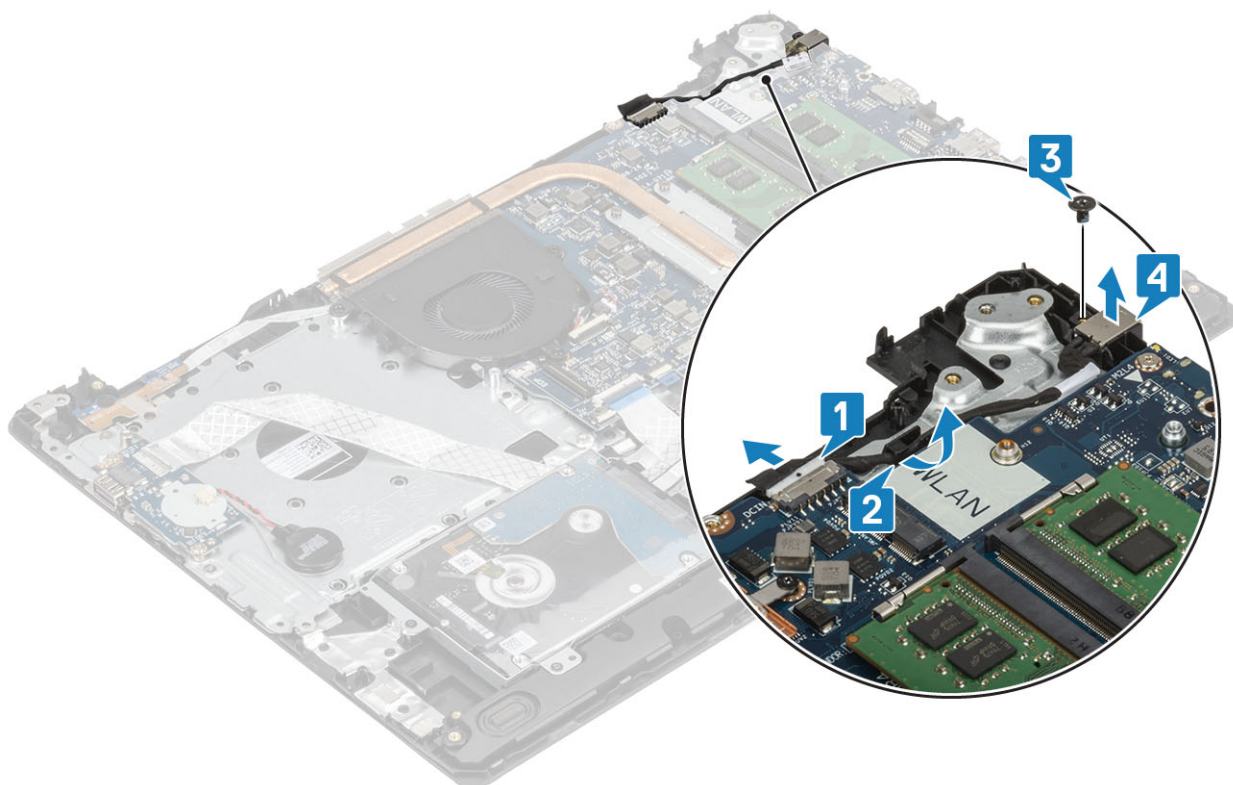
電源アダプタポートの取り外し

前提条件

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SD カードを取り出します。
3. ベースカバーを取り外します。
4. バッテリー ケーブルを外します
5. WLAN を取り外します。
6. ディスプレイ アセンブリーを取り外します。
7. 電源ボタン ボードを取り外します。

手順

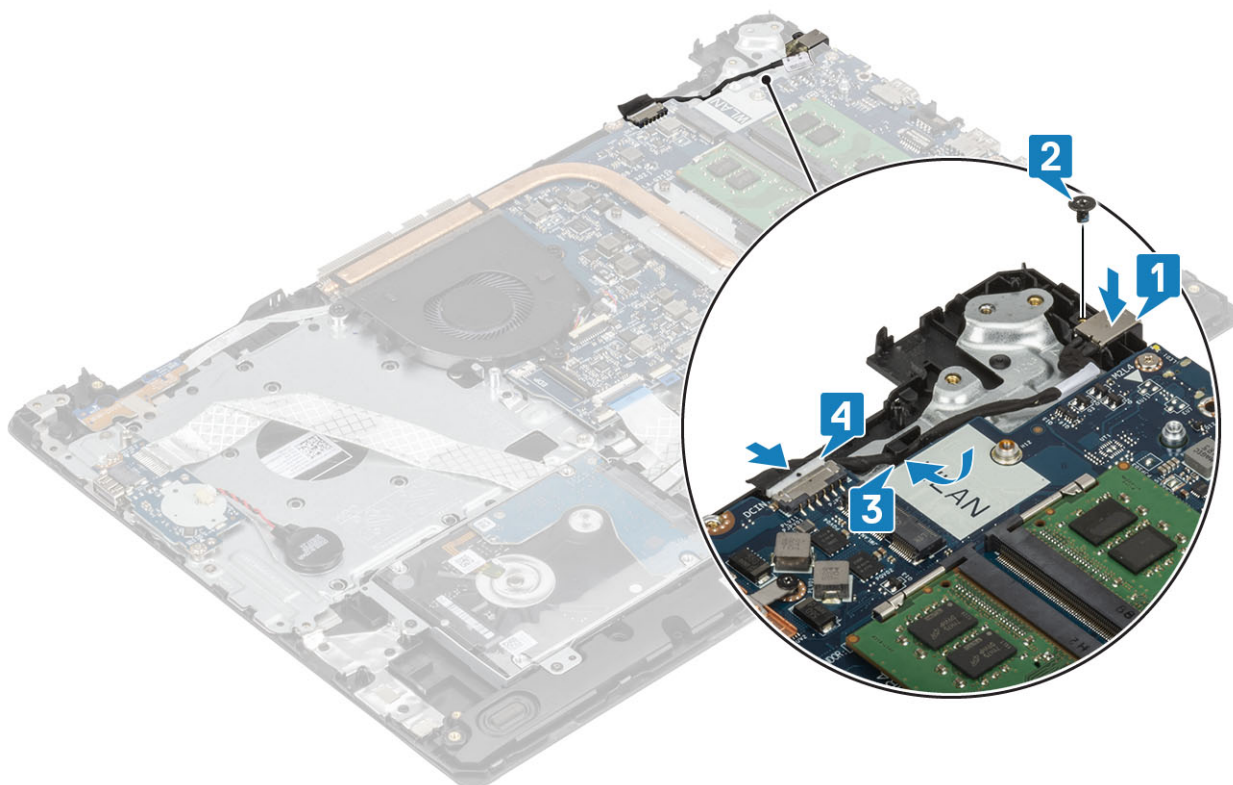
1. 電源アダプタ ケーブルをシステム基板から取り外します [1, 2]。
2. 電源アダプタポートをパームレストとキーボードアセンブリーに固定している1本のネジ (M2x3) を外します [3]。
3. 電源アダプタポートをケーブルとともに持ち上げて、パームレストとキーボードアセンブリーから取り外します [4]。



電源アダプタ ポートの取り付け

手順

1. 電源アダプタ ポートをパームレストとキーボード アセンブリーのスロットに差し込みます [1]。
2. 電源アダプタ ポートをパームレストとキーボード アセンブリーに固定する1本のネジ (M2x3) を取り付けます [2]。
3. 電源アダプタ ケーブルを配線チャンネルに沿って配線します [3]。
4. 電源アダプタ ケーブルをシステム基板に接続します [4]。



次の手順

1. システム基板を取り付けます。
2. 電源ボタン ボードを取り付けます。
3. ディスプレイ アセンブリーを取り付けます。
4. SSD カードを取り付けます。
5. WLAN カードを取り付けます。
6. バッテリー ケーブルを接続します。
7. ベース カバーを取り付けます。
8. SD カードを取り付けます
9. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

ディスプレイ ベゼル

ディスプレイ ベゼルの取り外し

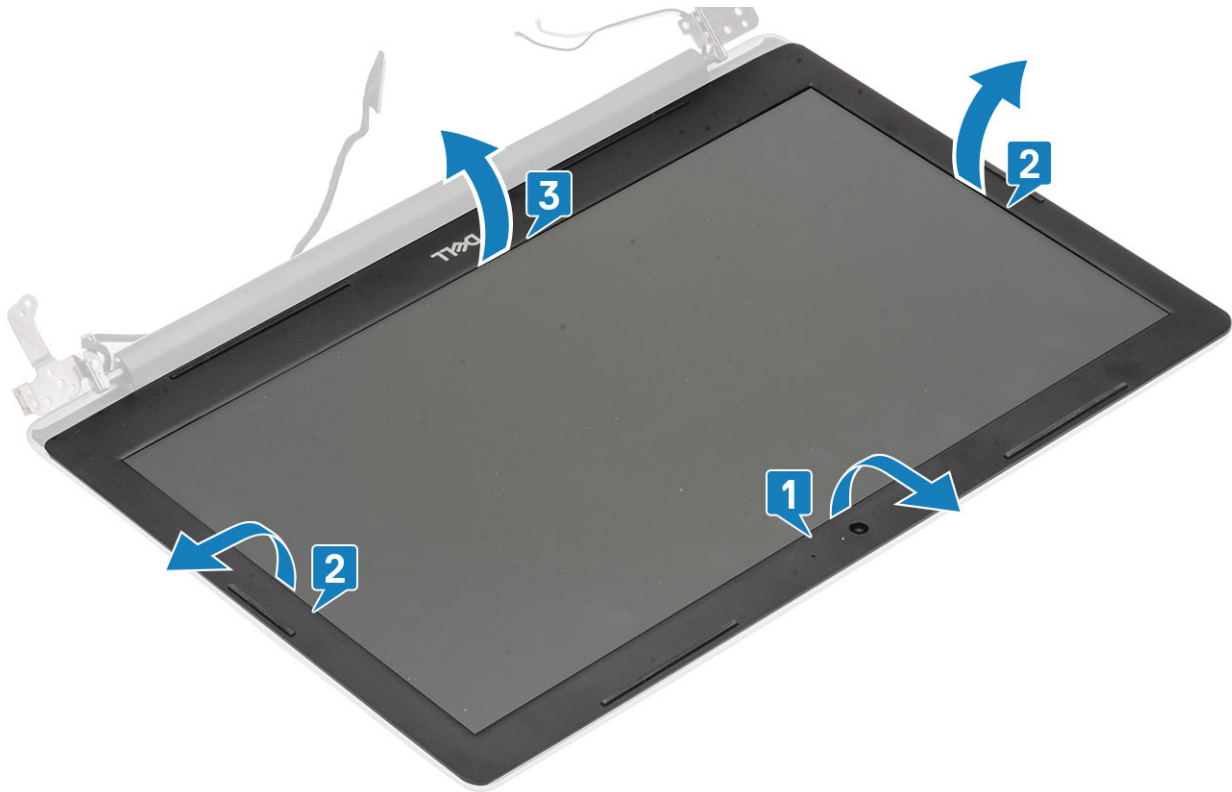
前提条件

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SD カードを取り出します。
3. ベースカバーを取り外します。

4. バッテリー ケーブルを外します
5. WLAN を取り外します。
6. ディスプレイ アセンブリーを取り外します。

手順

1. ディスプレイ ベゼルの内側の上面を持ち上げます [1]。
2. さらにディスプレイ ベゼルの内側の左右の端を持ち上げます [2]。
3. ディスプレイ ベゼル底部の内側の端を持ち上げ、ディスプレイ アセンブリーからベゼルを持ち上げます [3]。



ディスプレイ ベゼルの取り付け

手順

1. ディスプレイ ベゼルをディスプレイ背面カバーとアンテナ アセンブリーに合わせて所定の位置にゆっくりとはめ込みます [1]。



次の手順

1. ディスプレイ アセンブリーを取り付けます。
2. ハードドライブアセンブリーを取り付けます。
3. WLAN カードを取り付けます。
4. バッテリー ケーブルを接続します。
5. ベース カバーを取り付けます。
6. SD カードを取り付けます
7. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

カメラ

カメラの取り外し

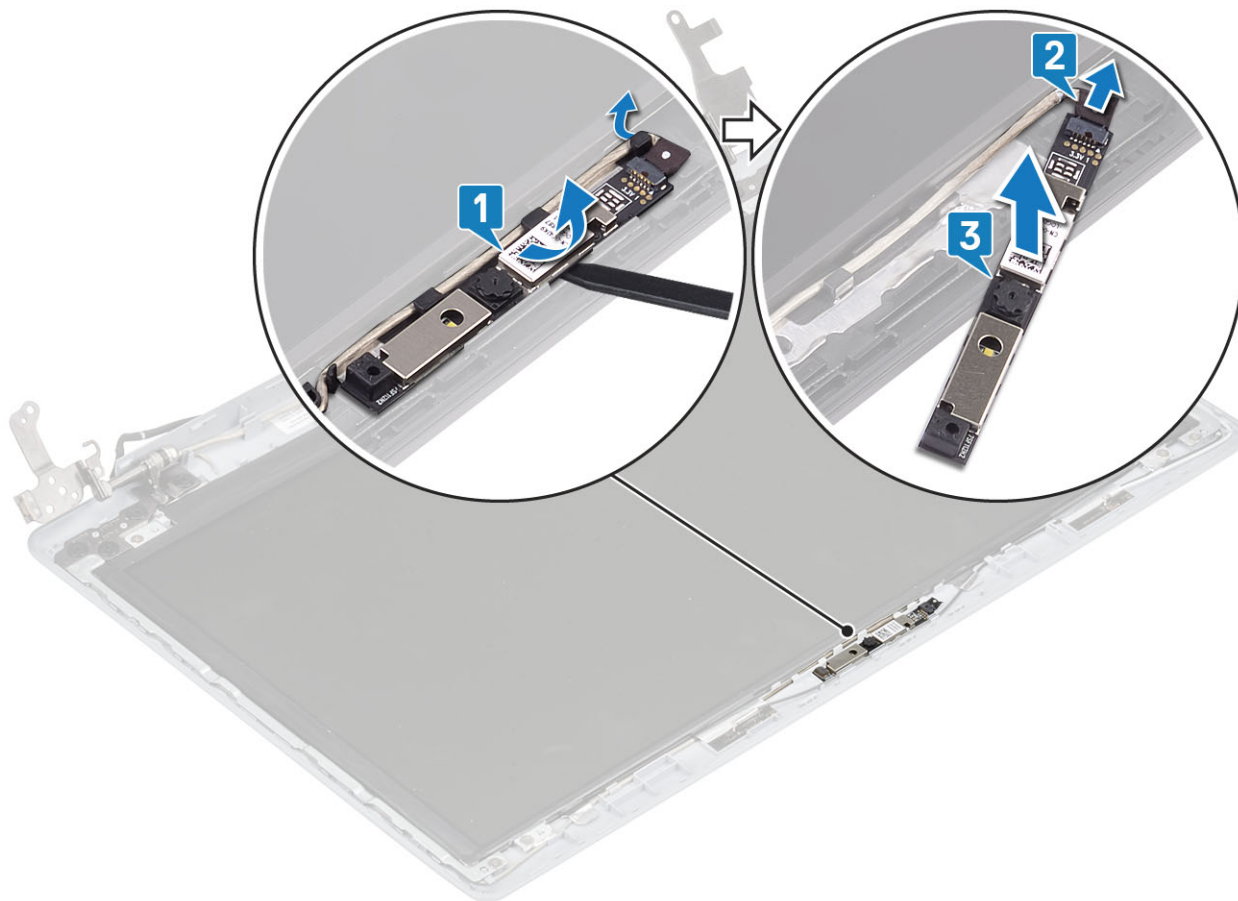
前提条件

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SD カードを取り出します。
3. ベースカバーを取り外します。
4. バッテリー ケーブルを外します
5. WLAN を取り外します。
6. システム ファンを取り外します。
7. ヒートシンクを取り外します。
8. ディスプレイ アセンブリーを取り外します。
9. ディスプレイ ベゼルを取り外します

手順

1. プラスチック スクライブを使用して、カメラをディスプレイ 背面カバーとアンテナ アセンブリーから慎重に持ち上げます [1]。
2. カメラ モジュールからカメラ ケーブルを外します [2]。

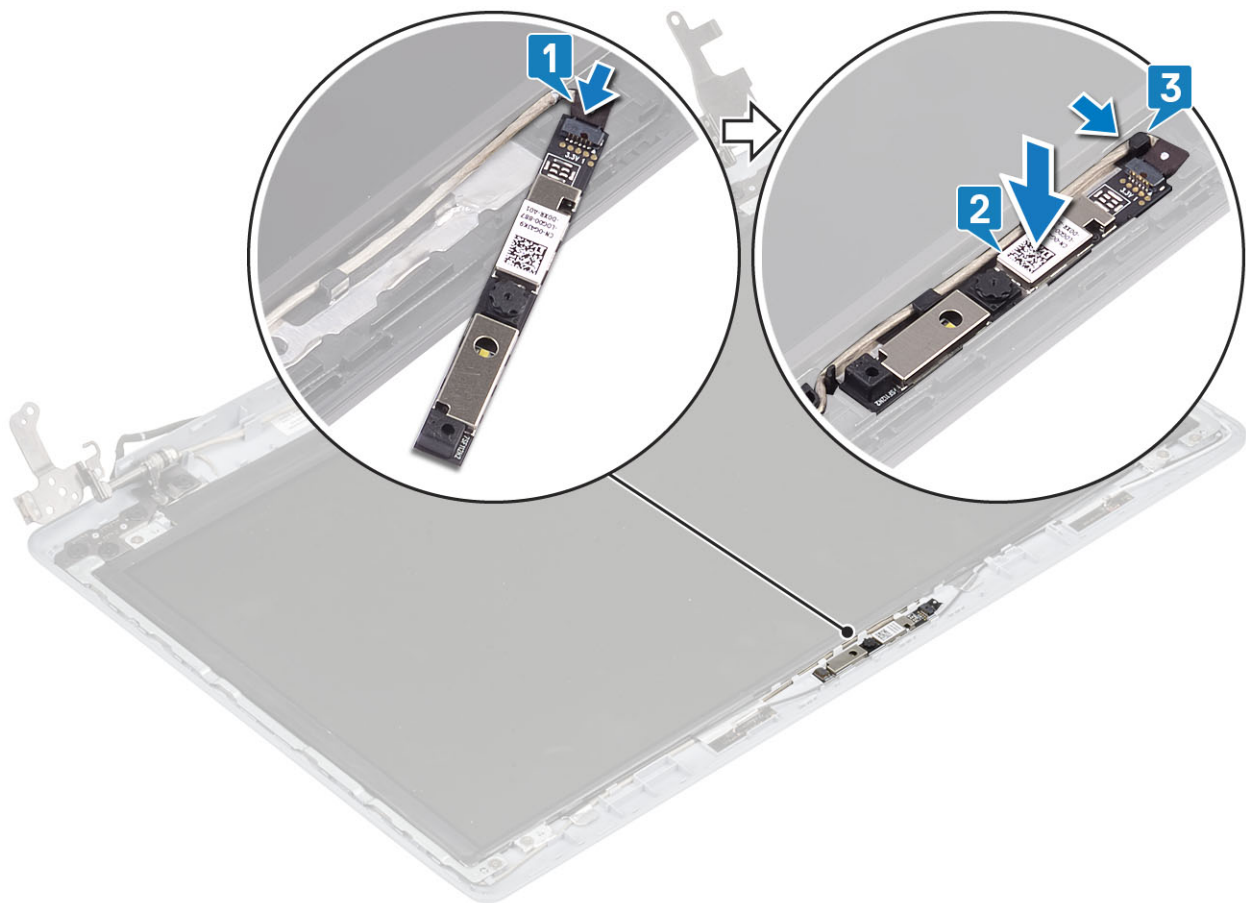
3. カメラ モジュールを持ち上げて、ディスプレイ背面カバーとアンテナ アセンブリーから取り外します [3]。



カメラの取り付け

手順

1. カメラ ケーブルをカメラ モジュールに接続します [1]。
2. 位置合わせポストを使用して、カメラ モジュールをディスプレイ背面カバーとアンテナ アセンブリーに取り付けます [2]。
3. カメラ ケーブルを配線チャンネルを通して配線します [3]。



次の手順

1. ディスプレイ ベゼルを取り付けます。
2. ディスプレイ アセンブリーを取り付けます。
3. WLAN を取り付けます。
4. バッテリー ケーブルを接続します。
5. ベース カバーを取り付けます。
6. SD カードを取り付けます。
7. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います

ディスプレイパネル

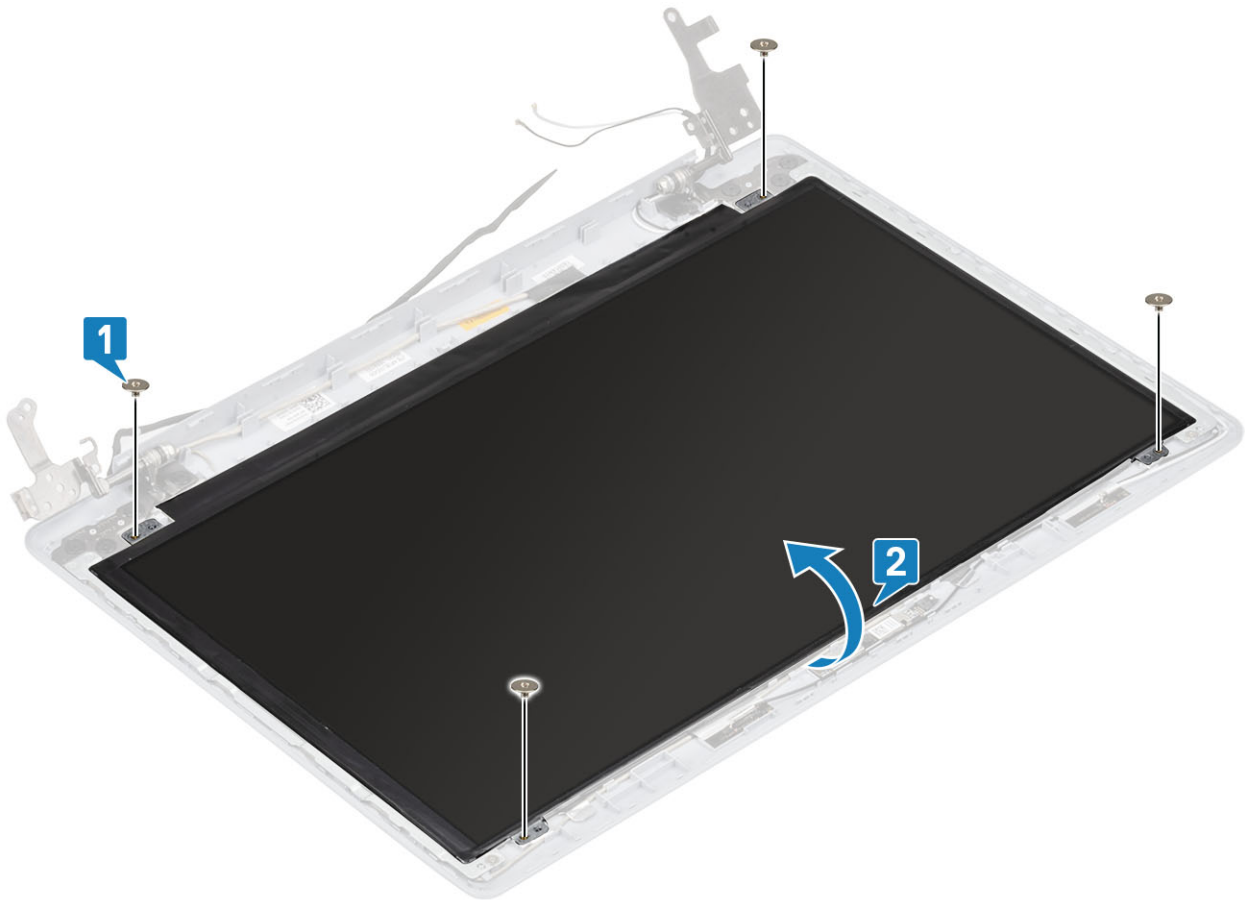
モニター パネルの取り外し

前提条件

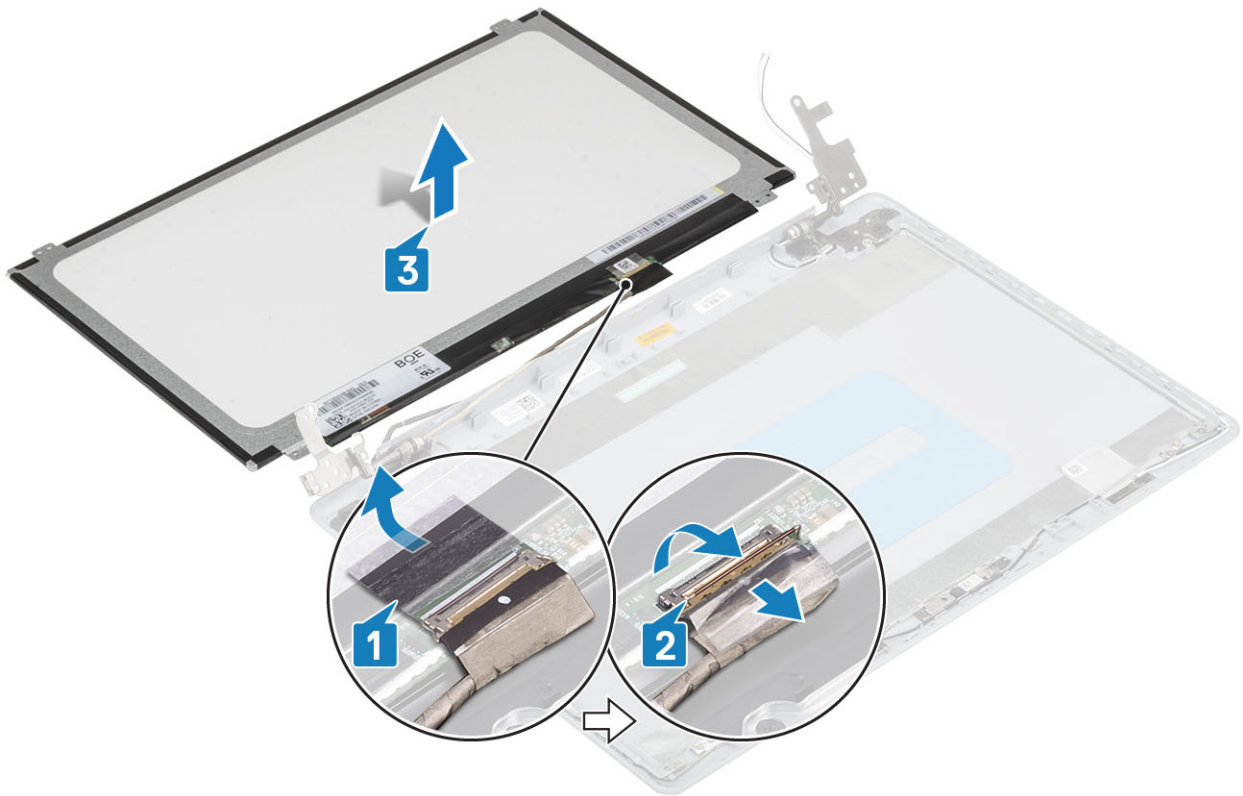
1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SD カードを取り出します。
3. ベースカバーを取り外します。
4. バッテリー ケーブルを外します
5. WLAN を取り外します。
6. システム ファンを取り外します。
7. ヒートシンクを取り外します。
8. ディスプレイ アセンブリーを取り外します。
9. ディスプレイ ベゼルを取り外します

手順

1. モニター パネルをディスプレイ背面カバーとアンテナ アセンブリーに固定している 4 本のネジ (M2x2) を取り外します [1]。
2. ディスプレイ パネルを持ち上げて裏返します [2]。



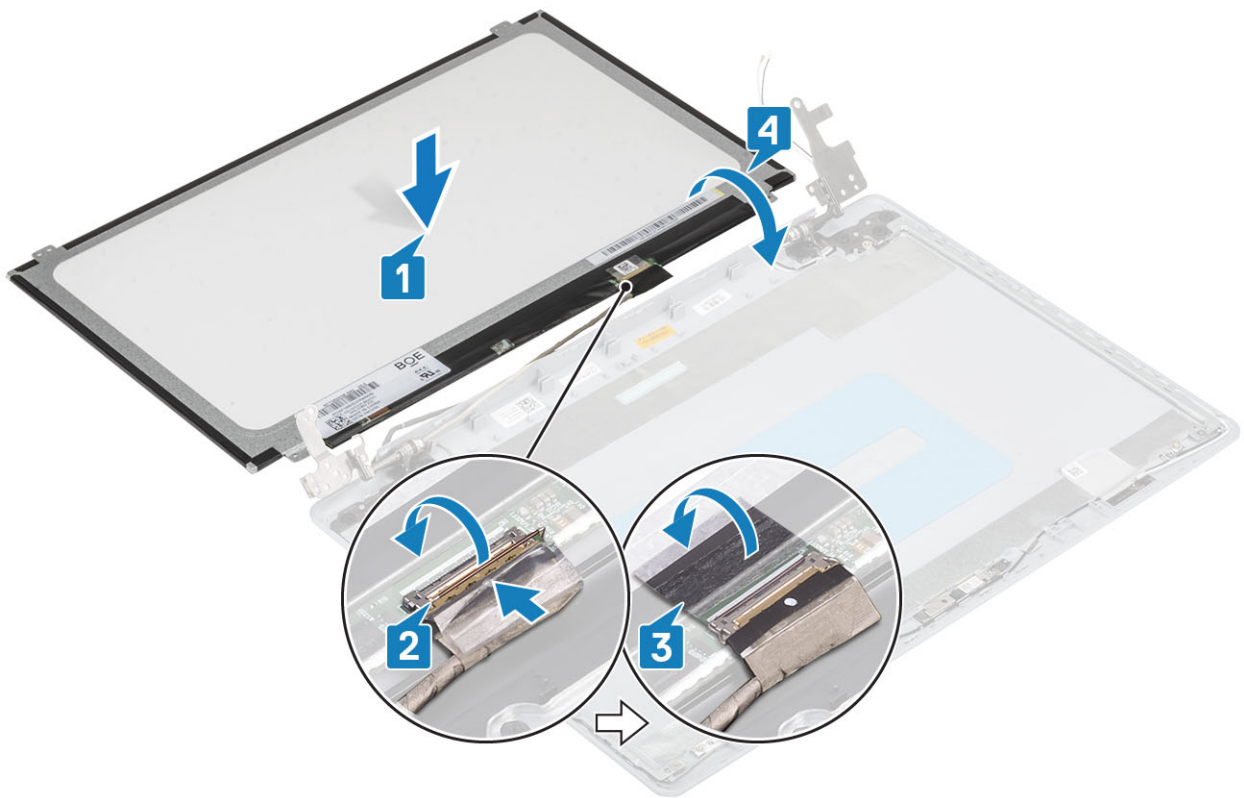
3. モニター ケーブルをモニター パネルの背面に固定しているテープをはがします [1]。
4. ラッチを持ち上げ、モニター ケーブルをモニター パネル ケーブル コネクタから外します [2]。
5. モニター パネルを持ち上げて、ディスプレイ背面カバーとアンテナ アセンブリーから取り外します [3]。



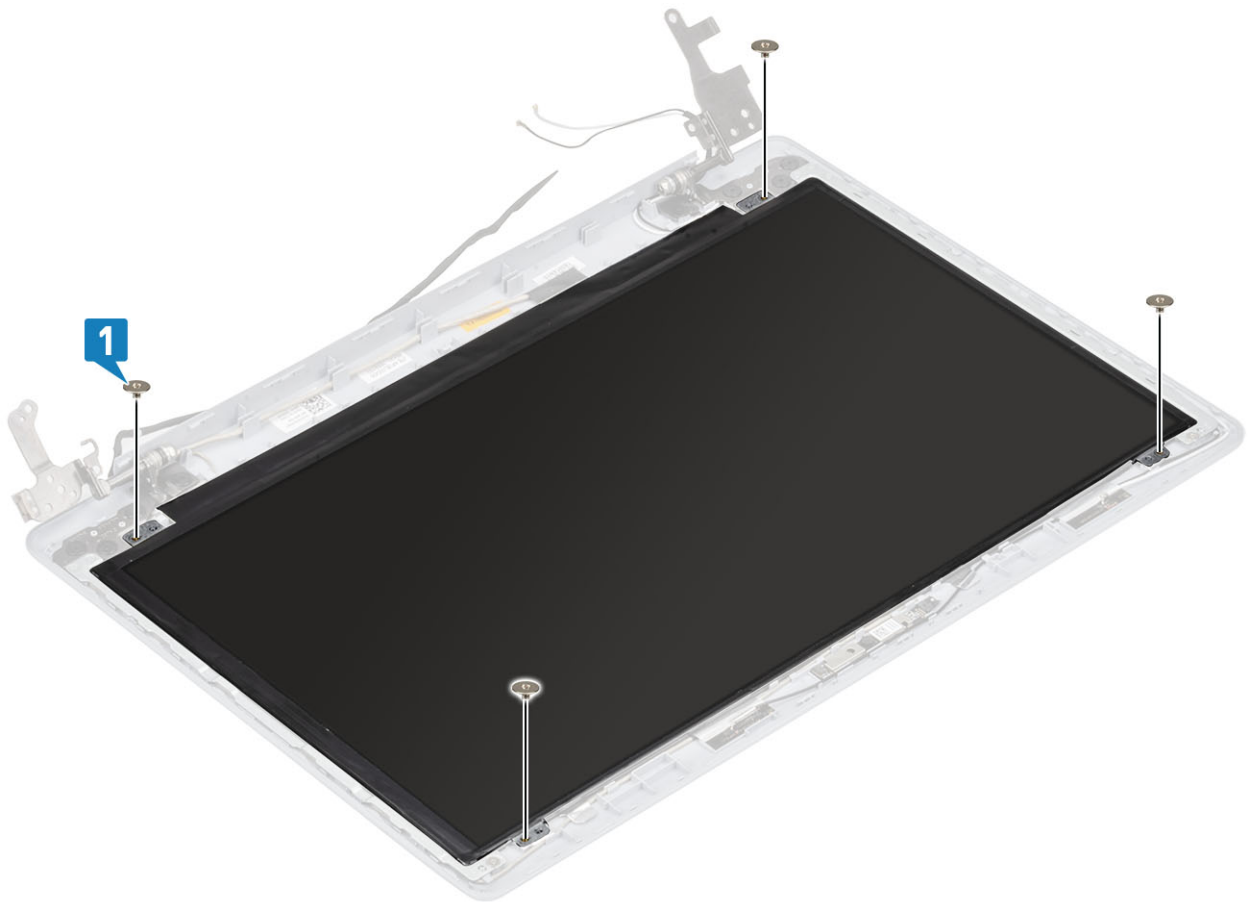
モニター パネルの取り付け

手順

1. モニター パネルを平らできれいな平面に置きます [1]。
2. モニター ケーブルをモニター パネルの背面のコネクタに接続し、ラッチを閉じてケーブルを固定します [2]。
3. モニター ケーブルをモニター パネルの背面に固定するテープを貼り付けます [3]。
4. モニター パネルを裏返して、ディスプレイ 背面カバーとアンテナ アセンブリーにセットします [4]。



5. モニターパネルのネジ穴をディスプレイ背面カバーとアンテナアセンブリーのネジ穴に合わせます。
6. モニターパネルをディスプレイ背面カバーとアンテナアセンブリーに固定する4本のネジ (M2x2) を取り付けます [1]。



次の手順

1. ディスプレイ ベゼルを取り付けます。
2. ディスプレイ アセンブリーを取り付けます。
3. WLAN を取り付けます。
4. バッテリー ケーブルを接続します。
5. ベース カバーを取り付けます。
6. SD カードを取り付けます。
7. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います

ディスプレイヒンジ

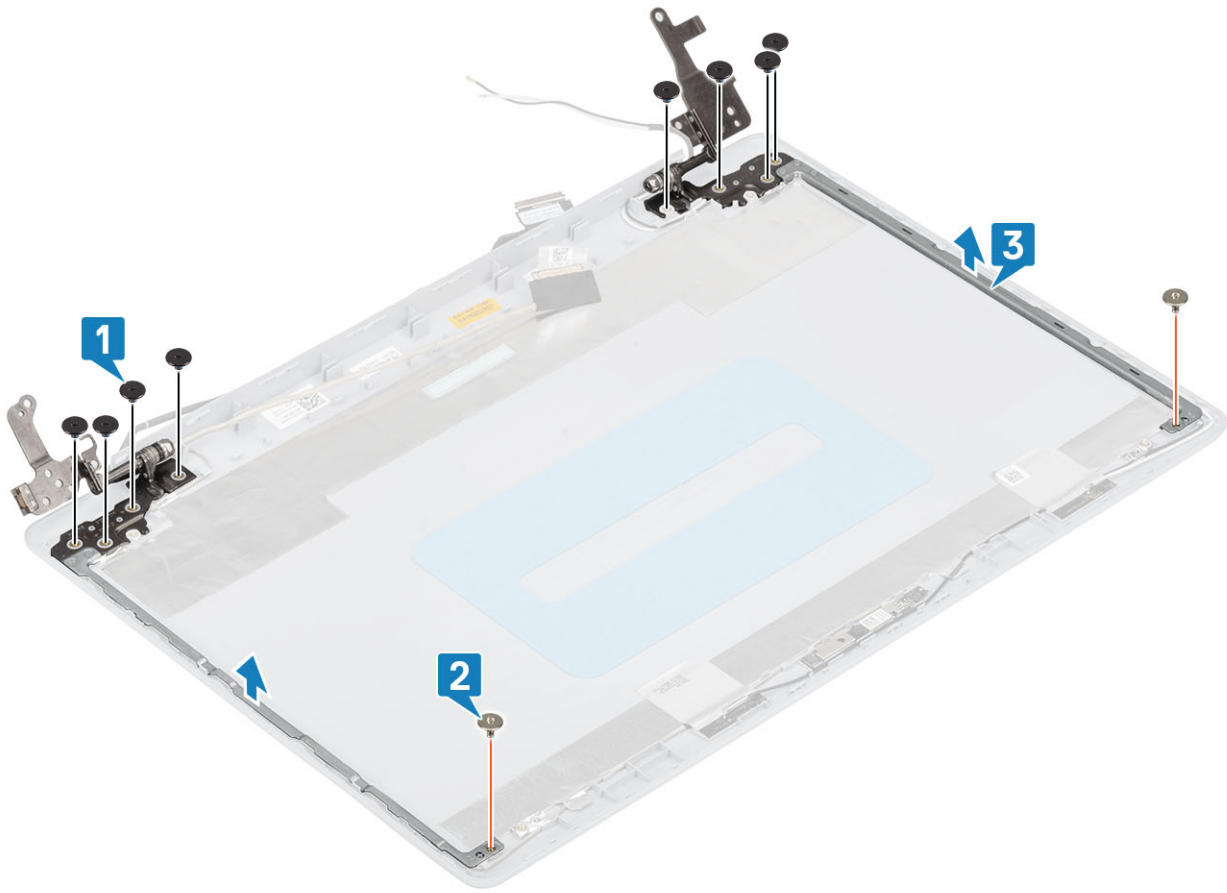
ディスプレイ ヒンジの取り外し

前提条件

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SD カードを取り出します。
3. ベースカバーを取り外します。
4. バッテリー ケーブルを外します
5. WLAN を取り外します。
6. システム ファンを取り外します。
7. ヒートシンクを取り外します。
8. ディスプレイ アセンブリーを取り外します。
9. ディスプレイ ベゼルを取り外します
10. モニター パネルを取り外します

手順

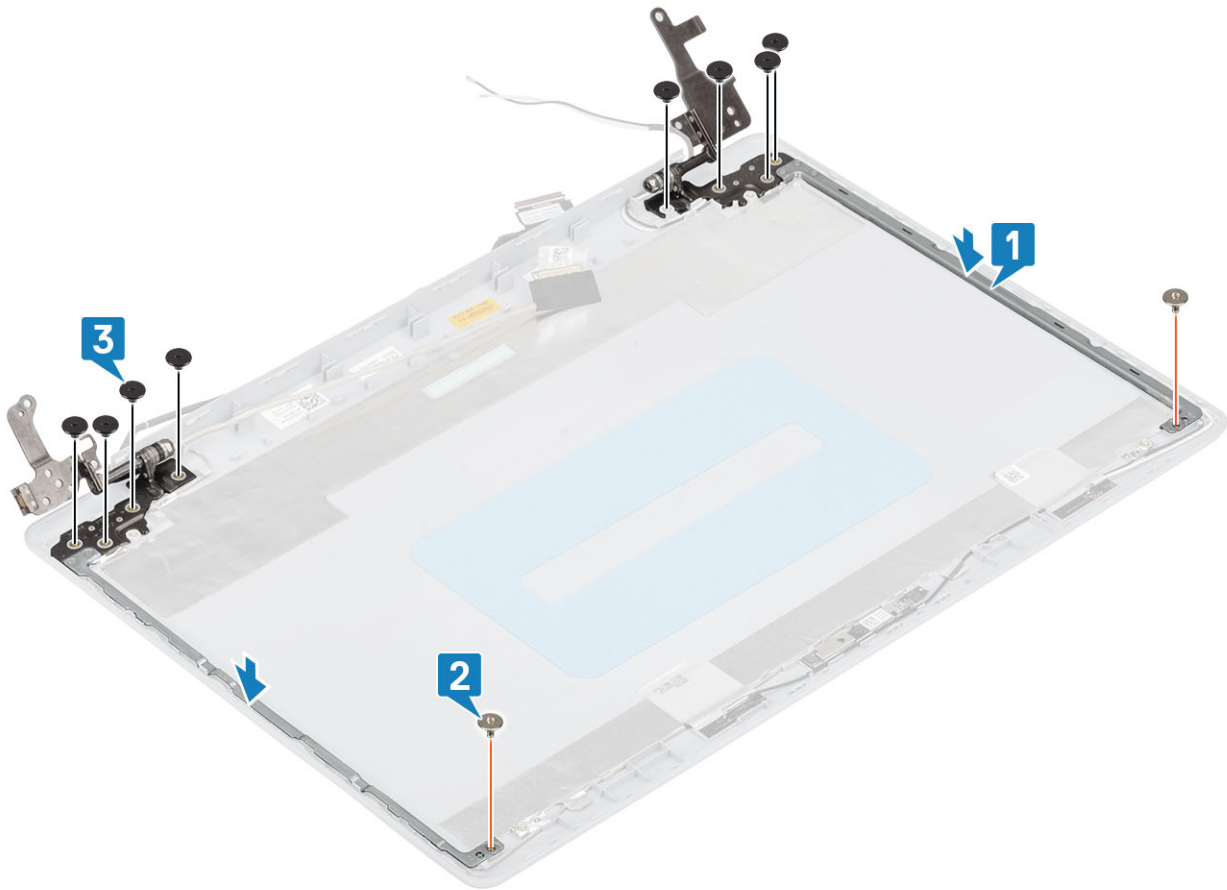
1. ヒンジをディスプレイ背面カバーとアンテナ アセンブリーに固定している 8 本のネジ (M2.5x2.5) と 2 本のネジ (M2x2) を取り外します [1、2]。
2. ヒンジとブラケットを持ち上げて、ディスプレイ背面カバーとアンテナ アセンブリーから取り外します [3]。



ディスプレイ ヒンジの取り付け

手順

1. ヒンジとブラケットのネジ穴をディスプレイ背面カバーとアンテナ アセンブリーのネジ穴に合わせます [1]。
2. ヒンジをディスプレイ背面カバーとアンテナ アセンブリーに固定している2本のネジ (M2x2) と8本のネジ (M2.5x2.5) を取り付けます [2、3]。



次の手順

1. モニター パネルを取り付けます。
2. ディスプレイ ベゼルを取り付けます。
3. ディスプレイ アセンブリーを取り付けます。
4. WLAN を取り付けます。
5. バッテリー ケーブルを接続します。
6. ベース カバーを取り付けます。
7. SD カードを取り付けます。
8. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います

ディスプレイケーブル

モニター ケーブルの取り外し

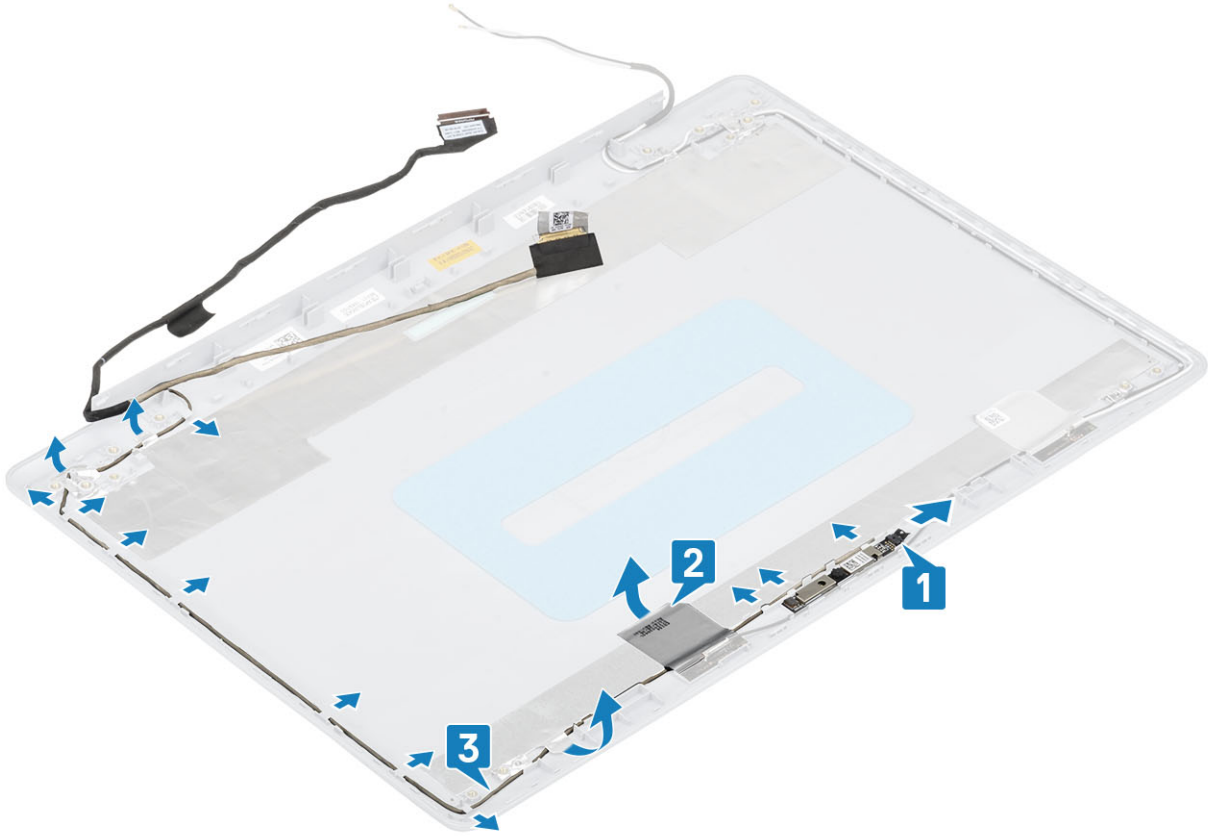
前提条件

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SD カードを取り出します。
3. ベースカバーを取り外します。
4. バッテリー ケーブルを外します
5. WLAN を取り外します。
6. システム ファンを取り外します。
7. ヒートシンクを取り外します。
8. ディスプレイ アセンブリーを取り外します。
9. ディスプレイ ベゼルを取り外します
10. モニター パネルを取り外します

11. ディスプレイ ヒンジを取り外します。

手順

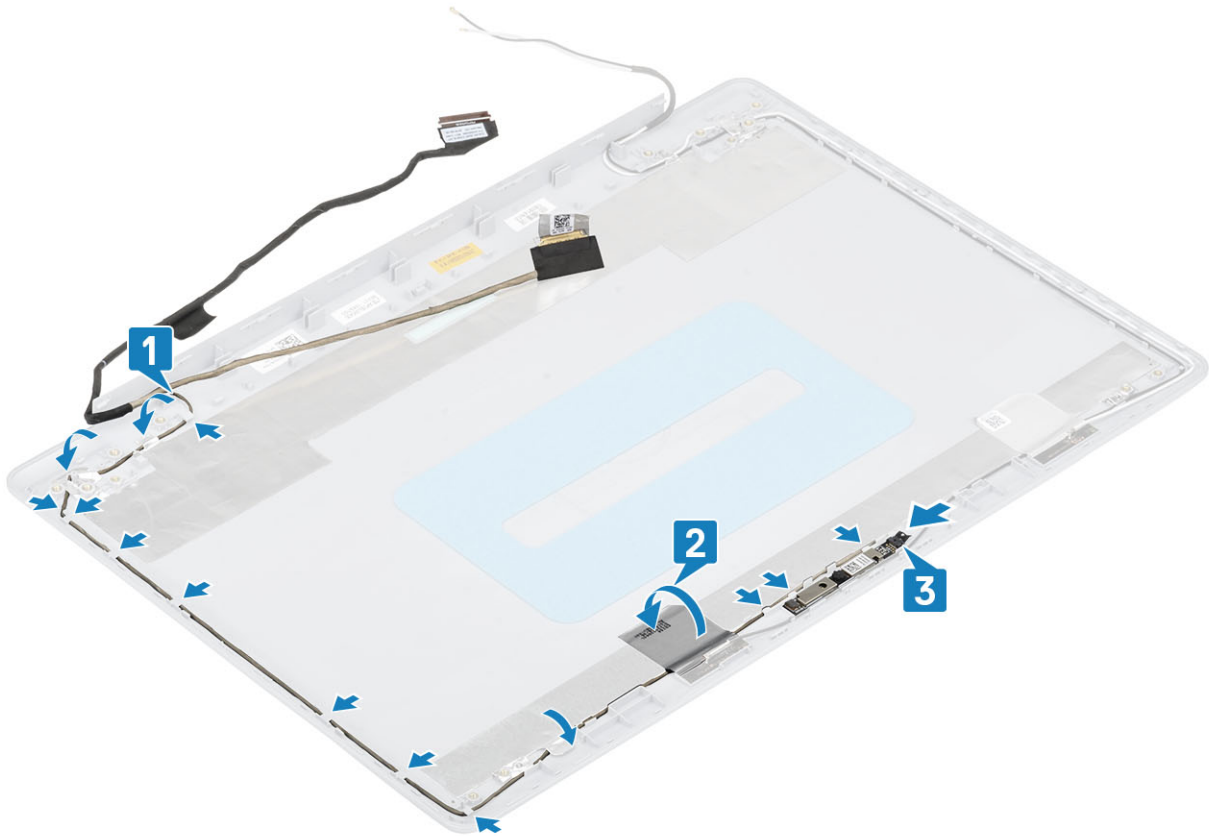
1. カメラモジュールからカメラケーブルを外します [1]。
2. カメラケーブルを固定している粘着テープをはがします [2]。
3. カメラケーブルとモニターケーブルを持ち上げて、ディスプレイ背面カバーとアンテナアセンブリーから取り外します [3]。



モニターケーブルの取り付け

手順

1. モニターケーブルとカメラケーブルをディスプレイ背面カバーとアンテナアセンブリーにセットします [1]。
2. カメラケーブルを固定する粘着テープを貼ります [2]。
3. モニターケーブルとカメラケーブルをディスプレイ背面カバーとアンテナアセンブリーの配線ガイドに沿って配線します [3]。



次の手順

1. カメラを取り付けます。
2. ディスプレイ ヒンジを取り付けます。
3. モニター パネルを取り付けます。
4. ディスプレイ ベゼルを取り付けます。
5. ディスプレイ アセンブリーを取り付けます。
6. WLAN を取り付けます。
7. バッテリー ケーブルを接続します。
8. ベース カバーを取り付けます。
9. SD カードを取り付けます。
10. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います

ディスプレイ背面カバーとアンテナアセンブリ

ディスプレイ背面カバーの取り外し

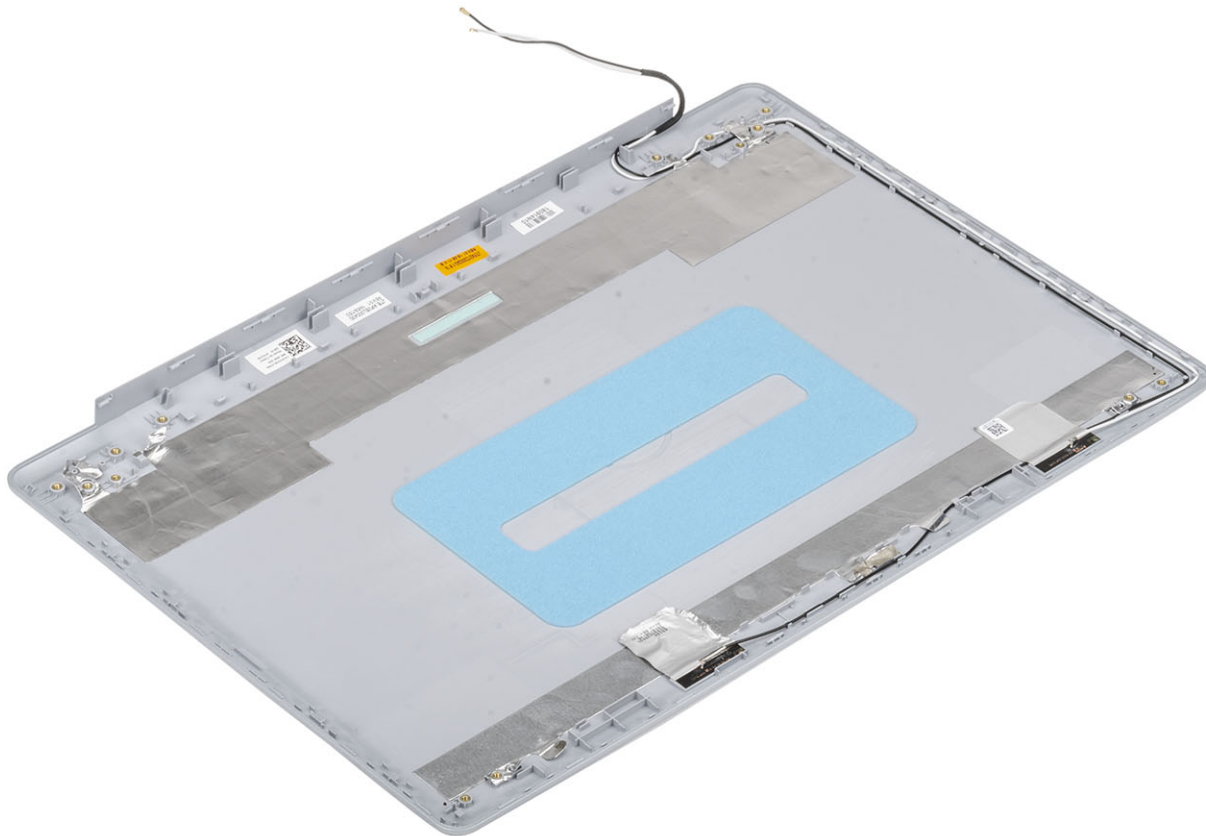
前提条件

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SD カードを取り出します。
3. ベースカバーを取り外します。
4. バッテリー ケーブルを外します
5. WLAN を取り外します。
6. システム ファンを取り外します。
7. ヒートシンクを取り外します。
8. ディスプレイ アセンブリーを取り外します。
9. ディスプレイ ベゼルを取り外します

10. モニター パネルを取り外します
11. カメラを取り外します
12. モニター ケーブルを取り外します

このタスクについて

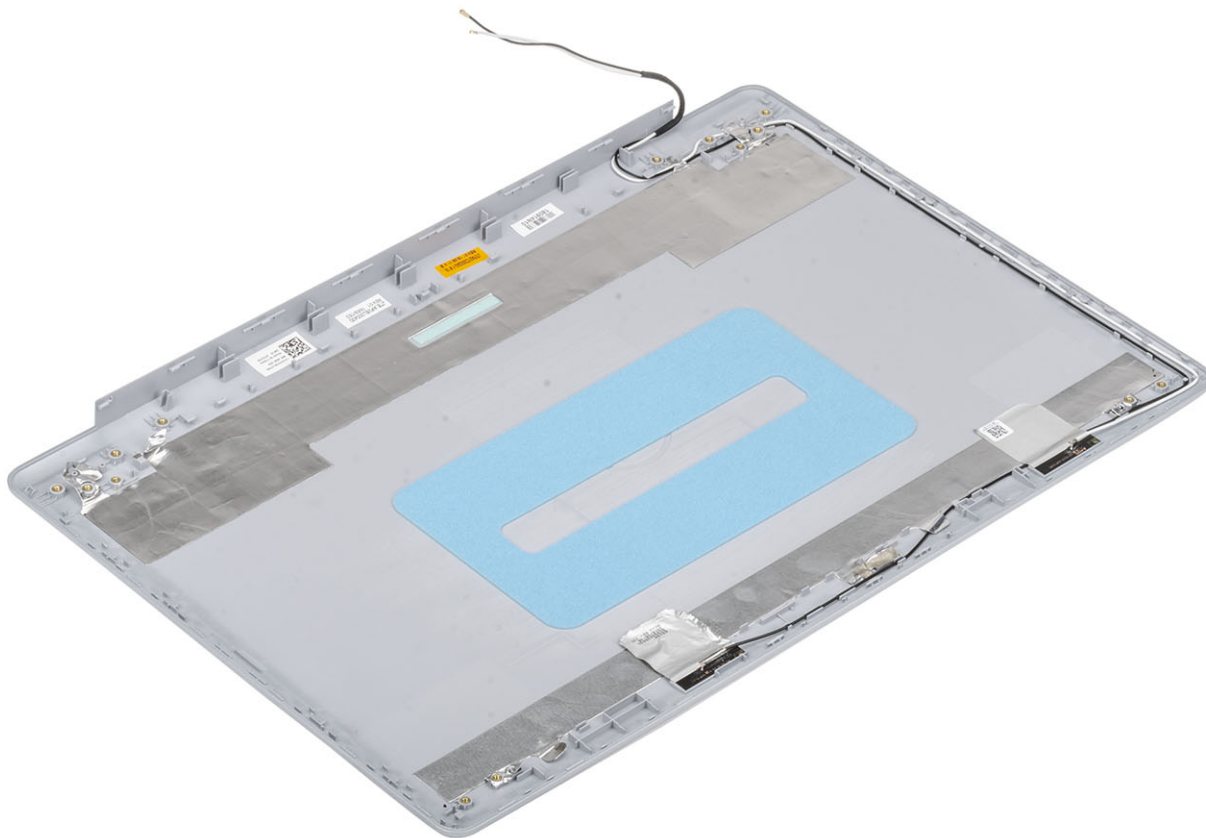
前述の手順をすべて実行すると、ディスプレイ背面カバーが残ります。



ディスプレイ背面カバーの取り付け

このタスクについて

ディスプレイ背面カバーを清潔で平らな場所に置きます。



次の手順

1. モニターケーブルを取り付けます。
2. カメラを取り付けます。
3. ディスプレイヒンジを取り付けます。
4. モニターパネルを取り付けます。
5. ディスプレイベゼルを取り付けます。
6. ディスプレイアセンブリを取り付けます。
7. WLANを取り付けます。
8. バッテリーケーブルを接続します。
9. ベースカバーを取り付けます。
10. SDカードを取り付けます。
11. 「コンピューター内部の作業を終えた後に」の手順に従います。

パームレストとキーボードアセンブリ

パームレストとキーボードアセンブリの取り外し

前提条件

1. 「コンピューター内部の作業を始める前に」の手順に従います。
2. SDカードを取り出します。
3. ベースカバーを取り外します。

4. バッテリー ケーブルを外します
5. メモリー モジュールを取り外します
6. WLAN を取り外します。
7. スピーカーを取り外します。
8. コイン型電池を取り外します。
9. ハードドライブアセンブリーを取り外します。
10. システム ファンを取り外します。
11. ヒートシンクを取り外します。
12. ディスプレイ アセンブリーを取り外します。
13. 電源ボタン ボードを取り外します。
14. 電源ボタンを取り外します。
15. ディスプレイ ベゼルを取り外します
16. モニター パネルを取り外します
17. ディスプレイ ヒンジを取り外します。
18. システム基板を取り外します。

このタスクについて

前述の手順を実行すると、パームレストとキーボード アセンブリーが残ります。



トラブルシューティング

ePSA (強化された起動前システムアセスメント) 診断

このタスクについて

ePSA 診断 (システム診断とも呼ばれる) ではハードウェアの完全なチェックを実行します。ePSA は BIOS に組み込まれており、BIOS によって内部で起動します。組み込み型システム診断プログラムには、特定のデバイスまたはデバイスグループ用の一連のオプションが用意されており、以下の処理が可能です。

- ・ テストを自動的に、または対話モードで実行
- ・ テストの繰り返し
- ・ テスト結果の表示または保存
- ・ 詳細なテストで追加のテストオプションを実行し、障害の発生したデバイスに関する詳しい情報を得る
- ・ テストが問題なく終了したかどうかを知らせるステータスメッセージを表示
- ・ テスト中に発生した問題を通知するエラーメッセージを表示

① メモ: 特定のデバイスについては、ユーザーによる操作が必要なテストもあります。診断テストを実行する際は、コンピューター端末の前に必ずいるようにしてください。

ePSA 診断の実行

手順

1. コンピューターの電源を入れます。
2. コンピューターが起動し、Dell のロゴが表示されたら <F12> キーを押します。
3. 起動メニュー画面で、**診断** オプションを選択します。
4. 左下隅にある矢印をクリックします。
診断のトップページが表示されます。
5. 右上隅にある矢印をクリックして、ページのリストに移動します。
検知されたアイテムが一覧表示されます。
6. 特定のデバイスで診断テストを実行するには、<Esc> を押して **はい** をクリックし、診断テストを中止します。
7. 左のパネルからデバイスを選択し、**テストの実行** をクリックします。
8. 問題がある場合、エラーコードが表示されます。
エラーコードと検証番号をメモしてデルに連絡してください。

システム診断ライト

バッテリーステータスライト

電源およびバッテリー充電ステータスを示します。

白色 — 電源アダプタが接続され、バッテリーの充電量は 5% 以上です。

橙色 — コンピューターがバッテリーで動作しており、バッテリーの充電量は 5% 未満です。

消灯

- ・ 電源アダプタが接続されバッテリーがフル充電されています。
- ・ コンピューターがバッテリーで動作しており、バッテリーの充電量が 5% 以上です。
- ・ コンピューターがスリープ状態、休止状態、または電源オフです。

電源およびバッテリーステータスライトが障害を示すビープコードと合わせて橙色に点滅します。

例えば、電源およびバッテリーステータスライトが、橙色に2回点滅して停止し、次に白色に3回点滅して停止します。この2,3のパターンは、コンピュータの電源が切れるまで続き、メモリまたはRAMが検出されないことを示しています。

次の表には、さまざまな電源およびバッテリーステータスライトのパターンと関連する問題が記載されています。

表 4. LED コード

診断ライト コード	問題の内容
2,1	プロセッサの不具合
2,2	システム基板：BIOS または ROM (読み取り専用メモリ) の障害です
2,3	メモリまたはRAM (ランダム アクセス メモリ) が検出されません
2,4	メモリまたはRAM (ランダム アクセス メモリ) の障害です
2,5	無効なメモリが取り付けられています
2,6	システム基板またはチップセットのエラーです
2,7	ディスプレイの障害です
2,8	LCD 母線の障害です。システム基板の取り付け
3,1	コイン型電池の障害です
3,2	PCI、ビデオカード/チップの障害です
3,3	リカバリイメージが見つかりません
3,4	検出されたリカバリイメージは無効です
3,5	母線の障害です
3,6	システム BIOS のフラッシュが不完全です
3,7	ME (Management Engine) のエラーです

カメラステータスライト：カメラが使用されているかどうかを示します。

- ・ 白色 — カメラが使用中です。
- ・ 消灯 — カメラは使用されていません。

キャップスロックステータスライト：キャップスロックが有効か、それとも無効かを示します。

- ・ 白色 — キャップスロックが有効です。
- ・ 消灯 — キャップスロックが無効です。

BIOS のフラッシュ (USB キー)

手順

1. BIOS のフラッシュ」の手順1から7に従って、最新の BIOS セットアップ プログラム ファイルをダウンロードします。
2. 起動可能な USB ドライブを作成します。詳細については、www.dell.com/support でナレッジベース記事 [SLN143196](#) を参照してください。
3. BIOS セットアップ プログラム ファイルを起動可能な USB ドライブにコピーします。
4. 起動可能な USB ドライブを BIOS のアップデートを必要とするコンピューターに接続します。
5. コンピュータを再起動し、デルのロゴが画面に表示されたら **F12** を押します。
6. **1 回限りの起動メニュー**から USB ドライブを起動します。
7. BIOS セットアップ プログラムのファイル名を入力し、**Enter** を押します。
8. **BIOS アップデート ユーティリティ**が表示されます。画面の指示に従って、BIOS のアップデートを完了します。

BIOS のフラッシュ

このタスクについて

更新がある場合やシステム基板を取り付けるときに BIOS のフラッシュ (更新) を行う必要があります。

次の手順に従って、BIOS のフラッシュを行います。

手順

1. コンピュータの電源を入れます。
2. www.dell.com/support にアクセスします。
3. **Product Support (製品サポート)** をクリックし、お使いのコンピュータのサービスタグを入力して、**Submit (送信)** をクリックします。
メモ: サービスタグがない場合は、自動検出機能を使用するか、お使いのコンピュータのモデルを手動で参照してください。
4. **Drivers & downloads (ドライバとダウンロード) > Find it myself (自分で検索)** をクリックします。
5. お使いのコンピュータにインストールされているオペレーティングシステムを選択します。
6. ページを下にスクロールして、**BIOS** を展開します。
7. **Download (ダウンロード)** をクリックして、お使いのコンピュータの BIOS の最新バージョンをダウンロードします。
8. ダウンロードが完了したら、BIOS アップデートファイルを保存したフォルダに移動します。
9. BIOS アップデートファイルのアイコンをダブルクリックし、画面に表示される指示に従います。

バックアップメディアと回復オプション

Windows で発生する可能性がある問題のトラブルシューティングと修正のために、リカバリドライブを作成することが推奨されています。デルでは、Dell PC の Windows オペレーティングシステムをリカバリするために、複数のオプションを用意しています。詳細に関しては「[デルの Windows バックアップメディアおよびリカバリオプション](#)」を参照してください。

Wi-Fi 電源の入れ直し

このタスクについて

お使いのコンピューターが Wi-Fi 接続の問題が原因でインターネットにアクセスできない場合は、Wi-Fi 電源の入れ直し手順を実施することができます。次に、Wi-Fi 電源の入れ直しの実施方法についての手順を示します。

メモ: 一部の ISP (インターネット サービス プロバイダ) はモデム/ルータ コンボ デバイスを提供しています。

手順

1. コンピュータの電源を切ります。
2. モデムの電源を切ります。
3. ワイヤレス ルータの電源を切ります。
4. 30 秒待ちます。
5. ワイヤレス ルータの電源を入れます。
6. モデムの電源を入れます。
7. コンピュータの電源を入れます。

待機電力の放出

このタスクについて

待機電力とは、コンピュータの電源をオフにしてバッテリーを取り外した後もコンピュータに残っている余分な静電気のことを指します。次の手順は、待機電力の放出方法を説明したものです。

手順

1. コンピュータの電源を切ります。
2. 電源アダプタをコンピュータから外します。
3. 電源ボタンを 15 秒間長押しして、待機電力を逃がします。
4. 電源アダプタをコンピュータに接続します。
5. コンピュータの電源を入れます。

トピック：

- ・ [デルへのお問い合わせ](#)

デルへのお問い合わせ

前提条件

- ① **メモ:** お使いのコンピュータがインターネットに接続されていない場合は、購入時の納品書、出荷伝票、請求書、またはデルの製品カタログで連絡先をご確認ください。

このタスクについて

デルでは、オンラインまたは電話によるサポートとサービスのオプションを複数提供しています。サポートやサービスの提供状況は国や製品ごとに異なり、国/地域によってはご利用いただけないサービスもございます。デルのセールス、テクニカルサポート、またはカスタマーサービスへは、次の手順でお問い合わせいただけます。

手順

1. [Dell.com/support](https://www.dell.com/support) にアクセスします。
2. サポートカテゴリを選択します。
3. ページの下部にある **国/地域の選択** ドロップダウンリストで、お住まいの国または地域を確認します。
4. 必要なサービスまたはサポートのリンクを選択します。